

ラオス国
ルアンプラバン観光開発
情報収集・確認調査

最終報告書

平成 28 年 3 月
(2016 年)

独立行政法人
国際協力機構 (JICA)

日本工営株式会社

東大
JR
16-014

ラオス国
ルアンプラバン観光開発
情報収集・確認調査

最終報告書

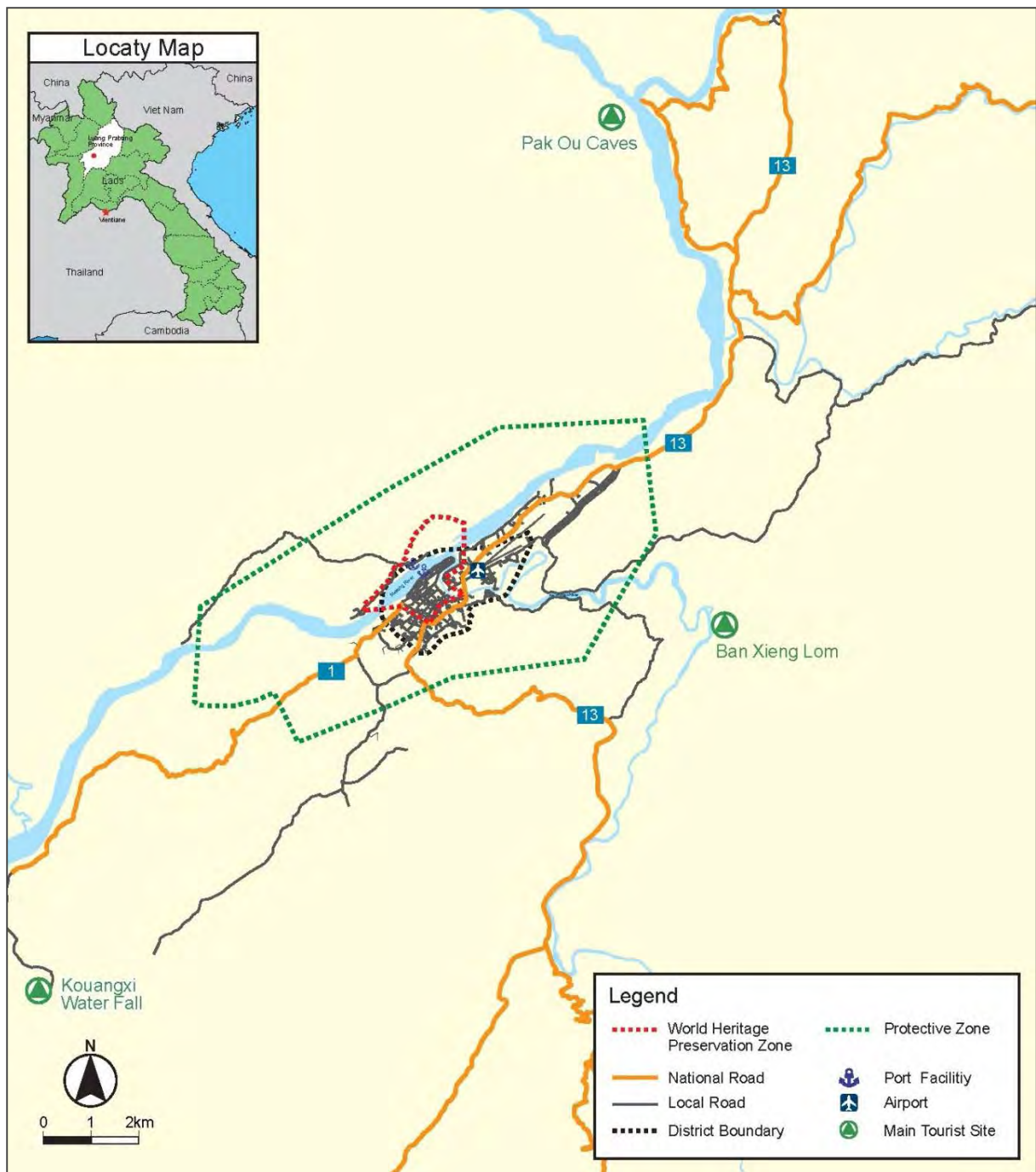
平成 28 年 3 月
(2016 年)

独立行政法人
国際協力機構 (JICA)

日本工営株式会社



位置図 ルアンプラバン県



位置図 ルアンプラバン観光ゾーン



位置図 UNESCO 世界遺産地区及び周辺地区

ラオス国
ルアンプラバン観光開発 情報収集・確認調査
最終報告書
目 次

プロジェクトサイト位置図
略語表

第1章	調査の概要.....	1-1
1.1	調査の目的.....	1-1
1.1.1	背景.....	1-1
1.1.2	目的.....	1-1
1.1.3	調査対象地域.....	1-1
1.2	調査の方法.....	1-3
1.2.1	ヒアリング.....	1-3
1.2.2	文献収集.....	1-3
1.2.3	ワークショップ・フォーカルグループディスカッション・セミナー.....	1-3
1.2.4	本邦招聘.....	1-4
1.3	調査の工程.....	1-4
第2章	ラオスの概要.....	2-1
2.1	ラオスの概観.....	2-1
2.2	ラオスの政策・開発計画.....	2-2
第3章	ラオス及びルアンプラバン観光の現況.....	3-1
3.1	観光客数の動向.....	3-1
3.1.1	全国.....	3-1
3.1.2	ルアンプラバン県.....	3-2
3.2	観光開発政策.....	3-4
3.2.1	ラオス国観光戦略 2006-2020 (Lao PDR Tourism Strategy 2006-2020).....	3-4
3.2.2	ルアンプラバン観光開発及びマーケティング戦略計画 2011-2020 (Luang Prabang Tourism Development and Marketing Strategy Plan (2011-2020)).....	3-7
3.3	観光資源.....	3-8
3.3.1	ルアンプラバン県主要部の観光資源.....	3-8
3.3.2	ルアンプラバン県内のその他の観光資源 (ゴイ郡).....	3-11
3.4	観光商品.....	3-12
3.4.1	ルアンプラバン県主要部の観光商品.....	3-12
3.4.2	ルアンプラバン県内のその他の観光商品 (ゴイ郡).....	3-14
第4章	観光関連インフラの現況.....	4-1
4.1	道路・交通.....	4-1
4.1.1	道路・交通の現況.....	4-1
4.1.2	道路・橋梁の既存計画.....	4-7
4.2	上下水道.....	4-8
4.2.1	上水道.....	4-8
4.2.2	下水道.....	4-16
4.3	洪水・排水.....	4-17
4.3.1	気象・水文概況.....	4-17
4.3.2	洪水.....	4-18

4.3.3	河岸利用	4-20
4.3.4	排水	4-22
4.4	廃棄物	4-26
4.4.1	ゴミ収集	4-26
4.4.2	廃棄物処分場	4-27
4.5	保全対象建物の保全状況	4-28
第5章	ルアンプラバン観光開発の課題	5-1
5.1	課題整理の方法	5-1
5.2	観光開発の SWOT	5-1
5.3	主要インフラ整備の需要	5-2
5.3.1	インフラの重点分野	5-2
5.3.2	事業形成時からの UNESCO との協調	5-5
5.3.3	HIA (Heritage Impact Assessment) の実施	5-5
5.4	人材育成に関する課題	5-6
5.4.1	観光業における人材育成に関する課題	5-6
5.4.2	行政における人材育成に関する課題	5-6
5.5	歴史的遺産保護地区内の建築物への影響に係る課題	5-6
5.6	対象地域内の文化・風俗、自然環境に係る課題	5-7
5.7	社会経済構造への影響に係る課題	5-7
5.8	生活向上の実現に係る課題	5-7
5.9	将来的なマーケティングの課題	5-8
第6章	我が国支援の現況	6-1
6.1	我が国が取り組むべき主要開発課題・援助方針	6-1
6.2	ルアンプラバン観光開発関連の支援	6-2
第7章	観光開発に係る国際機関の支援	7-1
7.1	UNESCO 世界遺産事務所の位置付け	7-1
7.2	ADB	7-1
7.3	AFD (フランス)	7-4
7.4	ルクセンブルグ	7-5
7.5	国際機関との連携の可能性	7-6
7.6	その他	7-6
第8章	観光開発のコンセプト・戦略(案)	8-1
8.1	観光開発のコンセプト・戦略の考え方	8-1
8.2	ルアンプラバン観光開発のコンセプト	8-1
8.3	ルアンプラバン観光開発の戦略	8-3
第9章	観光開発関連のプロジェクト (ロングリスト)	9-1
9.1	観光開発関連プロジェクト整理の考え方	9-1
9.2	ロングリストの構成	9-1
9.3	観光振興	9-2
9.4	道路・交通	9-5
9.5	都市サービス	9-11
9.6	観光開発支援における期待される効果	9-14
9.6.1	観光客数への貢献	9-15
9.6.2	観光収入への貢献	9-15
9.7	観光開発における案件の整理	9-16
9.7.1	案件選定・整理の方法	9-16
9.7.2	総合的な観光開発	9-16

9.7.3	観光開発における技術支援	9-18
9.7.4	セクター別の優先案件	9-19
第 10 章	招聘	10-1
10.1	背景と目的	10-1
10.2	招聘内容	10-1
10.3	関連機関との協議結果	10-2
10.3.1	JICA 本部	10-2
10.3.2	一般社団法人日本旅行業協会	10-2
10.3.3	高山市	10-3
10.3.4	白川村（白川郷）	10-4
10.4	セミナー	10-4
10.5	ラオス側の我が国支援に係る意向の確認	10-6
第 11 章	協力実施上の留意点	11-1
11.1	協力実施上の留意点のまとめ方	11-1
11.2	我が国支援方針との整合性	11-1
11.3	UNESCO 世界遺産価値の維持	11-1
11.4	観光セクターの目標達成のための支援の総合的な実施	11-2
11.5	観光客増加によるネガティブインパクトへの配慮	11-2
11.6	実施体制の構築	11-2
11.7	本邦招聘を踏まえた留意点	11-3
第 12 章	結論・提言	12-1
12.1	結論	12-1
12.2	提言	12-1
添付資料-1	A-1
添付資料-2	A-5
添付資料-3	A-9

図目次

図 1.1.1	UNESCO 世界遺産地区及び周辺地区	1-2
図 1.1.2	ルアンプラバン観光ゾーン	1-2
図 1.1.3	ムアンゴイ/ノンキアウ観光ゾーン	1-2
図 3.1.1	ラオス国における外国人観光客数の推移	3-1
図 3.1.2	ルアンプラバン県における外国人観光客数の推移	3-3
図 3.2.1	『ラオス国観光戦略 2006－2020』の構成	3-6
図 3.2.2	『ルアンプラバン観光開発及びマーケティング戦略計画 2011－2020』の構成	3-7
図 3.3.1	ルアンプラバン県主要部の観光資源	3-9
図 3.3.2	ルアンプラバン県主要部の観光資源の現況	3-10
図 3.3.3	ルアンプラバン県内のその他の観光資源	3-11
図 3.3.4	ムアンゴイの観光資源の現況	3-12
図 3.4.1	ルアンプラバン中心部の観光資源例	3-13
図 3.4.2	日本人ツアー客向けの典型的な商品例に含まれる観光資源	3-13
図 4.1.1	EV トゥクトゥクのルート	4-3
図 4.1.2	ルアンプラバン県の自動車登録台数の経年変化	4-6
図 4.1.3	国道 4 号線 B 及び連結道路の計画路線	4-7
図 4.2.1	Phou Phueng WTP	4-9
図 4.2.2	Namkhan (Phanom) WTP	4-10
図 4.2.3	Souohanvong WTP	4-10
図 4.2.4	Asia Nampapa Luang Prabang Company WTP	4-11
図 4.2.5	給水施設マスタープランによる水需要と施設能力	4-12
図 4.2.6	給水施設マスタープランによる既存施設の改善事業	4-13
図 4.2.7	給水施設マスタープランによる拡張事業(Phase1,2,3)	4-14
図 4.2.8	ルアンプラバン消防設備	4-15
図 4.2.9	消防設備の事例	4-15
図 4.2.10	防火訓練の事例	4-16
図 4.2.11	下水道施設の現状	4-16
図 4.2.12	分散型污水处理設備の概要図	4-17
図 4.3.1	降雨および気温（1983～2012）	4-18
図 4.3.2	メコン河の水位（1983～2012）	4-18
図 4.3.3	メコン河の河川水位観測所	4-18
図 4.3.4	2008 年の浸水状況	4-19
図 4.3.5	メコン河の毎年最高水位（1983～2012）	4-19
図 4.3.6	既存レストラン等の例	4-21
図 4.3.7	公園、駐車場および歩道の整備計画	4-22
図 4.3.8	排水下水マスタープランの対象地域	4-23
図 4.3.9	世界遺産地区（Zone I-A, Zone I-B）および周辺の中小河川	4-25
図 4.3.10	雨水排水の問題点	4-26
図 4.4.1	廃棄物処分場の位置図	4-27
図 4.4.2	廃棄物処分場の現状	4-27
図 5.2.1	ルアンプラバン県観光分野の SWOT 分析	5-1
図 7.3.1	ルアンプラバン世界遺産地区における AFD の支援実績例	7-5
図 8.1.1	ルアンプラバン観光開発の方向性・戦略の考え方	8-1
図 8.2.1	ルアンプラバン観光開発のコンセプト	8-3
図 9.4.1	道路・交通プロジェクトのロングリスト（1－9 番、12 番の事業）	9-7
図 9.4.2	道路・交通プロジェクトのロングリスト（13 番を除く 10－15 番の事業）	9-7
図 9.6.1	観光客増トレンドと目標値	9-15
図 10.3.1	高山市中心部の視察の様子	10-3
図 10.3.2	白川村の視察の様子	10-4
図 10.4.1	セミナー出席者の所感	10-6

表目次

表 1.2.1	ヒアリング概要.....	1-3
表 1.2.2	ワークショップ・フォーカルグループディスカッション・セミナー概要.....	1-3
表 1.3.1	第1次現地調査工程.....	1-5
表 1.3.2	第2次現地調査工程.....	1-6
表 1.3.3	本邦招聘工程.....	1-6
表 2.2.1	第7次 NSEDP の概要	2-2
表 2.2.2	第8次 NSEDP の概要	2-3
表 3.1.1	ラオス国における地域別・国別外国人観光客数の推移	3-2
表 3.1.2	ルアンプラバン県における地域別・国別外国人観光客数の推移	3-4
表 3.2.1	ルアンプラバン県におけるチョンペット郡・ゴイ郡の位置づけ	3-8
表 4.1.1	自動車登録台数の経年変化	4-5
表 4.2.1	ルアンプラバン郡給水施設マスタープランの概要(計画フレーム).....	4-11
表 4.2.2	ルアンプラバン郡給水施設マスタープランの事業概要	4-12
表 4.3.1	排水下水マスタープランの対象地域	4-23
表 4.3.2	排水下水マスタープランの概要	4-24
表 4.5.1	保全区 (ZPP) 及び周辺区 (Buffer Zone) に関する開発規制基準及び責任機関	4-28
表 6.1.1	各重点分野の開発課題とプログラム	6-1
表 6.1.2	JICA が取り組むべき主要開発課題.....	6-1
表 6.2.1	LPP の概要	6-3
表 6.2.2	水道公社事業管理能力向上プロジェクトの概要	6-3
表 6.2.3	Pilot Study for the Project Formulation for Luang Prabang Tourism Sector Development Project の概要.....	6-5
表 7.2.1	プロジェクトの概要 (フェーズ 1)	7-1
表 7.2.2	プロジェクトの概要 (フェーズ 2)	7-2
表 7.2.3	プロジェクトの概要 (フェーズ 3)	7-3
表 7.2.4	プロジェクトコスト	7-3
表 7.2.5	実施体制.....	7-4
表 7.3.1	AFD によるルアンプラバン支援プロジェクト (PADUL)	7-5
表 7.6.1	観光関連施設建設.....	7-6
表 8.2.1	6つのキーワードとその解釈.....	8-2
表 8.3.1	ルアンプラバン世界遺産地区及び周辺地区における重点分野と戦略・キーワードとの関係.....	8-3
表 9.3.1	観光振興分野のロングリスト	9-3
表 9.4.1	道路・交通プロジェクトのロングリスト	9-5
表 9.5.1	都市サービスプロジェクトのロングリスト	9-11
表 10.4.1	セミナーの概要 (平成 28 年 2 月 19 日)	10-5
表 10.4.2	セミナープログラム	10-5
表 10.5.1	招聘者の所感 (平成 28 年 2 月 19 日)	10-7

略語集

ACCSTP	ASEAN Common Competency Standard for Tourism Professionals	ASEAN 観光人材共通職能基準
ADB	Asian Development Bank	アジア開発銀行
AFD	Agence française de Développement	フランス開発庁
AIESC	ASEAN Initiative for ESC (Environmentally Sustainable Cities)	ESC のためのアセアンイニシアティブ
ATMS	ASEAN Tourism Marketing Strategy	ASEAN 観光マーケティング戦略
CBT	Community-Based Tourism	コミュニティベースツーリズム
CD	Capacity Development	能力強化
DHUP	Department of Housing and Urban Planning	ルアンプラバン県住宅都市計画局
DICT	Department of Information, Culture and Transport	ルアンプラバン県情報・文化・観光局
DONRE	Department of Natural Resource and Environment	ルアンプラバン県天然資源環境局
DPWT	Department of Public Works and Transport	ルアンプラバン県公共事業運輸局
ESC	Environmentally Sustainable Cities	環境的に持続的な都市
EV	Electric Vehicle	電気自動車
F&B	Food and Beverage	(宿泊施設等の) 飲食担当部署
FAM Tour	Familiarization Tour	業界関係者を対象とした現地訪問ツアー
FIT	Free Individual Tour (Foreign Independent Tour)	個人旅行 (海外個人旅行)
GDP	Gross Domestic Product	国内総生産
GNP	Gross National Product	国民総生産
HIA	Heritage Impact Assessment	遺産影響評価
HRD	Human Resource Development	人材育成
ICOMOS	International Council on Monuments and Sites	国際記念物遺産会議
JICA	Japan International Cooperation Agency	日本国際協力機構
LAK	Laos Kip	ラオスキープ (通貨)
LDC	Least Developed Country	後発開発途上国
LPWSE	Luang Prabang Water Supply State Enterprise	ルアンプラバン県水道公社
LNF	Lao National Front	ラオス国民戦線
LWU	Laos Women's Union	ラオス女性連盟
MDGs	The Millennium Development Goals	ミレニアム開発目標
MICT	Ministry of Information, Culture and Tourism	情報・文化・観光省 (ラオス国)
MOF	Ministry of Finance	財務省 (ラオス国)
MONRE	Ministry of Natural Resource and Environment	天然資源環境省 (ラオス国)
MPI	Ministry of Planning and Investment	計画投資省 (ラオス国)
MPWT	Ministry of of Public Works and Transport	公共事業運輸省 (ラオス国)
NEDA	Neighbouring Countries Economic Development Cooperation Agency	周辺諸国経済開発協力機構
NSEDP	National Socio-Economic Development Plan	国家社会経済開発計画
ODA	Official Development Assistance	政府開発援助
PCU	Project Coordinating Unit	プロジェクト調整機関
PIU	Project Implementation Unit	プロジェクト実施機関
PPP	Public-Private Partnership	官民提携
PSMV	Plan de Sauvegarde et de Mise en Valeur	遺産固有の価値や遺跡保護のガイドライン
REDD	Reducing emissions from deforestation and forest degradation	森林減少・森林劣化に由来する排出の抑制
SWOT	Strengths, Weaknesses, Opportunities, and Threats	SWOT分析 (強み・弱み・機会・脅威の分析)
UHC	Universal Health Coverage	ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ
UXO	Unexploded Ordnance	不発弾
UNESCO	United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization	国際連合教育科学文化機関
WTP	Water Treatment Plant	水処理プラント
3R	Reduce, Reuse, Recycle	ゴミの発生抑制、再利用、再資源化

第1章 調査の概要

1.1 調査の目的

1.1.1 背景

第7次社会経済開発計画（2011年－2015年）及び国家観光開発戦略（2006年－2020年）では、ラオス特有の文化・自然資源を活用した観光商品の多様化、ルアンプラバン世界遺産地区の文化遺産保全、ラオス観光の質的向上、関係者への教育・訓練、観光を通じた地域コミュニティへの裨益促進等が謳われている。

ルアンプラバン世界遺産地区は、伝統的な建築様式とヨーロッパ調のコロニアル建築様式が融合した美しい町として、1995年にUNESCOにより世界遺産に登録された。以降、各種メディアに取り上げられ、世界観光ランキングで首位を獲得した他、2014年には「ASEAN環境的に持続可能な都市」として表彰されるなど、環境に配慮しながら開発を推進してきた。

一方、これまでのルアンプラバン県の観光開発における関係機関からのニーズ調査から、道路や橋梁の改修、電線類の地中化、排水処理、上水道施設拡張、護岸工事、消火設備の整備、建築物の補修が課題として挙げられており、UNESCOの協力により設定された「ルアンプラバンにおける遺産固有の価値や遺跡保護のガイドライン（PSMV：Sauvegarde et de Mise en Valeur, 2001）」に沿って、地域住民や周辺地域への裨益も念頭に入れ、観光開発、インフラ整備を進めることが求められている。

ラオスにおける観光セクターのGDP貢献度は、サービス業の16%ではあるものの、近年の観光客増加により一層の外貨獲得源となり得るため、ラオスの持続的成長の一翼を担うことになり、本件事業協力の意義は極めて高いと考えられる。

1.1.2 目的

本業務は、ラオスの観光業の現状を把握したうえで、世界遺産を有するルアンプラバン県を主たる対象に、世界遺産の保全と観光業の振興を通じて地域の開発を進めるため、その基盤となるインフラ整備を中心に、人材育成などのソフト面を含む今後の協力案件を検討するために必要な情報収集・確認及び協力案件の提案を行うことである。

1.1.3 調査対象地域

調査対象地域を含むルアンプラバン県はラオスの北部に位置し、山とメコン河に囲まれた、人口約46万人（2012年）（ラオス統計局）、面積16,875 km²（ラオス統計局）の県である。ルアンプラバン県は、観光資源と都市の特徴から大きく3つの地区に分類することができる。人口や観光資源は、歴史的遺産保護地区とそのバッファゾーンに集中している。

- ・ 世界遺産として登録されている、メコン河とカーン河に挟まれた半島になっている県の中心及びメコン河の対岸の緑地を含む歴史的遺産保護地区（約708.53ha）
- ・ 歴史的遺産保護地区を囲むように指定されたバッファゾーン(空港を含む)（12,563 ha）
- ・ 観光開発上重要な周辺地域

ルアンプラバン観光資源及び観光振興の観点から、上記3地区の分類に加えて、以下の地域分けを設定する。

- UNESCO世界遺産地区（歴史的遺産保護地区）及び周辺地区：世界遺産地区を中心にした地区。UNESCOの規制が最も厳しい地域。
- ルアンプラバン観光ゾーン：世界遺産地区、チョンペット（Chomphet郡）、サン・ハイ（Xang Hai）、タペネ（Thapene）等、ルアンプラバンの歴史、文化、自然環境の中心ゾーン。世界遺産地区の外を含むが、事業実施の際には、世界遺産地区への影響に配慮する必要がある地域。
- ムアンゴイ、ノンキアウゾーン：ルアンプラバン世界遺産地区の中心から北に約 130km に位置するゾーン。自然、文化観光を中心にルアンプラバン県の観光振興の第 2 の優先地域として位置づけられている。世界遺産の規制外地域。



図 1.1.1 UNESCO 世界遺産地区及び周辺地区

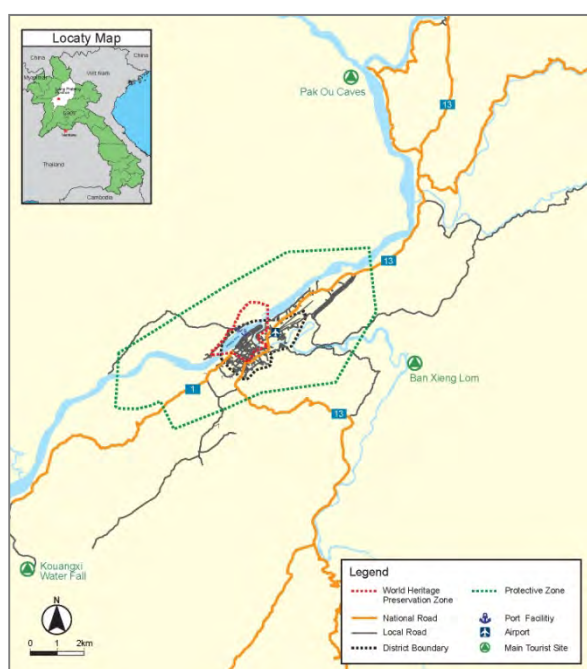


図 1.1.2 ルアンプラバン観光ゾーン



図 1.1.3 ムアンゴイ/ノンキアウ観光ゾーン

1.2 調査の方法

本情報収集・確認調査では、ヒアリング、文献収集、及びワークショップ・フォーカルグループディスカッションを通して情報収集及び意見交換を行った。これら情報収集の結果を踏まえ、観光開発の課題、我が国支援の案件候補、留意点をまとめる。

1.2.1 ヒアリング

現地調査では、ラオスの行政機関、民間機関、国際機関、UNESCO バンコク事務所に対してヒアリングを行った。ヒアリングの概要を下表に示す。

表 1.2.1 ヒアリング概要

ヒアリング先	ヒアリング内容
行政機関	<ul style="list-style-type: none"> 中央政府：ルアンプラバン観光開発の課題、ルアンプラバン観光開発に係る政策・計画 ルアンプラバン県政府：ルアンプラバン観光開発の課題、ルアンプラバン観光開発に係る計画、事業の提案
民間機関（協会、旅行者、等）	<ul style="list-style-type: none"> 観光の課題：行政との関係、観光客のニーズ、世界遺産保全の考え方 観光振興の考え方
国際機関	<ul style="list-style-type: none"> ルアンプラバン観光の課題 ルアンプラバン観光開発における支援 ドナー間の役割分担
UNESCO バンコク	<ul style="list-style-type: none"> ラオス側の遺産管理の現状 事業を実施する際の留意点 ラオス側から提案された事業に対する意見交換（遺産へのインパクト、HIAの必要性、事業実施の手順、等）

1.2.2 文献収集

ヒアリングに合わせて、文献（関連計画等）を収集するとともに、関連ホームページから情報を収集した。特に国際機関の活動については、国際機関ホームページから情報を収集した。

1.2.3 ワークショップ・フォーカルグループディスカッション・セミナー

ワークショップはルアンプラバン県と首都ビエンチャンで開催した。フォーカルグループディスカッションはルアンプラバン県で開催した。セミナーはビエンチャンで開催した。ワークショップ・フォーカルグループディスカッションの概要を下表に示す。

表 1.2.2 ワークショップ・フォーカルグループディスカッション・セミナー概要

協議	内容
ワークショップ (ルアンプラバン県)	<p>日時：7月16日、13:30～</p> <p>内容：観光開発の課題、観光開発コンセプト協議</p> <p>出席者：行政（観光局、遺産局、公共事業運輸局、他）、大学、ホテル協会、旅行会社協会</p> <p>主なコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光開発コンセプト：文化保全、グリーンシティ、ムアンゴイの観光開発、保健施設、河・公園

協議	内容
ワークショップ (首都ビエンチャン)	<p>日時：7月23日、13:30～</p> <p>内容：観光開発の課題、観光開発コンセプト、観光振興に係るラオス側提案、協議</p> <p>出席者：行政（情報・文化・観光省、公共事業運輸省、教育・スポーツ省（UNESCO事務局））、国際機関（ADB、ルクセンブルグ）、ホテル協会、旅行会社</p> <p>主なコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> アクセス道路、上下水道、廃棄物管理は重要である。 提案内容は総合的に検討されている。 他ドナーとの重複はない。
フォーカルグループディスカッション（ルアンプラバン県）	<p>日時：7月17日、9:30～</p> <p>内容：観光開発の課題、ニーズ、観光の地元への影響</p> <p>出席者：地元住民、ホテル、僧侶</p> <p>主なコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光についてはポジティブな意見が多かった。観光は雇用の機会創出に貢献している。 ラオスの生活の変化、文化の理解に懸念を示している（若者の服装（スカートをはかない等）、地域とお寺との関係、等）。 托鉢：問題の一部は食べ物の売り子（古い食べ物、法外値段の要求）。
ワークショップ (ルアンプラバン県)	<p>日時：10月2日、9:00～</p> <p>内容：観光開発コンセプト、キーワード、優先案件協議</p> <p>出席者：行政（観光局、遺産局、公共事業運輸局,他）、ホテル協会、旅行会社協会</p> <p>協議方法</p> <ul style="list-style-type: none"> グループディスカッションによるキーワード（保全、整備、品質、啓蒙、連携、創出）と観光振興との関連の協議 観光振興優先案件の協議
セミナー（首都ビエンチャン）	<p>日時：10月7日、9:30～</p> <p>内容：ルアンプラバンワークショップ結果報告、優先案件候補説明、協議</p> <p>出席者：行政（情報・文化・観光省、公共事業運輸省）、国際機関（ADB、ルクセンブルグ、AFD）、ルアンプラバン関係機関（副知事、DICT、遺産局、UDAA、DPWT）</p> <p>主なコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> 優先案件については同意する。 国際機関との連携を考える。

1.2.4 本邦招聘

ルアンプラバンと同じく1995年に世界遺産に登録され、歴史的建築物の保全等、類似点の多い白川郷・五箇山の合掌造り集落や、緑豊かな環境で文化財を保全しながら観光振興を進め、重要文化財を多く有する高山市への実査を通じた地域開発の好事例の確認、自治体との意見交換等を行う。

1.3 調査の工程

第1次現地調査は、7月8日から8月3日にかけて実施した。第1次現地調査の工程を下表に示す。

表 1.3.1 第1次現地調査工程

日順	月日	曜日	調査内容	移動等
1	7/8	水		首都ビエンチャン移動（渡辺、森尾）
2	7/9	木	09:00：JICA ラオス事務所 10:00：公共事業運輸省住宅都市計画局 14:00：情報・文化・観光省観光開発局	
3	7/10	金	09:00：ラオコンサルタント 11:00：AFD 14:00：ラオス UNESCO 事務局（教育・スポーツ省）	ルアンプラバン県移動（大島）
4	7/11	土		ルアンプラバン県移動（渡辺、森尾）
5	7/12	日		
6	7/13	月	09:00：ルアンプラバン観光局	ルアンプラバン県移動（森、中川）
7	7/14	火	09:00：ルアンプラバン観光局 10:30：ルアンプラバン副知事 14:00：ルアンプラバン公共事業運輸局	
8	7/15	水	9:00：ルアンプラバン県水道公社 11:00：遺産局 14:00：ルアンプラバン公共事業運輸局（道路）	
9	7/16	木	13:30：ワークショップ（ルアンプラバン県）	
10	7/17	金	8:30：現場視察(Chomphet)、村長ヒアリング 9:00：住民関係者協議（住民代表、女性、ホテル、僧侶） 午後：現場視察(Chomphet)	
11	7/18	土	現場視察：優先道路（DPWT 同伴） 現場視察：Xang Khong, Xang Lek, Xang Hai (Pak Ou cave), Thapene (Kuang Si water fall)	
12	7/19	日	現場視察：Muang Ngoi, Nong Kiaw	
13	7/20	月	9:00：UDAA 11:00：ルアンプラバン観光局 13:00：観光会社協会、商工会 15:00：DPWT：フェリー関連	東京移動（中川）
14	7/21	火	9:00：ルアンプラバン消防署 午前：ルアンプラバン観光局 午後：現場視察(河岸道路)	ルアンプラバン県移動（荻野） 首都ビエンチャン移動（渡辺）
15	7/22	水	9:00：UDAA 14:00：公共事業運輸省住宅都市計画局 15:00：DPWT：河岸整備関連	ビエンチャン移動（森尾）
16	7/23	木	10:00：ADB 13:30：ワークショップ（首都ビエンチャン）	
17	7/24	金	9:00：気象水文局 10:00：Dept of World Heritage 14:00：DPWT：交通セクター整備計画 14:00：UDAA	東京移動（森尾、大島）
18	7/25	土	午後：河岸・排水系統の現地踏査	
19	7/26	日		バンコク移動（渡辺） 東京移動（森）
20	7/27	月	15:00：UNESCO バンコク事務所 午前：河岸整備・景観保全対策の内容把握 午後：DPWT:河岸整備関連、現場視察 Thapene (Kuang Si water fall)	
21	7/28	火	午前：気象水文局、メコン川水位観測所視察 午後：気象水文資料の整理	東京移動（渡辺）
22	7/29	水	午前：UDAA 午後：排水系統の現地踏査	
23	7/30	木	午前：Dept of World Heritage、排水系統の現地踏査 午後：現地踏査結果の整理	

日順	月日	曜日	調査内容	移動等
24	7/31	金	午前：排水系統の現地踏査（UDAA 同行） 午後：現地踏査結果の整理	
25	8/1	土	午前：現場視察 Xang Hai (Pak Ou cave) 午後：現地踏査結果の整理	
26	8/2	日		
27	8/3	月	午前：現地踏査結果の整理	東京移動（荻野）

第2次現地調査は、9月29日から10月9日にかけて実施した。第2次現地調査の工程を下表に示す。

表 1.3.2 第2次現地調査工程

日順	月日	曜日	調査内容	移動等
1	9/29	火		首都ビエンチャン移動（渡辺、森尾）
2	9/29	水	09:00：JICA ラオス事務所 11:00：日本大使館	ルアンプラバン県移動（渡辺、森尾）
3	10/1	木	09:00：ルアンプラバン観光局 11:00：ルアンプラバン副知事	
4	10/2	金	09:00：ワークショップ	
5	10/3	土	10:00：観光協会、ホテル協会	
6	10/4	日	追加情報収集	
7	10/5	月	09:00：ルアンプラバン観光局 13:30：ルアンプラバン計画投資局	首都ビエンチャン移動（渡辺、森尾）
8	10/6	火	09:00：情報・文化・観光省観光開発局 15:30：公共事業運輸省住宅都市計画局	
9	10/7	水	09:30：ワークショップ	
10	10/8	木	追加情報収集（電話等による情報の確認、追加情報の依頼）	
11	10/9	金		東京移動（渡辺、森尾）

本邦招聘は、2月13日から2月20日にかけて実施した。本邦招聘の行程を下表に示す。

表 1.3.3 本邦招聘工程

日順	月日	曜日	調査内容	移動等
1	2/13	土		ラオス出発
2	2/14	日		東京着
3	2/15	月	10:00：JICA 本部 14:00：JATA 講義 15:30：東京大学講師による講義	
4	2/16	火	14:00：高山市視察 15:30：高山市役所との意見交換	高山移動
5	2/17	水	10:00：白川村視察 13:30：白川村役場（副村長表敬、保存財団等説明） 17:00：高山市長表敬	
6	2/18	木	移動、セミナー準備	東京着
7	2/19	金	10:00：セミナー 14:00：報告会（JICA 本部）	
8	2/20	土		ラオスへ移動

第2章 ラオスの概要

2.1 ラオスの概観¹

(1) 国概観

ラオスは、国土面積は約 24 万 km²（日本の本州とほぼ同面積）、人口及び 680 万人（人口密度は 28 人/km²）で、中国、ベトナム、カンボジア、タイ、ミャンマーの 5 か国に接している内陸国である。約 80 万人が首都ビエンチャンに居住している。国土のおよそ 8 割は標高 500～2,000m の山岳地帯であり、約 4 割は森林に覆われている。

実質 GDP 成長率は、2001 年以降は、鉱業開発や水力発電、建設投資に牽引され、7～8%と ASEAN 諸国でも高い成長率で推移しており、今後も鉱業開発や水力発電による成長が続くとみられる。しかし、一人当たり国民総所得（GNI）は 1,460 ドル（2013 年）と、ASEAN 諸国では、ミャンマー・カンボジアに次ぐ低い値である。さらに、MDGs（Millennium Development Goals：ミレニアム開発目標）の達成が困難な分野があり、貧困の地域・民族間格差の拡大がある等、課題も多い。また、産業構造は、GDP に占める農業の割合は減少している一方で、依然として農業人口は 7 割を占める。

(2) 政治状況

ラオスの政治状況を下表にまとめる。

① 内政	<ul style="list-style-type: none">1975 年の建国以来ラオス人民革命党による一党体制の人民民主共和制国家。党大会（5 年に 1 度開催）で国家運営の基本方針とともに、政治局や中央委員会の人事が決定。政治機構の構成員のほぼ全員が同党に所属。
② 外交	<ul style="list-style-type: none">全方位外交を基本としており、東南アジア諸国連合（ASEAN）には 1997 年に加盟、2013 年には世界貿易機構（WTO）に加盟。日本とは 2015 年で外交樹立 60 周年。

出典：ラオス JICA 国別分析ペーパー、2015 年、JICA

(3) 経済状況

ラオスの経済状況を下表にまとめる。

① 経済体制	1986 年に「新思考（チンタナカン・マイ）」政策を導入し、市場経済原理導入。
② 実体経済	<ul style="list-style-type: none">市場経済原理導入後、実質 GDP 成長率は、1990 年代は平均約 6.4%の伸びを記録し、2001 年以降は、鉱業開発や水力発電、建設投資に牽引され、ASEAN 諸国でも最も高い 7～8%の間で推移しており、堅調な経済成長。1 人あたり GNI は 2011 年に 1,010 ドルとなり、low income economy から lower-middle income economy に格上げし、2013 年には 1,460 ドルとなったが、ASEAN 諸国の中では、ミャンマー・カンボジアに次いで低い値。名目 GDP は 75.19 兆キップ（94.18 億ドル、2012 年）。インフレ率はここ数年では 5%前後で推移。
③ 財政収支	<ul style="list-style-type: none">財政収支は赤字基調。2011/12 年は GDP 比 1%強であったが、2012/13 年には約 6%まで拡大。ラオス政府は 2013 年より、公務員給与増額の中止、公共事業の抑制等歳出抑制策を実施しており、2013/14 年は 4.25%へ減少すると予測されている。
④ 金融・為替	<ul style="list-style-type: none">中央銀行が商業銀行、金融機関を監督。国有商業銀行 4 行、合弁銀行 2 行、民間銀行 10 行、外国銀行の支店が 16 行ある。2010 年にラオス証券取引所が開設され、現在 4 社が上場している。為替バンド制を敷いており、安定的な為替レートを維持。

¹ ラオス国の概観は、独立行政法人国際協力機構が作成した「ラオス JICA 国別分析ペーパー」の情報を基に作成した。

⑤ 国際収支	<ul style="list-style-type: none"> 経常収支は赤字基調。2011/12年の対GDP比-15.2%から、2012/13年の-28.4%に悪化。 外貨準備高は輸入の1.1～1.2か月分を推移しており、低い。
⑥ 公的債務	<ul style="list-style-type: none"> 国内債務は増加傾向（2009年対GDP比5.6%から2012年15.8%）。 対外債務の対GDP比は46～49%程度で推移。

出典：ラオス JICA 国別分析ペーパー、2015 年、JICA

(4) 産業動向

産業別の GDP 貢献度は、農業：27.6%、製造業：33.1%、サービス業：39.3%であるが、近年製造業、サービス業の割合が増加している。

ラオスにおいて、観光セクターの輸出に占める割合は増加しており、鉱物、電力に次いで、外貨獲得のための主要産業となっている。観光セクターGDP 貢献度は、サービス業のうち約16%である。

(5) 貧困削減・ミレニアム開発目標の達成状況

- 人間開発指数：0.569（187か国中139位、2013年）。
- ミレニアム開発目標：全体的に改善傾向は見られているが、MDG1（極度の貧困と飢餓の撲滅）、MDG2（初等教育の完全普及の達成）、MDG9（不発弾除去）の進捗が遅れている。

2.2 ラオスの政策・開発計画

ラオスの国家開発政策・計画は長期目標と中期計画で構成されている。1996年「Vision 2020」を策定し、その下で5年毎のNSEDPを策定しており、現在は2011～2015年までの第7次NSEDPを実施中である。

- 安定的な経済成長、2015年までのMDGs達成、2020年までの後発開発途上国（LDC）からの脱却等が主要目標として設定されている。
- NSEDPを元に主要セクターの開発戦略が策定されている。
- 現在は第8次NSEDPを策定中である。

第7次NSEDPは、2011年4月の内閣での審議後、6月に国会に提出され承認された。その目標として、①安定的な経済成長（GDP成長率年8%平均、一人当たりGDP1,700ドル）、②2015年までのMDGs達成、2020年までのLDC脱却、③文化・社会の発展、天然資源の保全、環境保全を伴う持続的な経済成長の確保、④政治的安定、平和及び社会秩序の維持、国際社会における役割向上を掲げている。

第7次NSEDPの目標と評価（第8次NSEDPに記載されている評価）を下表に示す。

表 2.2.1 第7次NSEDPの概要

項目	目標	評価
年平均GDP成長率	8%以上	8.5%（4年間の平均）、7.8%（2013-2014） 農業：3.0%（2013-2014） 工業：8.5%（2013-2014） サービス：9.3（2013-2014）
一人当たりGDP	1,700米ドル（FY14/15）	1,671 US\$（2013-2014）
インフレ率	一桁台 キープと主要通貨の年間為替変動率を5%以下に抑える	5.84%（4年間の平均）、5.16%（2013 -2014） LAK/USD：1.92%（Depreciation） LAK/Baht：3.53%（Appreciation）
公共投資プログラム（PIP） （5年間）	公共投資のGDP比9.5%達成 政府資金1,252百万米ドル、ODA資金3,887百万米ドル（グラント41%、ローン59%）	公共投資のGDP比:10% 政府資金1,050百万米ドル、ODA資金2422百万米ドル（2013 -2014）

項目	目標	評価
	→年平均のODA必要額（予測）は777百万米ドル （内訳予想：インフラ35%、社会セクター：35%、経済セクター30%）	
海外投資 （5年間）	14.91billion米ドル（公共並びに民間投資併せた総金額）（内訳：政府8%、ODA26%、海外直接投資と民間セクター54%、直接控除（Direct Credit）12%）	<ul style="list-style-type: none"> 総額（海外・国内投資）：5.15 billion US\$（2013-2014） 公共投資：1.77 billion US\$（34%）（2013-2014） 民間投資：3.38billion US\$（65%）（2013-2014） エネルギー、鉱業、サービス（ホテル、ビラ、ゴルフコース、ショッピングモール）、農業に集中。
貿易収支（5年間）	輸出並びに輸入は年18%増を予想	輸出：88.7%増、輸入：62.5%増（US\$で計算）（2013-2014/2012-2013）
財政収支	歳入不足をGDPの5%以下とする	4.07%（4年間の平均）、4.90%（2013-2014）
社会指標	貧困率：19%以下 初等教育就学率：98% 中等教育就学率：75%、識字率99%&87%（15-24歳&15歳以上） 乳児死亡率：49/1,000人 5歳未満児死亡率：80/1,000人 妊産婦死亡率：260/100,000人 失業率：2%以下	貧困率：20.5%（2012-2013） 初等教育就学率：96.8%（2012-2013） 中等教育就学率：69.0%、識字率89.1（15-24歳&15歳以上）（2012-2013） 乳児死亡率：68/1,000人（2011） 5歳未満児死亡率：79/1,000人（2011） 妊産婦死亡率：220/100,000人（2013） 失業率：NA

出典：「ラオス JICA 国別分析ペーパー」、Draft 8th Five Year National Socio-Economic Development Plan (2016-2020)

経済面では、GDP 成長率は年平均 7~8%と安定的な成長を示している他、輸出入も安定的に増加している。一方、社会セクターについては目標が達成できていない分野がみられる。

北部地域における観光開発について、コミュニティツーリズム、ルアンプラバン観光ゾーン、バンビエン、ムアン・シン、サン・コンでの観光イベント、観光インフラ、観光サービスの向上を通じた、エコツーリズム及び文化観光振興・開発の進捗を評価している。

現在ラオス政府は、第 8 次 NSEDP2016-2020 を作成中である。第 8 次 NSEDP（案）は、第 7 次 NSEDP に引き続いて、2025 までに LDC の脱却を目指しており、その目標として、①安定した経済成長、②経済成長、文化・社会の発展、環境保全を伴う持続的な経済成長の確保、③人材育成の強化、④政治的安定・平和及び社会秩序の維持、⑤国際社会との協調の継続を上げている。下表に第 8 次 NSEDP の概要をまとめる。

表 2.2.2 第 8 次 NSEDP の概要

項目	目標
年平均GDP成長率	7.5%以上
一人当たりGDP	1,810US\$（2021年）
インフレ率	適切なインフレ率の維持（6%）、安定した為替の維持
公共投資プログラム（PIP）（5年間）	必要な開発資金：232, 000 billion (Kip) 公共投資：24-28%（政府資金：9-11%、ODA：15-17%、民間資金：55-57%、銀行クレジット：17~19%）
海外投資	NA
貿易収支（5年間）	NA
財政収支	歳入：GDPの23-25% 歳出：GDPの26-30% 財政赤字：GDPの3 - 5%

項目	目標
社会指標	<p>貧困率：15%以下 初等教育就学率：99% 中等教育就学率：85%、識字率99%&95%（15-24歳&15歳以上） 乳児死亡率：30/1,000人 5歳未満児死亡率：45/1,000人 妊産婦死亡率：200/100,000人 失業率：2%以下</p>
地域開発（北部地域）	<p>観光開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ルアンプラバン観光ゾーンを観光の拠点としての整備：自然観光、歴史・文化・伝統観光 GMS諸国との統合を目的とした観光道路整備

出典：Five Year National Socio-Economic Development Plan VIII (2016-2020)

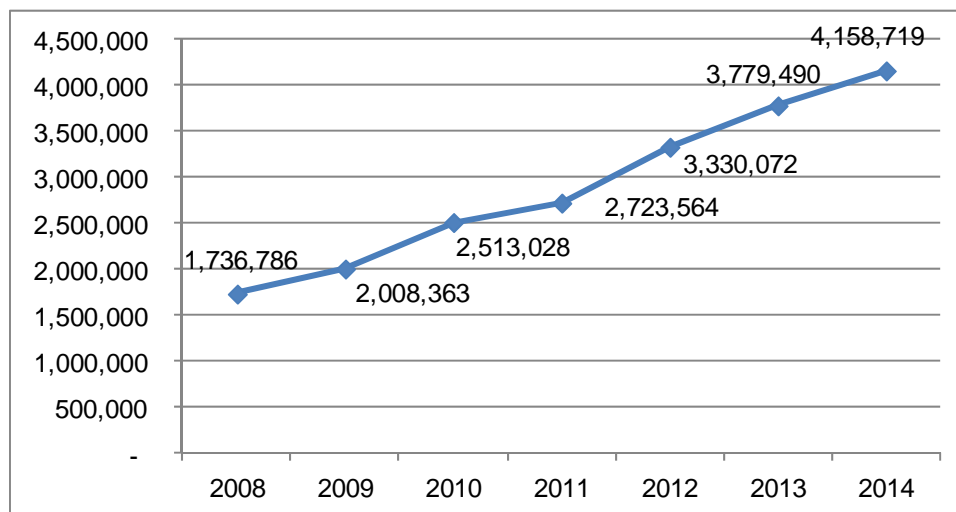
第3章 ラオス及びルアンプラバン観光の現況

3.1 観光客数の動向

3.1.1 全国

(1) 外国人観光客数の推移

ラオス国の観光客の動向は、図 3.1.1 のとおりである。2008 年以降増加傾向を示しており、2014 年の外国人観光客数は、過去最高の約 415.9 万人を記録している。



出典：『2014 Statistical Report on Tourism in Laos』

図 3.1.1 ラオス国における外国人観光客数の推移

(2) 世界地域別・国別外国人観光客数の推移

ラオス国の世界地域別・国別観光客の動向は、表 3.1.1 のとおりである。

2014 年における全国の外国人観光客の総数は、415.9 万人である。国別では、タイが 204.4 万人（49.1%）で 1 位、ベトナムが 110.8 万人（26.7%）で 2 位となっており、ASEAN 諸国全体では 322.4 万人（77.5%）と全体の 3/4 以上を占めている。3 位以下は、中国 42.2 万人（10.2%）、韓国 9.6 万人（2.3%）、米国（1.5%）、フランス 5.2 万人（1.3%）、豪州 4.5 万人（1.1%）、日本 4.5 万人（1.1%）と続く。

2008 年（173.7 万人）から 2014 年（415.9 万人）までの間に、全国の外国人観光客数は 2.39 倍に増加している。同期間の伸び率 1 位は韓国（5.32 倍）、2 位はロシア（4.16 倍）、3 位は中国（3.99 倍）、4 位はベトナム（3.15 倍）、5 位はカンボジア（2.80 倍）となっている。これらの数字は豪州（1.60 倍）、日本（1.42 倍）・欧州（1.24 倍）・米国（1.12 倍）と比較して高く、近年は新興国からの観光客の割合が高まる傾向にある。

表 3.1.1 ラオス国における地域別・国別外国人観光客数の推移

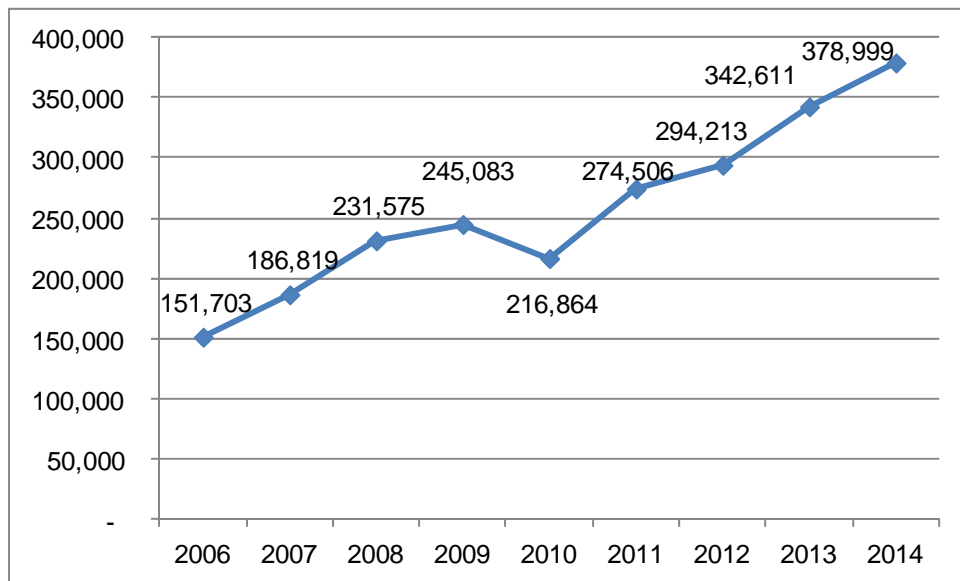
Country of original	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2014	Change 13/14(%)	Change 14/08(Times)
	Number	Number	Number	Number	Number	Number	Number	%		
Grand Total	1,736,786	2,008,363	2,513,028	2,723,564	3,330,072	3,779,490	4,158,719	100.0%	10.03	2.39
Asia and Pacific	1,482,498	1,820,571	2,260,026	2,464,651	3,061,115	3,473,111	3,854,441	92.7%	10.98	2.60
ASEAN	1,285,531	1,611,009	1,990,932	2,191,224	2,712,478	3,041,233	3,224,080	77.5%	6.01	2.51
Brunei	338	267	197	354	533	582	564	0.0%	-3.09	1.67
Indonesia	2,043	3,158	2,245	3,338	4,256	4,888	4,812	0.1%	-1.55	2.36
Malaysia	15,625	13,816	15,427	17,702	22,785	26,035	24,312	0.6%	-6.62	1.56
Mayanmar	1,698	1,794	1,652	1,765	1,730	1,947	2,157	0.1%	10.79	1.27
Philippines	12,647	8,331	10,341	11,847	14,281	16,318	15,179	0.4%	-6.98	1.20
Singapore	4,866	5,286	6,087	7,130	10,545	9,685	9,621	0.2%	-0.66	1.98
Thailand	891,448	1,274,064	1,517,064	1,579,941	1,937,612	2,059,434	2,043,761	49.1%	-0.76	2.29
Vietnam	351,384	296,763	431,011	561,586	705,596	910,164	1,108,332	26.7%	21.77	3.15
Cambodia	5,482	7,530	6,908	7,561	15,140	12,180	15,342	0.4%	25.96	2.80
Non -ASEAN	196,967	209,562	269,094	273,427	348,637	431,878	630,361	15.2%	45.96	3.20
Australia	28,180	24,209	30,538	31,874	33,878	35,450	44,964	1.1%	26.84	1.60
China	105,852	128,226	161,854	150,791	199,857	245,033	422,440	10.2%	72.40	3.99
India	2,652	2,280	3,321	3,227	3,275	4,551	4,547	0.1%	-0.09	1.71
Japan	31,569	28,081	34,076	37,883	42,026	48,644	44,877	1.1%	-7.74	1.42
Korea	18,065	17,876	27,312	34,707	53,829	81,799	96,085	2.3%	17.46	5.32
Newzealand	4,364	3,479	4,393	4,885	5,418	5,451	5,200	0.1%	-4.60	1.19
Taiwan	2,665	2,519	3,346	5,029	3,996	4,771	5,478	0.1%	14.82	2.06
Others	3,620	2,892	4,254	5,031	6,358	6,179	6,770	0.2%	9.56	1.87
Europe	168,756	130,176	178,140	181,539	185,802	212,566	209,331	5.0%	-1.52	1.24
Austria	2,843	2,450	2,565	3,801	2,860	3,339	3,835	0.1%	14.85	1.35
Belgium	4,908	3,868	5,012	5,241	6,284	6,046	5,343	0.1%	-11.63	1.09
Denmark	3,657	2,977	5,359	4,769	5,054	4,586	5,065	0.1%	10.44	1.39
Finland	2,729	1,985	2,470	2,742	2,962	2,735	3,751	0.1%	37.15	1.37
France	39,077	31,775	44,844	44,399	46,903	52,411	52,146	1.3%	-0.51	1.33
Germany	25,191	17,710	22,583	21,280	23,417	29,250	29,800	0.7%	1.88	1.18
Greece	569	537	578	451	366	433	498	0.0%	15.01	0.88
Italy	6,467	5,481	7,075	6,977	6,289	8,822	9,710	0.2%	10.07	1.50
Netherlands	11,315	8,504	10,032	9,164	9,283	10,899	8,683	0.2%	-20.33	0.77
Norway	2,909	2,221	2,845	3,178	3,307	3,531	3,606	0.1%	2.12	1.24
Russia	3,206	2,861	4,835	7,019	8,642	11,649	13,340	0.3%	14.52	4.16
Spain	3,117	2,962	4,195	4,652	4,208	5,127	5,219	0.1%	1.79	1.67
Sweden	6,827	4,150	6,261	5,926	6,676	5,194	5,804	0.1%	11.74	0.85
U.K	36,038	27,044	37,272	35,622	35,694	41,741	39,061	0.9%	-6.42	1.08
Switzerland	6,526	5,827	8,622	9,710	10,096	10,586	9,064	0.2%	-14.38	1.39
Others	13,377	9,824	13,592	16,608	13,761	16,217	14,406	0.3%	-11.17	1.08
America	75,266	53,348	67,291	69,990	75,851	85,899	86,027	2.1%	0.15	1.14
Canada	14,695	10,955	13,637	14,422	16,744	17,132	19,096	0.5%	11.46	1.30
USA	54,717	39,339	49,782	50,092	53,380	61,608	61,460	1.5%	-0.24	1.12
Others	5,854	3,054	3,872	5,476	5,727	7,159	5,471	0.1%	-23.58	0.93
Africa & Middle East	10,266	4,268	7,571	7,384	7,304	7,914	8,920	0.2%	12.71	0.87
Israel	4,090	2,236	3,700	4,232	3,241	3,364	4,068	0.1%	20.93	0.99
Others	6,176	2,032	3,871	3,152	4,063	4,550	4,852	0.1%	6.64	0.79

出典：『2014 Statistical Report on Tourism in Laos』

3.1.2 ルアンプラバン県

(1) 外国人観光客数の推移

ルアンプラバン県の観光客の動向は、図 3.1.2 のとおりである。2006 年以降、2009～2010 年を除いて増加傾向を示しており、2014 年の外国人観光客数は、過去最高の約 37.9 万人を記録している。



出典：『2014 Statistical Report on Tourism in Luang Prabang』

図 3.1.2 ルアンプラバン県における外国人観光客数の推移

(2) 世界地域別・国別外国人観光客数の推移

ルアンプラバン県の世界地域別・国別観光客の動向は、表 3.1.2 のとおりである。

2014 年におけるルアンプラバン県の外国人観光客の総数は、37.9 万人である。国別では、タイが 5.2 万人（13.8%）で 1 位、中国が 3.7 万人（9.7%）で 2 位、英国が 3.2 万人（8.4%）で 3 位、フランスが 2.9 万人（7.5%）で 4 位、ドイツが 2.7 万人（7.1%）で 5 位となっている。その後は、米国 6 位、カナダ 7 位、豪州 8 位、日本 9 位、韓国 10 位と続く。

2008 年（23.2 万人）から 2014 年（37.9 万人）までの間に、ルアンプラバン県の外国人観光客数は 1.64 倍に増加している。同期間の全国の外国人観光客数が 2.39 倍に増加しているのに対してこの数字は小さく、全国程にルアンプラバン県での外国人数が伸びていない状況を示している。もっとも、全国では 77.5%が ASEAN 内からの訪問客で占められているのに対して、ルアンプラバン県では ASEAN 内からの訪問客は 17.2%に留まっており、欧州（40.4%）や日本を含む ASEAN 以外のアジア・太平洋地域（26.0%）、米州（14.6%）等が重要な位置づけにある。このことから、ルアンプラバン県は、全国平均と比較して、より世界的な国際観光地としての色合いが濃い。つまり、全国の伸びの相当部分は、隣接するタイやベトナムからビエンチャン・サバナケット・パクセ・タケク等国境から近い街々へやって来る One day Trip（日帰り）客が占めているものと思われる。実際に、タイやベトナムとの陸路でのアクセスは一昔前と比較して改善されてきており、タイ人やベトナム人にとって中南部ラオスは十分に日帰り圏となっている。一方で、北部山岳地帯の中央に位置するルアンプラバン県は、隣接から国境から離れており、基本的にこれら隣接国からの日帰り観光客の伸びが反映されることはない。それでもルアンプラバン県の観光客数は、2006 年以降 2014 年までの 8 年間、年率平均 12%強で伸びており、DICT によれば、ハイシーズンにおけるルアンプラバン県の宿泊施設の稼働率は、その上限に達しつつある。

同期間の伸び率 1 位はロシア（9.51 倍）、2 位はスイス（6.94 倍）、3 位はスペイン（6.23 倍）、4 位はオランダ（6.21 倍）、5 位はノルウェー（5.55 倍）となっている。その後は、フィンランド 6 位、マレーシア 7 位、ギリシャ 8 位、スウェーデン 9 位、中国 10 位、韓国 11 位、イ

インドネシア 12 位と続く。タイ・英国・フランス・ドイツ等、以前から一定数の観光客を送り出していた国々に比べ、ロシア・欧州の小国群・ASEAN 諸国・中国・韓国等の国々がより高い伸び率を示しており、ルアンプラバン県を訪れる外国人は近年多様化の傾向にある。

表 3.1.2 ルアンプラバン県における地域別・国別外国人観光客数の推移

Country of original	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2014	Change	Change
	Number	Number	Number	Number	Number	Number	Number	Number	Number	%	14/13(%)	14/08(times)
Grand Total	151,703	186,819	231,575	245,083	216,864	274,506	294,213	342,611	378,999	100.0%	10.62	1.64
Asia and Pacific	52,389	76,491	97,740	99,789	75,213	115,999	128,483	130,879	163,631	43.2%	25.02	1.67
ASEAN	23,073	39,518	50,494	51,861	33,726	55,844	63,472	52,371	65,163	17.2%	24.42	1.29
Brunei	61	190	163	77	196	304	584	303	326	0.1%	7.59	2.00
Indonesia	207	201	171	169	401	650	608	484	527	0.1%	8.88	3.08
Malaysia	705	606	520	711	1,219	3,695	1,646	2,153	2,241	0.6%	4.08	4.31
Myanmar	88	172	222	107	279	305	372	412	346	0.1%	-16.01	1.56
Philippines	247	658	514	374	328	504	913	1,087	1,326	0.3%	21.98	2.58
Singapore	617	923	1,948	1,864	1,077	1,418	5,205	2,843	3,350	0.9%	17.83	1.72
Thailand	19,822	31,911	32,482	41,361	26,569	44,656	50,636	41,725	52,120	13.8%	24.91	1.60
Vietnam	987	4,556	14,151	7,066	3,372	3,836	2,976	2,987	4,364	1.2%	46.09	0.31
Cambodia	339	301	323	132	285	476	532	377	563	0.1%	49.33	1.74
Non-ASEAN	29,316	36,973	47,246	47,928	41,487	60,155	65,011	78,508	98,468	26.0%	25.42	2.08
Australia	10,560	14,978	13,176	16,648	14,809	17,706	13,780	16,817	18,482	4.9%	3.95	1.40
China	3,258	4,161	9,990	10,788	9,303	16,215	19,894	20,802	36,923	9.7%	77.49	3.70
India	366	338	523	304	519	509	394	450	425	0.1%	-5.55	0.81
Japan	9,730	10,029	9,555	9,597	9,103	12,289	12,716	15,132	18,042	4.8%	19.23	1.89
Korea	1,343	4,263	5,344	4,790	2,354	4,867	11,732	14,683	17,732	4.7%	13.89	3.32
Newzealand	2,180	1,941	5,071	168	2,510	3,796	2,412	3,919	3,528	0.9%	-9.97	0.70
Taiwan	112	380	234	349	362	441	463	445	689	0.2%	54.83	2.94
Others	1,767	883	3,353	5,284	2,527	4,332	3,620	6,260	2,647	0.7%	-57.71	0.79
Europe	69,574	78,879	83,569	90,131	103,820	118,084	119,482	151,142	153,226	40.4%	1.37	1.83
Austria	1,834	1,664	1,267	3,459	3,716	3,693	3,573	4,230	3,164	0.8%	-25.2	2.50
Belgium	487	2,206	3,066	4,607	2,635	3,116	1,390	618	795	0.2%	28.64	0.26
Denmark	1,858	2,563	1,804	1,212	1,934	2,389	2,550	3,150	3,839	1.0%	21.87	2.13
Finland	844	494	1,149	798	1,945	1,459	1,683	4,190	5,382	1.4%	28.44	4.68
France	13,503	14,902	20,602	19,507	22,360	25,991	26,436	27,766	28,590	7.5%	2.96	1.39
Germany	9,198	14,214	16,763	14,393	16,372	18,516	19,594	26,229	27,094	7.1%	3.29	1.62
Greece	554	373	160	105	659	652	711	545	683	0.2%	25.32	4.27
Italy	3,441	3,627	7,134	5,582	4,595	5,132	5,332	8,361	9,640	2.5%	15.29	1.35
Netherlands	5,285	3,657	1,181	2,643	5,785	5,763	3,793	6,272	7,336	1.9%	16.96	6.21
Norway	854	1,847	588	422	1,054	1,300	1,337	3,180	3,264	0.9%	2.64	5.55
Russia	0	726	1,130	791	939	2,127	5,255	8,090	10,742	2.8%	32.78	9.51
Spain	2,732	1,697	682	1,383	3,350	4,187	2,852	3,769	4,247	1.1%	12.68	6.23
Sweden	2,217	1,586	876	1,825	2,456	2,461	2,411	3,280	3,592	0.9%	9.51	4.10
U.K	17,120	21,255	22,237	28,470	22,622	25,871	22,584	29,051	31,649	8.4%	8.94	1.42
Switzerland	2,431	2,632	1,147	1,825	4,181	4,331	4,397	7,051	7,961	2.1%	12.9	6.94
Others	7,216	5,436	3,783	3,109	9,217	11,096	15,584	15,360	5,248	1.4%	-65.83	1.39
America	23,767	29,849	43,242	49,536	34,522	36,901	42,124	54,152	55,296	14.6%	2.11	1.28
Canada	7,770	8,935	17,928	19,128	7,955	10,164	11,673	17,824	18,648	4.9%	4.62	1.04
USA	14,750	18,096	21,859	25,913	21,185	21,091	22,415	26,243	25,859	6.8%	-1.46	1.18
Others	1,247	2,818	3,455	4,495	5,382	5,646	8,036	10,085	10,789	2.8%	6.98	3.12
Africa & Middle East	5,973	1,600	7,024	5,627	3,309	3,522	4,124	6,438	6,846	1.8%	6.33	0.97
Israel	5,180	1,049	5,762	4,453	2,191	2,267	3,566	4,060	4,734	1.2%	16.6	0.82
Others	793	551	1,262	1,174	1,118	1,255	558	2,378	2,112	0.6%	-11.18	1.67

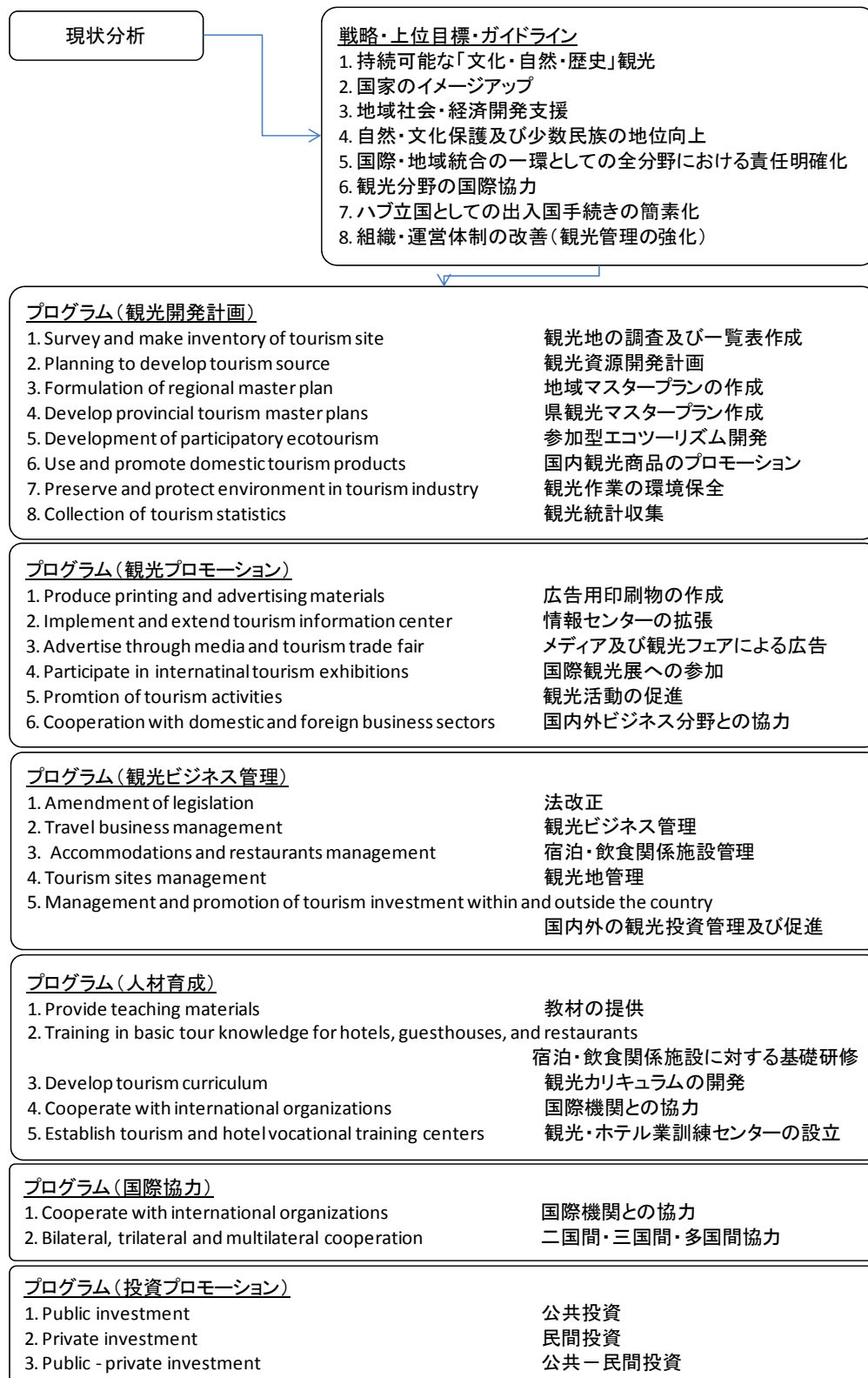
出典：『2014 Statistical Report on Tourism in Luang Prabang』

3.2 観光開発政策

3.2.1 ラオス国観光戦略 2006-2020（Lao PDR Tourism Strategy 2006-2020）

国レベルの観光開発政策である『ラオス国観光戦略 2006－2020（まもなく MICT 大臣により最終承認される見込み）』の構成は、図 3.2.1 のとおりである。戦略・上位目標・ガイドラインとして 8 項目が挙げられており、これに基づいて 6 つのプログラムが述べられている。

ルアンプラバン県については、観光開発計画プログラム-3 において、ラオス北部観光拡大振興の視点からその中心に位置づけられている。ルアンプラバン世界遺産地区の観光情報センターで周辺県も含めた観光情報の提供すること、ルアンプラバン県とベトナム・中国・タイとの間の国際観光ルート開発、フアパン-ルアンプラバン-シェンクワン-ルアンナムタ-ウドムサイ - サイニャブリ - ボケオ - ポンサリー各県を結ぶインナーリング観光開発、新年を含む伝統祭事・地域的な儀式等のプロモーション、フアパン県境に広がる Pou Leuy 国有林の保護等が謳われている。



出典：『2014 Statistical Report on Tourism in Luang Prabang』を基に JICA 調査団が作成

図 3.2.1 『ラオス国観光戦略 2006－2020』の構成

3.2.2 ルアンプラバン観光開発及びマーケティング戦略計画 2011-2020 (Luang Prabang Tourism Development and Marketing Strategy Plan (2011-2020))

県レベルの観光開発政策である『ルアンプラバン観光開発及びマーケティング戦略計画 2011-2020 (DICT 総局長により 2015 年 7 月に承認済)』の構成は、図 3.2.2 のとおりである。観光開発及びプロモーション戦略として 10 項目が挙げられており、これに基づいて 155 のプロジェクトが計画されている。ただし、DICT (ルアンプラバン情報・文化・観光局) によれば、現段階で各プロジェクトの詳細は定まっていない。



出典：『ルアンプラバン観光開発及びマーケティング戦略計画 2011-2020』を基に JICA 調査団が作成

図 3.2.2 『ルアンプラバン観光開発及びマーケティング戦略計画 2011-2020』の構成

なお、Goal 1 について同文書では、「世界遺産局と協力し遺産地区におけるビジネス活動に対して管理保全の観点から一定の制限を含む法制度を整備する」とされている。これには「1. 法制度整備及び関連研修」、「2. 観光ビジネス業界に対するアウェアネス」等が含まれており、これを踏まえて「2015～2020 年・遺産地域観光プロモーションマスタープラン」を作成するとある。

また、ルアンプラバン県内で観光戦略上重視されているエリアがある。このエリアは、世界遺産地区の中心であるルアンプラバン郡は、周辺の郡と一体的にひとつのエリアを形成し

ている。

チョンペット郡は、メコン河を挟んで、県内最大の観光地である遺産地区の中心、ルアンプラバン郡に隣接している（チョンペット郡の一部も遺産地区である）。また、ゴイ郡は、遺産地区から北東に車で3時間程に位置し、ノンキャウやムアンゴイ等の集落及びウー川を中心として国際観光客が増加中の新興観光地であり、県内では世界遺産地区に次ぐ観光地とされている。

『ルアンプラバン観光開発及びマーケティング戦略計画 2011-2020』チョンペット郡、ゴイ郡の位置づけは、表 3.2.1 のとおりである。

表 3.2.1 ルアンプラバン県におけるチョンペット郡・ゴイ郡の位置づけ

郡名	位置	観光戦略の位置づけ	言及されている観光資源
1. チョンペット郡	遺産地区の中心であるルアンプラバン郡から見てメコン河の対岸であり、両郡はフェリーで結ばれている。チョンペット郡の一部も遺産地区である。	郡の一部がルアンプラバン県第一の観光地である世界遺産地区の一部を成し、ルアンプラバン郡と共に県内観光の中心になっている。また、チョンペット郡単体としては、下記ゴイ郡、遺産地区郊外のパックウー郡に次ぐ第四の観光地とされている。	焼き物 村巡り トレッキング 等
2. ゴイ郡	遺産地区の中心であるルアンプラバン郡から見て、北東方向に車で3時間程の距離にある（ノンキャウまで）。	上記に次ぐルアンプラバン県第二の観光地として、観光開発に力が入られている。	川クルーズ ホームステイ トレッキング 等

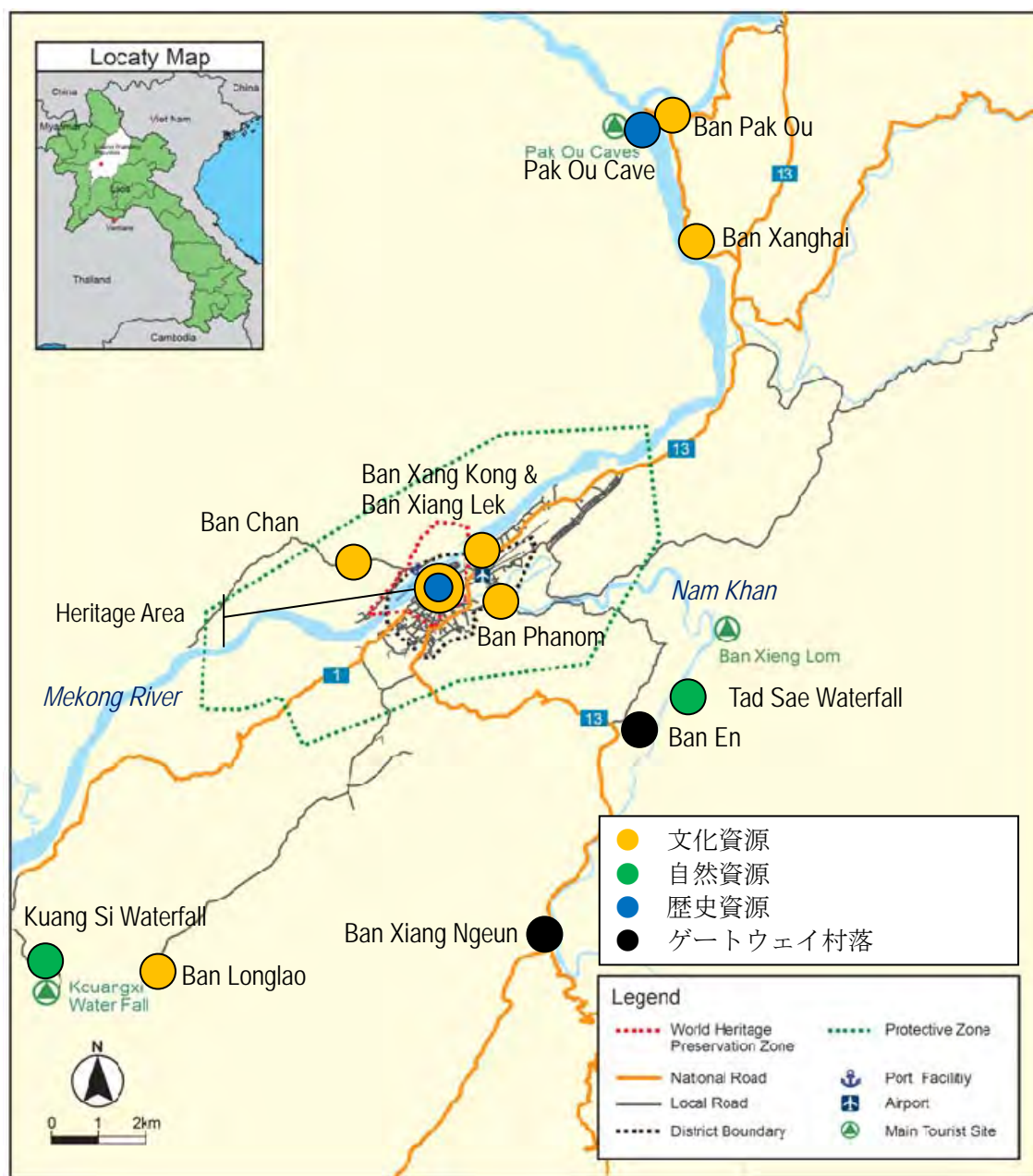
出典：『ルアンプラバン観光開発及びマーケティング戦略計画 2011-2020』を基に JICA 調査団が作成

3.3 観光資源

3.3.1 ルアンプラバン県主要部の観光資源

ルアンプラバン県主要部の観光資源は、出典：JICA 調査団

図 3.3.1 に示すとおりである。



出典：JICA 調査団

図 3.3.1 ルアンプラバン県主要部の観光資源

(1) 世界遺産地区 (Heritage Area)

メコン河及びカーンに挟まれた半島を中心とする地区であり、都市機能及び観光客が集中する。メインストリートの Sisavangvon 通り・Sakkaline 通りやメコン及びカーン河畔には、ホテル・ゲストハウス・レストラン・カフェ・バー・寺院を含む観光施設等が建ち並び、ラオス伝統建築と仏植民によるコロニアル調建築とが美しい調和を見せている。世界遺産地区の一部はメコン河対岸のチョンペット郡にも及んでいる。

(2) パックウー洞窟 (Pak Ou Cave)

パックウー洞窟は、ルアンプラバン世界遺産地区からメコン河に沿って上流へ 25km に位置し、内部には大小多くの仏像が収められている。

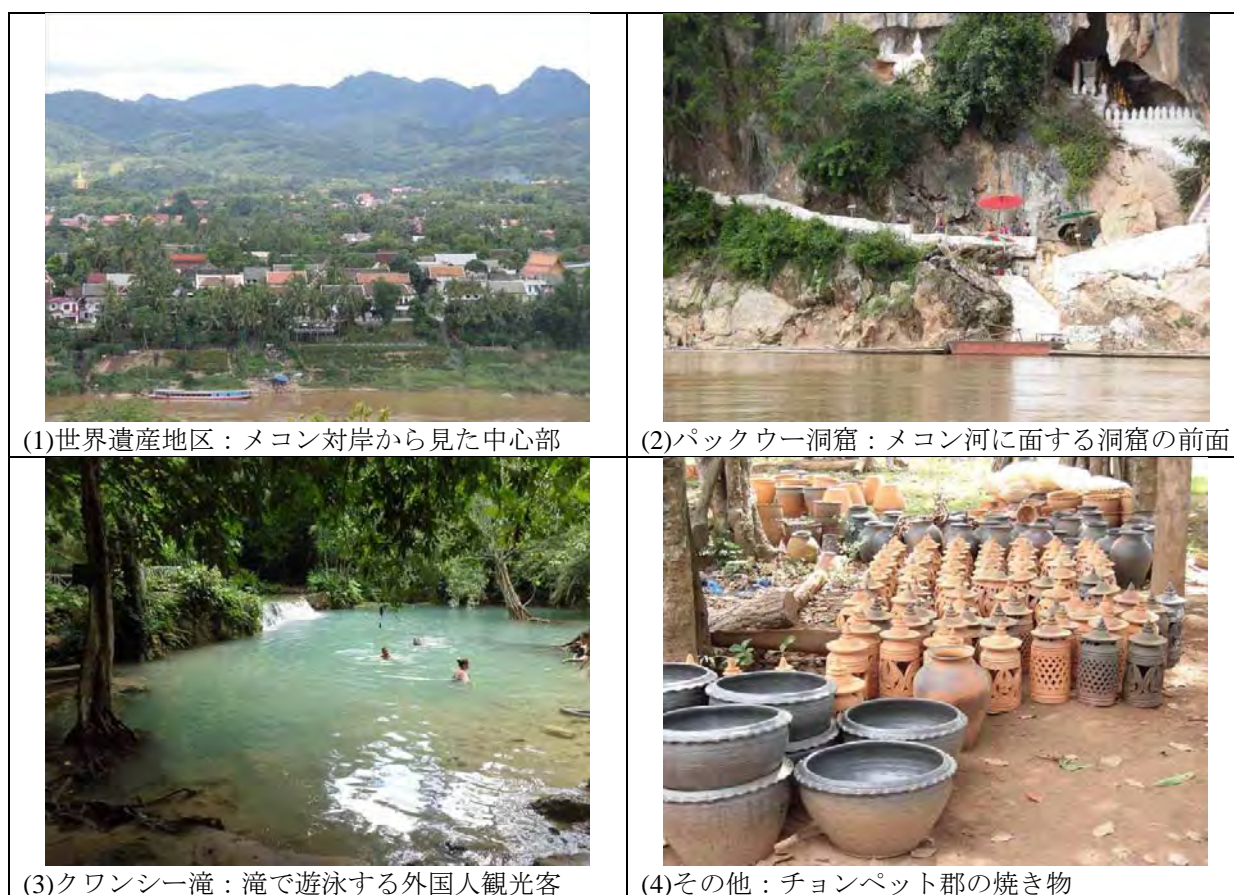
(3) クワンシー滝 (Kuang Si Waterfall)

クワンシー滝は、ルアンプラバン世界遺産地区から南西方向へ 32km のところに位置する Kuang Si Waterfall Park 内の小規模な瀑布で、水遊びや美しい景観が楽しめる。外国人のみならず、地元のラオス人も週末のピクニック等に訪れている。

(4) その他

ルアンプラバン世界遺産地区の周辺には、いくつかの地場産業が発達している。Xang Hai 村では伝統酒が、Xang Khong 村・Xieng Lek 村では織物がそれぞれ作られており、外国人観光客がよく訪れている。また、ルアンプラバン世界遺産地区からメコン河を挟んで対岸に位置するチョンペット郡では焼き物作りがさかんであり、近年、メコン河の渡しを利用して外国人観光客も訪れて始めている。

ルアンプラバン県主要部の観光資源現況は、図 3.3.2 のとおりである。



出典：JICA 調査団

図 3.3.2 ルアンプラバン県主要部の観光資源の現況

3.3.2 ルアンプラバン県内のその他の観光資源（ゴイ郡）

ルアンプラバン県内のその他の観光資源としては、ゴイ郡が挙げられる。『ルアンプラバン観光開発及びマーケティング戦略計画 2011-2020』で、ゴイ郡は、世界遺産地区のあるルアンプラバン郡に次ぐ県内 2 位の観光ポテンシャル地域とされており、ルアンプラバン郡と共に観光案内所が設置されている。ゴイ郡支所によれば、現地政府の政策もあり、近年ノンキアウからウー川を 1 時間程遡って到達する対岸のムアンゴイの滞在を楽しむ外国人が増加している。ゴイ郡の位置は、図 3.3.3 に示すとおりであり、悪天候でなければ、ルアンプラバン世界遺産地区からノンキアウまで、ミニバン等により 3 時間程で到達可能である。



図 3.3.3 ルアンプラバン県内のその他の観光資源

ムアンゴイ村の宿泊は、ゲストハウスかホームステイである。ホームステイは、Ngoy Kao、Houay Sene、Naa、Kiu Khan、Hat-sa-phuay 等の主に少数民族の村で可能である。2015 年 7 月 19 日の現地踏査時はのんびりと休暇を過ごすために来た欧米人を多く見かけたが、台湾からの観光客もいる。同台湾観光客は 3 人の 20 代女性で、地元の年配女性が実践する工芸品に非常に興味を持って見学していた。

ノンキャウ村に位置するゴイ郡支所（District Head Office）の資料によれば、2014 年の外国人観光客数は、14,615 人に達している。

ムアンゴイの観光資源現況は、図 3.3.4 のとおりである。



出典：JICA 調査団

図 3.3.4 ムアンゴイの観光資源の現況

3.4 観光商品

3.4.1 ルアンプラバン県主要部の観光商品

日本人ツアー客向けの典型的な商品例に含まれる観光資源は、図 3.4.2 に示すようにほぼルアンプラバン県主要部に位置している。ルアンプラバン市街地のホテル或いはゲストハウスに 2～3 泊し、世界遺産地区内の王宮・寺院・プーシー・ナイトマーケット等の他、郊外のバックウー洞窟及びクワンシー滝へも足を延ばすというのが主流である。

ルアンプラバン中心部の観光資源例としては、図 3.4.1 のとおり、世界遺産地区の街並みや毎晩行われるナイトマーケット等があり、涼しくなる夕方から夜にかけては多数の観光客が訪れる。



出典：JICA 調査団

図 3.4.1 ルアンプラバン中心部の観光資源例



出典：「TABIKOBO」 HP

図 3.4.2 日本人ツアー客向けの典型的な商品例に含まれる観光資源

主な観光商品には、次のようなものがある。

(1) 遺産巡り

世界遺産地区の主要寺院や国立博物館、プーシーの丘等を小型のバン等で巡るコースで、ルアンプラバン県のメイン観光商品である。

(2) メコン河クルーズ

遺産地区の上流にあるバックウー洞窟まで、途中ラオスの地酒「ラオラーオ」造りの村である Xanghai 村にも立ち寄りつつ、川船でメコン河クルーズを楽しみむツアー等が催されている。

(3) 象パーク

クワンシー滝や少数民族の村訪問等とセットで近隣の象パークを訪れるオプションルツアーが催されている。

日本からのツアー例をひとつ挙げる。2015 年 7 月に現地で出会った関西からの日本人ツアー客 8 名は、ハノイ経由でルアンプラバン観光ゾーンのみを目的地とした 2 泊 4 日のツアーを利用して、上記の主要観光資源の他、オプションルツアーとして象乗りも楽しんでいた。全体として、落ち着いた街並みと静かな自然環境に囲まれたルアンプラバン観光ゾーンはすばらしいとの評価で、総合的な満足度は高かったようである。

3.4.2 ルアンプラバン県内のその他の観光商品（ゴイ郡）

2015 年 7 月にノンキャウやムアンゴイを踏査した際、旅行代理店による外国人ツアー客には出会わなかった。出会った観光客のほとんどは、フランス・ロシア・豪州・ドイツ・チェコ・スペイン・スイス・台湾等、欧米・アジアからの個人旅行者であった。家族連れ・夫婦・カップル・友人同士等グループの種類は様々であるが、いずれもツアー客ではない。

このことから、外国人のツアー商品に、現在ゴイ郡はほとんど含まれていないと思われる。現在のムアンゴイは、ウー川のボート移動・岩山等の自然景観・のどかな生活・地域住民との交流・地場産業等を楽しむため、比較的時間に余裕のある外国人が個人的に訪れる観光地であると言える。

なお、DICT によれば、ラオス政府は、現在までゴイ郡に関する対外向けの公式プロモーションは行っていない。外国人観光客の多くは、『ロンリープラネット』に代表されるガイドブックやインターネット上の情報を手掛かりにゴイ郡を訪れているものと推察される。

現在のゴイ郡における主な観光商品としては、ウー川のボート移動、少数民族の村々におけるトレッキング等が挙げられる。

第4章 観光関連インフラの現況

4.1 道路・交通

4.1.1 道路・交通の現況

(1) 道路・交通の状況

1) ルアンプラバン観光ゾーン

道路状況

ルアンプラバン市街地は、約 2 年前に中国の援助（約 80 億円相当の借款）によって建設されたルアンプラバン国際空港から国道 13 号線北を通り、約 4 キロ離れた地点にある。国道 13 号線北は 2 車線のアスファルト道路ではあるが、局所的に舗装部分に損傷が見られる。

本調査での現地調査時期は 7 月で観光シーズンではなくオフシーズンに当たり、交通渋滞は見られなかったが、ルアンプラバン運輸公共事業局によれば、観光シーズンには空港から市内に向かう国道 13 号線北で交通渋滞が発生する模様である。

国道 13 号線北は、空港からルアンプラバン観光への入り口（一番の顔ともいえる）に該当し、観光客に対し、最初に良い（快適な交通アクセスの）印象を与え、ルアンプラバン観光の好印象を植え付ける役割を担うものである。



国道 13 号線北（空港から市内に至る途中）



国道 13 号線北（空港から市内に至る途中）

ルアンプラバン市街地は 4~5km² のコンパクトな地区に主要な寺院やホテルが集中しており、市街地内の主要道路や歩道は、AFD²の支援もあり、比較的よく整備されている。観光客の交通手段はモーターバイク、トゥクトゥク（3 輪、4 輪）、ミニバン、自転車、徒歩等が主流で、タクシーはほとんど見かけない。中でも、トゥクトゥク（3 輪、4 輪）は観光客にとって最も身近な足であるが、2~3km のワンウェイで 30,000-40,000Kip（約 500 円~600 円相当）と、ビエンチャンのトゥクトゥクと比較して 5 倍以上となっている。また、市街地内には信号交差点がなく、交差点の中には視界が悪い個所もあり、坂道でスピードが出た状況での出会いがしらの事故も起きているようである。

観光客の中には、タクシーがないため、市街地から 1 時間かかるクワンシーやセーの滝や洞窟、3 時間かかるムンゴイでさえトゥクトゥク（3 輪、4 輪）を利用するケースが見られる。

² 「ルアンプラバン都市開発支援プロジェクト（PADUL: Projet d'Appui au Développement Urbain de Luang Prabang）」
（フェーズ 1 2009 年~US\$300 百万、フェーズ 2 2012 年~ US\$260 百万）。詳細は表 7.3.1 参照）

トゥクトゥクは車体の頑丈性からして長距離（5km 以上）には向かないため、道路の損傷や道路面にできた穴によって事故が起こる可能性も否定できない状況である。



国道 2501 号線（クワンシーの滝に至る途中の穴）



国道 13 号線北からカン河に至る未舗装道路

また、ルアンプラバン国際空港の裏手にある観光道路沿いには、多数の手工芸品店が立ち並んでおり、ルンプラバン観光（買い物、土産）の 1 つの目玉になっている。ほとんどの観光客が当該地区を訪ずれ、団体客は大型バスやミニバンを利用してここまで来ているようである。しかし、当該観光道路は未舗装で土砂道路のため、それら車両によって輪立ができ、観光客には不便な歩行を強いられているとともに、輪立部分では降雨時に水たまりができ観光客の通行利便性が阻害されている。



空港裏手の観光道路（未舗装で水たまりが発生）



空港裏手の観光道路（未舗装で水たまりが発生）

EV トゥクトゥクの運行

JICA は「ラオス国 三輪電気自動車を活用した低公害型公共交通システムの普及・実証事業」を実施中であり、ルアンプラバン市街地内で世界遺産地区を通る 2 路線において、三輪電気自動車（3 輪 EV）を用いた定時定路線運行を実施しているとともに、利用者に対するアンケートやイベント・広報といった普及活動を実施中である。

現在、運行ルート検討を行い、図 4.1.1 のような 3 つの定路線（ルート）に置いて各停留所に概ね 1 時間に 2 本のトゥクトゥクが運行する計画策定中である（2015 年 10 月時点で 1 時間 6 本）。

ただし、現時点では停留所の場所や運行時間等が観光客への情報提供は不足しており、今

後の更なる普及が望まれる。EV トукトукの評判は、バスの色やデザインが街並みにフィットしないとの意見がある一方、賛成派（よい、利用したい）の意見もある。



出典：JICA 調査：ラオス国 三輪電気自動車を活用した低公害型公共交通システムの普及・実証事業

図 4.1.1 EV トукトукのルート

フェリーの運行

ルアンプラバン県運輸公共事業局によれば、ルアンプラバン県のフェリーの船着き場は 3 か所あり、1 つは旅客用、2 つ目は車両用、3 つ目は Pak Ou 行きの観光用として使い分けている。

① 旅客用フェリー

88 隻のフェリーにつき、8 グループ（11 隻のフェリー/グループ）がローテーションで稼働している。8 グループは 8 日間のうち 1 日を担当し、残り 7 日間は主にチョンペットで農業に従事している。2014 年、ルアンブンプラバン郡からチョンペット郡へ平均で 594 人/日が利用、チョンペット郡からルアンブンプラバン郡へは 660 人/日が利用した。

② 車両用フェリー

12 隻のフェリー（3 隻の大型船を含む）で運用している。大型船の容量はモーターバイクが 5－10 台及び 2 両のトラック、及び 25 人の旅客の容量がある。小型船は 5～6 台のモーターバイク、1 両のトラック、及び 10～15 人の旅客の容量である。

③ パクウー行きのフェリー

パクウー行き（26km, 2.5 時間）の旅客用で、15 隻が運航している。現在（7 月時点）のようなオフシーズンでは 75 人程度/日の観光客が利用している。当該フェリーの船着き場は 6km 離れた場所に移転計画があるが、未だ承認に至っていない。

毎日、概ね 1,300 人がフェリーを利用しており、その内観光客の利用は 30－40%程度である。



フェリーの船着き場（ランプラバン側）

なお、チョンペット側のフェリーの船着き場の改修は、ADB³の支援で実施される予定である。

2) ムアンゴイ観光ゾーン

ルアンプラバン観光ゾーンに次いで第 2 の観光ゾーンに位置付けられているムアンゴイでは、『ルアンプラバン観光開発及びマーケティング戦略計画 2011-2020』で第二の観光ゾーンとして位置づけられており、主要幹線となるメインストリート沿いに、編物・手工芸品のショップやレストランが立ち並び、緑豊かな山々・ウー河等豊富な自然の中でのんびり暮らすような（ゲストハウスや民家にホームステイによる）コミュニティーベースの観光が根付いている。しかし、メインストリートの道路は未舗装（土砂道路）となっており、自動車やモーターバイクによる輪立部分では降雨時に水たまりができ、観光客の通行利便性が阻害されている。

³ Greater Mekong Subregion Tourism Infrastructure for Inclusive Growth Project (2014-2019)の Output 1 Last-mile tourism access infrastructure improved の一環で実施。事業費は 26 百万ドル。



(2) 自動車登録台数

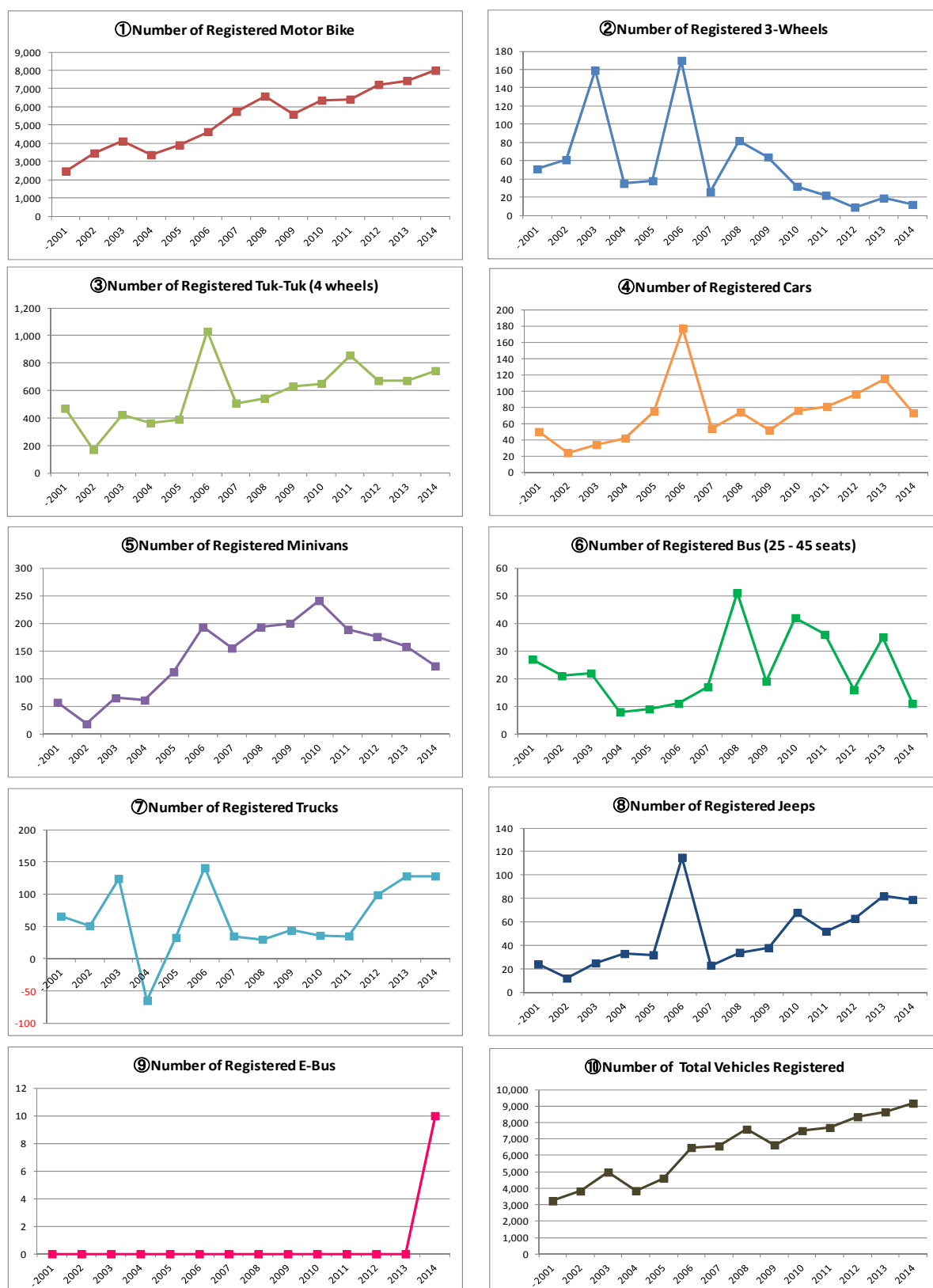
ルアンプラバン県運輸公共事業局によれば、自動車登録台数は 2014 年時点で合計約 8.9 万台、その内オートバイのシェアが圧倒的に多く 84% (7.5 万台) を占めている。次いで、トゥクトゥク（4 輪）の 10% (8.1 千台)、ミニバンの 2% (1.9 千台) と続いている。このことから、観光客の足として、オートバイ、トゥクトゥク、ミニバン等が利用されている状況が伺える。

車種別自動車登録台数の経年変化を表 4.1.1、および図 4.1.2 に示す。9 車種のうち、オートバイは一時期を除き経年ごとに登録台数が伸びているのがわかる。

表 4.1.1 自動車登録台数の経年変化

Number of Vehicles Registered in Luang Prabang from Year 2001 until 2014 Dec 31st										
No.	Year	Number of Registered Vehicles								⑩TOTAL
		①Motor Bike	②Tuk-Tuk (3 Wheels)	③Tuk-Tuk (4 Wheels)	④Cars	⑤Minivans	⑥Bus (25-45 seats)	⑦Trucks	⑧Jeeps	⑨EV-Bus
1	- 2001	2,484	51	470	50	57	27	66	24	0
2	2002	3,467	61	171	24	18	21	51	12	0
3	2003	4,122	159	425	34	65	22	124	25	0
4	2004	3,375	35	364	42	61	8	-65	33	0
5	2005	3,914	38	391	75	112	9	33	32	0
6	2006	4,636	170	1,031	177	193	11	141	115	0
7	2007	5,743	26	509	54	155	17	35	23	0
8	2008	6,585	82	544	74	193	51	30	34	0
9	2009	5,591	64	631	52	200	19	44	38	0
10	2010	6,354	32	651	76	241	42	36	68	0
11	2011	6,418	22	857	81	189	36	35	52	0
12	2012	7,219	9	672	96	176	16	99	63	0
13	2013	7,432	19	672	115	158	35	128	82	0
14	2014	7,993	12	744	73	123	11	128	79	10
TOTAL		75,333	780	8,132	1,023	1,941	325	885	680	10

出典： DPWT



出典：DPWT

図 4.1.2 ルアンプラバン県の自動車登録台数の経年変化

4.1.2 道路・橋梁の既存計画

(1) タイ政府による国道 4 号線 B の改修計画

ルアンプラバン運輸公共事業局によれば、国道 4 号線 B の改修は、タイの国際協力機関である周辺諸国経済開発協力機構（NEDA：Neighboring Countries Economic Development Cooperation Agency）の支援（工事費：Baht 2 billion）で 2015 年 9 月か 10 月から約 3 年で工事を実施する予定となっている。当該ルートはチョンペットからサヤブリ(Xayaburi)を經由して国境に至る延長 113km の区間である。

当該ルートの起点は、当初ルアンプラバン郡とチョンペット郡をつなぐためにメコン河に架ける橋の取り付け位置が、チョンペット郡側のフェリーの船着き場を想定していたことから、タイ側もそれを勘案してチョンペット郡のフェリーの船着き場をラオス側の起点として計画していた。しかし、この地点は世界遺産保護ゾーン内に当たり UNESCO から反対された。そこで、ラオス側はメコン橋の計画位置を約 5km 上流に変更することにしたが、NEDA は当該道路の起点を上流側に変更することなく当初計画通りに整備することを決定した。

このため、ラオス側としてはメコン橋から国道 4B 号線 B に連結する道路が必要になった。国道 4 号線 B 及び連結道路の計画路線を下図に示す。



出典：JICA 調査団

図 4.1.3 国道 4 号線 B 及び連結道路の計画路線

(2) 中国（民間企業）によるメコン橋建設計画及び国道 4 号線 B への連結道路整備

ルアンプラバン市街のメコン河の対岸に当たるチョンペット地区には、約 3 万人の住民が

農業や手工芸品製造・販売で生計を立てており、一部の住民はルアンプラバン市街地側で就労している。また、観光客の中にはチョンペット地区でコミュニティーベース型の観光を楽しむ人もいる。また、タイとの国境はチョンペット地区の先 113km 地点であるため、国道 4 号線 B についてタイ政府の支援で道路改修の予定となっており、タイからチョンペット地区まで 2 時間強で結ばれることになる。こうした状況を背景に、メコン橋の建設事業が浮上し、中国の民間企業が Conceptual Design まで実施したが、諸事情により事業推進がとん挫している状況である。

中国の民間企業による報告書（Mekong Bridge and connecting line between Mekong Bridge and No.4B highway in Luang Prabang of Laos 2013.5）によれば、Conceptual Design は、下記の 4 タイプの橋梁の概略設計を実施している。

- 1) PC 連続ラーメン箱桁橋（長さ：684m）
- 2) PC 連続ラーメン箱桁橋 V 字橋脚（長さ：684m）
- 3) 斜張橋（エクストラドーズド橋）（長さ：693m）
- 4) 上路アーチ橋（長さ：715m）

しかし、4 タイプにおける特徴を活かした設計とはなっていない。例えば、アーチ橋はそれ以外の 3 つのタイプの橋梁に比較して長いスパンで設計できるが、スパン長は同等となっている。従い、事業実施の際には、再度、概略設計から開始することが望まれる。メコン橋の取り付け位置（計画）は下写真の場所である。上述のように、ルアンプラバン市街地のほぼ中央地点から、上流 5km に変更された経緯がある。ただ、UNESCO によれば、ルアンプラバン世界遺産地域から当該メコン橋が展望できるような場合には景観を損ねるという理由で当該事業を容認することはできない可能性もあるとの見解である。従い、メコン橋建設の際には慎重な検討が必要になる。



4.2 上下水道

4.2.1 上水道

(1) ルアンプラバン郡の上水道施設の現状

ルアンプラバン郡の 2014 年の人口は約 8.6 万人で、計画給水区域内人口は約 6.3 万人である。計画給水区域内給水人口は約 5.4 万人であり、その水道普及率 86% である。無収水率(NRW) は 23~25% 程度で目標とする 20% を上回っている状態にある。既存の 3 箇所の浄水場はルア

ンプラバン県水道公社(LPWSE)が管理しており、この他にタイ系民間企業の Asia Nampapa Luangprabang Company が管理する浄水場からも給水を行っている。これらの浄水場の合計能力は 27,000m³/日であるが、原水の量が不安定であり処理機能も不足しているため安定した水道供給が難しい状態にある。4 つの浄水場の概要を以下に示す。

1. Phou Phueng WTP

- 運営主体: LPWSE
- 処理方式: 直接砂ろ過システム（凝集タンク、沈殿タンク、ろ過タンク）
- 施設能力: 9,000m³/日(1969 年に運転開始)
- 水源は 3 つの源泉(乾季には水量が不足する)
- 原水の硬度が高く炭酸カルシウムが配管内に付着するなどの支障がある



図 4.2.1 Phou Phueng WTP

2. Namkhan (Phanom) WTP

- 運営主体: LPWSE
- 処理方式: コンベンショナル・システム（高速混合タンク、凝集タンク、沈殿タンク）
- 施設能力: 12,000m³/日(2000 年に第 1 期 6,000m³/日、2012 年に第 2 期 6,000m³/日)
- 第 2 期の施設には沈殿池が設けられていないので処理機能が劣っている
- 水源はカーン河であるが、上流域のダム開発や気候変動により水量が減じている
(水力発電ダム・フェーズ 3：電力規模は 60MW、貯水池の集水区域は約 7,620km²、
- 事業者は Electricite du Laos



図 4.2.2 Namkhan (Phanom) WTP

3. Souhanvong WTP

- 運営主体: LPWSE
- 処理方式: コンベンショナル・システム (高速混合タンク、凝集タンク、沈殿タンク)
- 施設能力: 1,000m³/日 (2007 年に運転開始、2010 年に水道公社へ編入)
- 水源はメコン河の表流水
- 元々は Souphanvong 大学内の浄水場であるが、移管されて周辺区域が配水している



図 4.2.3 Souhanvong WTP

4. Asia Nampapa Luang Prabang Company WTP

- 運営主体: Asia Nampapa Luang Prabang Company
- 処理方式: (情報無し)
- 施設能力: 5,000m³/日 (2013 年に運転開始)
- 水源はカーン河の表流水
- 30 年間のコンセッション契約 (BOO 方式、浄水した水を道公社へ売水)



図 4.2.4 Asia Nampapa Luang Prabang Company WTP

給水施設の管理については、JICA によって「ラオス水道公社事業管理能力向上プロジェクト」が実施されている。本プロジェクトは、専門技術アドバイザーやモニタリング・研修管理の長期専門家と財務分野、施設管理分野、人材開発分野などの短期専門家を導入して、(1) 水道公社における事業計画策定に必要なデータ管理強化、(2) 水道公社における短期・中期・長期事業計画策定・実施能力強化、(3) 水道公社内部及び国レベルでの事業計画モニタリング強化、(4) 以上を踏まえた水道事業計画技術ガイドライン整備、(5) パイロット以外の水道公社における事業計画策定を促進するためのメカニズム構築を行うことにより、水道公社の中長期的視野に基づいた事業管理能力強化の仕組み整備を図るものである。本事業を通じて、将来、ラオス国の全水道公社が中長期の事業計画に基づいて、施設の拡張・更新及び給水の安定化を図れるようになり、持続可能な水道体制を実現することに寄与するものである。

ルアンプラバン郡以外には将来の水需要を踏まえた給水施設の計画が策定されていない。その他地域は個人による引き水が殆どで十分な給水施設は整備されていないところが多い。

(2) ルアンプラバン郡の上水道計画の概要

ルアンプラバン郡給水施設マスタープラン(Master Plan for Water Supply System of Luang Prabang)は、Thailand International Development Cooperation Agency (TICA)と Metropolitan Waterworks Authority Ministry of Interior Thailand(MWA)の支援によって 2013 年 8 月に策定された。このマスタープランは目標年次 2033 年までの水需要を予測し、それに必要な給水施設等を開発するためのガイドラインとなっている。ルアンプラバン上水道区域における将来の給水施設能力は 45,000m³/日が必要とされる。このマスタープランの計画フレームの概要を表 4.2.1 に示す。

表 4.2.1 ルアンプラバン郡給水施設マスタープランの概要(計画フレーム)

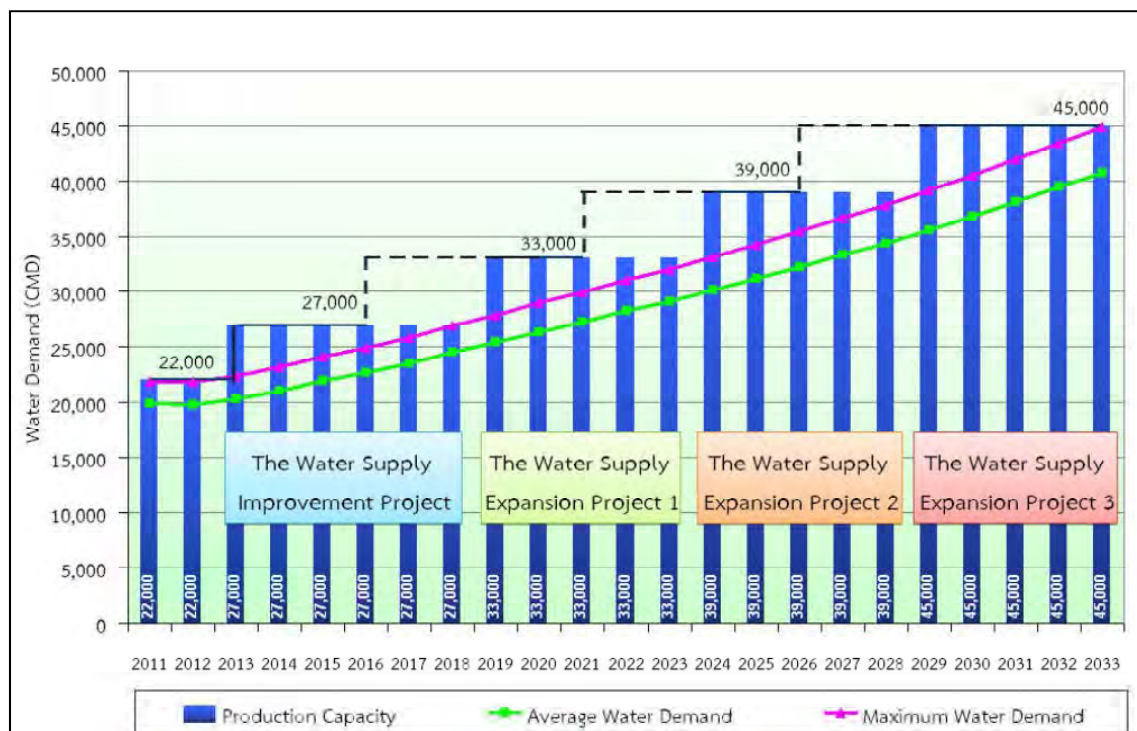
項目	計画内容
目標年次	2013 年から 2033 年まで
給水人口	2012 年: 現地人口 81,125 人, 訪問人口 1,765,278 人 2033 年: 現地人口 123,000 人, 訪問人口 2,968,000 人
給水区域率	2012 年: 79% 2033 年: 93%
給水施設能力	2012 年: 22,000m ³ /day (2013 年:27,000m ³ /day) 2033 年: 45,000m ³ /day

出典：Master Plan for Water Supply System of Luang Prabang(2013)

このマスタープランの実施計画は、以下に示す 4 つフェーズによって構成される。(図 4.2.5

を参照)

- 改善事業(2014～2018 年)：既存施設を改善して処理機能の効率化
- 拡張事業 Phase 1(2016～2019 年)：Souphanouvong WTP の能力増設 6,000m³/日,等
- 拡張事業 Phase 2(2021～2024 年)：南地区に能力 6,000m³/日の WTP を新設, 等
- 拡張事業 Phase 3(2026～2029 年)：Namkhan WTP の能力増設 6,000m³/日,等



出典：Master Plan for Water Supply System of Luang Prabang(2013)

図 4.2.5 給水施設マスタープランによる水需要と施設能力

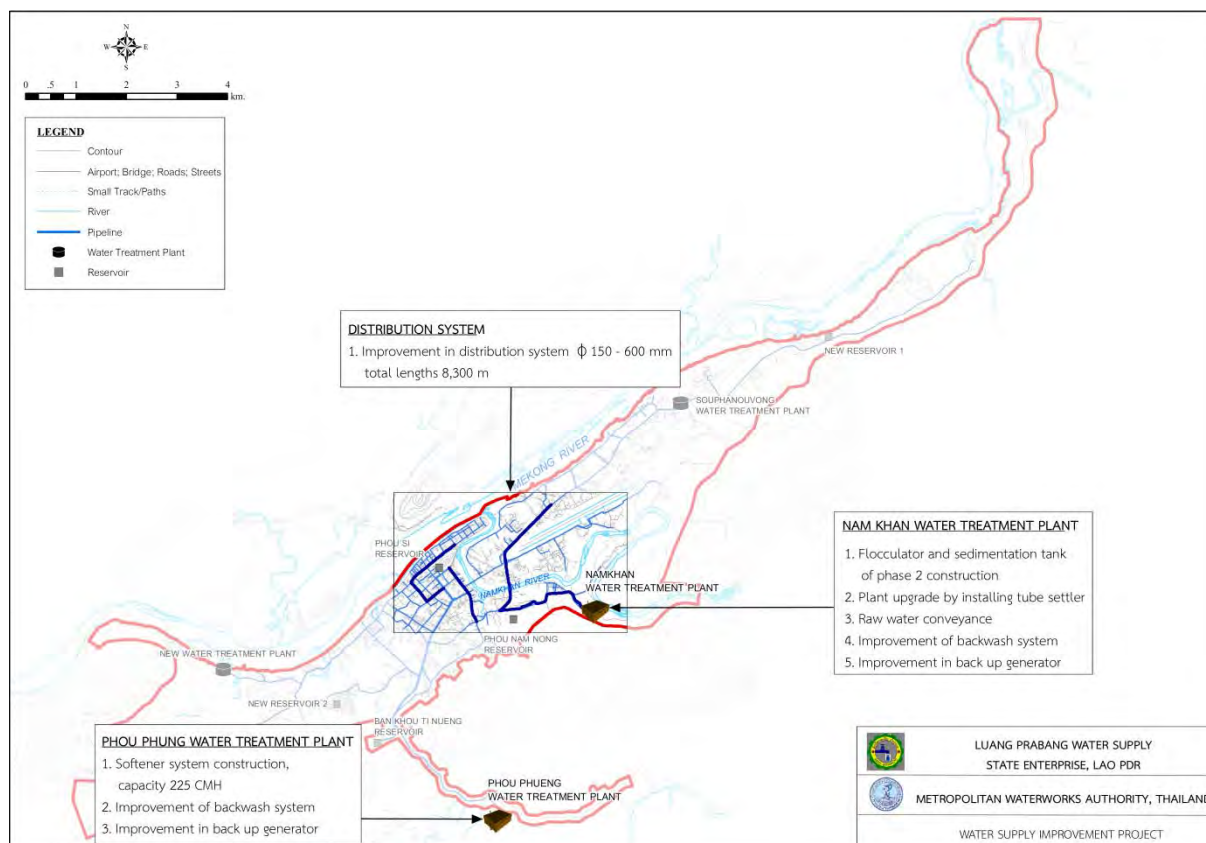
このマスタープランの各フェーズの事業概要を表 4.2.2 と図 4.2.6 に示す。

表 4.2.2 ルアンプラバン郡給水施設マスタープランの事業概要

フェーズ	事業内容
改善事業	1) Namkhan WTP の改善事業 <ul style="list-style-type: none"> • 2 系列目(能力 6,000m³/日)に凝集沈殿槽および沈殿池を追加設置 • メコン河からの原水の導水施設の改善 • 既存の機械設備や電気設備の改良, 等 2) Phou Phueng WTP の改善事業 <ul style="list-style-type: none"> • 湧水の原水から炭酸カルシウム(CaCO₃)を除去する軟水化装置の設置 • 既存の計測装置や電気設備の改良, 等 3) 配水設備の改善事業 <ul style="list-style-type: none"> • Namkhan WTP と Souphanouvong WTP との間に φ600mm の送水管の設置(延長 5km) • ルアンプラバン市街地において φ150－200mm の配水管の置換(延長 3.3km) • ルアンプラバン競技場のジョイント部に流量調節弁を設置, 等
拡張事業 Phase 1	1) Souphanouvong WTP における増設事業 <ul style="list-style-type: none"> • 施設能力 6,000m³/日の WTP を増設

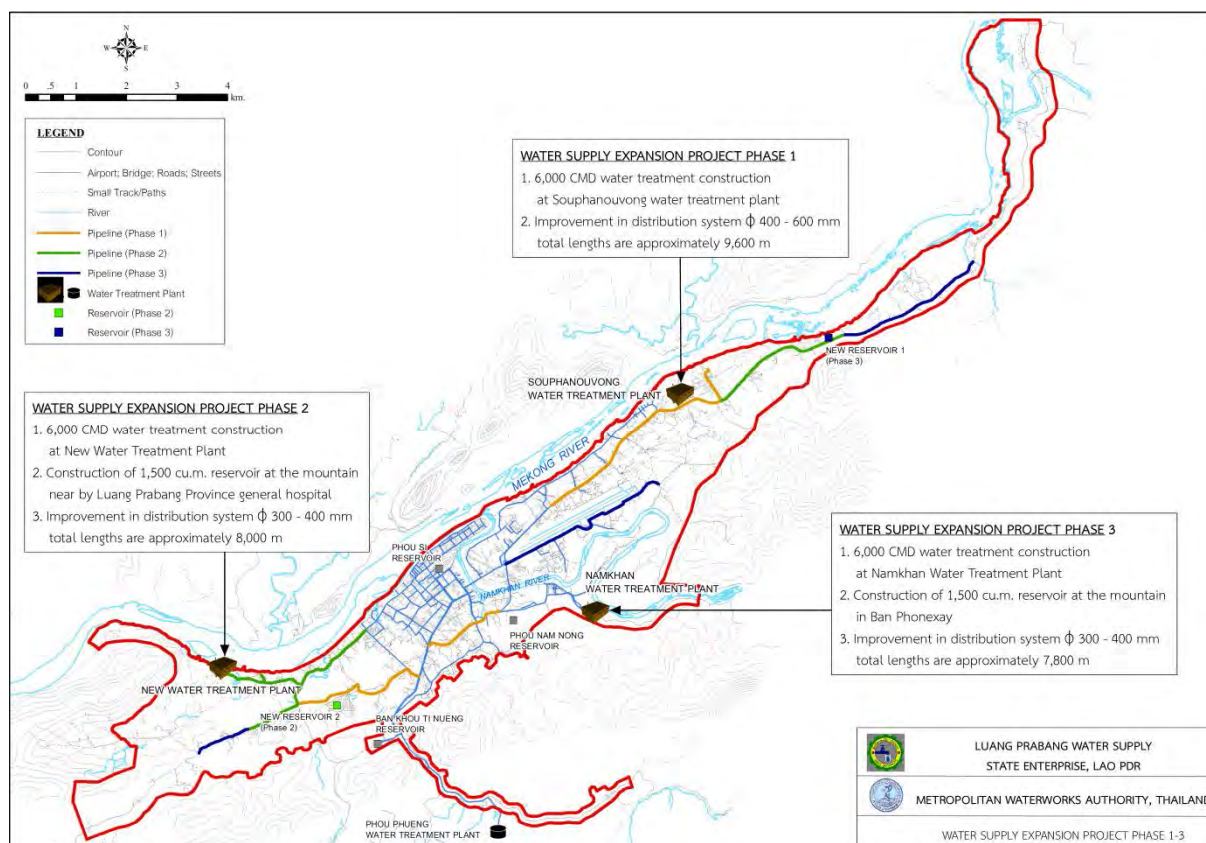
フェーズ	事業内容
	<ul style="list-style-type: none"> メコン河より原水の導水施設の建設 2) 給水区域の拡張事業 φ400－600mm の送水管および配水管を敷設(延長 9.6km)
拡張事業 Phase 2	<ol style="list-style-type: none"> 南地区に新しい WTP の建設事業 施設能力 6,000m³/日の WTP を増設 メコン河より原水の導水施設の建設 2) 給水区域の拡張事業 φ300－400mm の送水管および配水管を敷設(延長 8.0km) ルアンプラバン県総合病院の近くの山に 1,500m³ の貯水槽を建設
拡張事業 Phase 3	<ol style="list-style-type: none"> Namkhan WTP における増設事業 施設能力 6,000m³/日の WTP を増設 メコン河より原水の導水施設の建設 2) 給水区域の拡張事業 φ300－400mm の送水管および配水管を敷設(延長 7.8km) Phonexay 村の山に 1,500m³ の貯水槽を建設

出典：Master Plan for Water Supply System of Luang Prabang(2013)



出典：Master Plan for Water Supply System of Luang Prabang(2013)

図 4.2.6 給水施設マスタープランによる既存施設の改善事業



出典：Master Plan for Water Supply System of Luang Prabang(2013)

図 4.2.7 給水施設マスタープランによる拡張事業(Phase1,2,3)

このマスタープランでは、これら事業の概算事業費と年次別資金計画を検討し、その結果から推奨される水道料金(2033 年で $0.53\text{US\$}/\text{m}^3$)を試算している。これらの事業を実施する資金として中央政府やルアンプラバン県に対して補助金等の交付を求めると共に、民間投資事業の導入についても並行して検討している。この他に、上水道事業を適切かつ効率的に進める上で必要な組織や管理システムなどについて、以下の事項を提案している。

- リスク管理、人的資源管理、能力評価システム(Balanced Scorecard)に基づいた組織開発および能力強化
 - 給水状況を常時モニタリングして適切に水道施設を運転管理するための遠隔監視制御システム(Supervisory Control And Data Acquisition : SCADA)
 - 顧客情報システム(Customer Information System : CIS)や顧客関係マネジメント(Customer Relationship Management : CRM)のようなサービス
 - 漏水管理アプリケーション(Water Leakage Management Applications : WLMA)による無収水(NRW)の対策
 - ルアンプラバン水安全計画に基づいた Water Safety Plan(WSP)チームによる水質管理
 - 地理情報システム(Geographic Information System : GIS)を用いた施設管理と更新計画
- 現在、この計画を見直して民間水道事業者とのコンセッション契約が予定されている。

(3) 消防設備

ルアンプラバン遺産局および関係者へのヒアリングによると、ルアンプラバン世界遺産地区における防火対策が求められている。現在、世界遺産地区内には消火栓が 4 つしかないため消火栓の追加が必要である。

世界遺産指定の寺院等は狭い路地にあるため大きな消防車では消火活動が難しいので小型の消防車両の導入とその敷地内に放水銃などの防火設備の設置が必要である。寺院等に設置する放水銃やスプリンクラー等については、日本の白川郷や京都文化財建物等の防火対策を参考にすべきである。消防施設や防火訓練の事例を図 4.2.8～図 4.2.10 に示す。

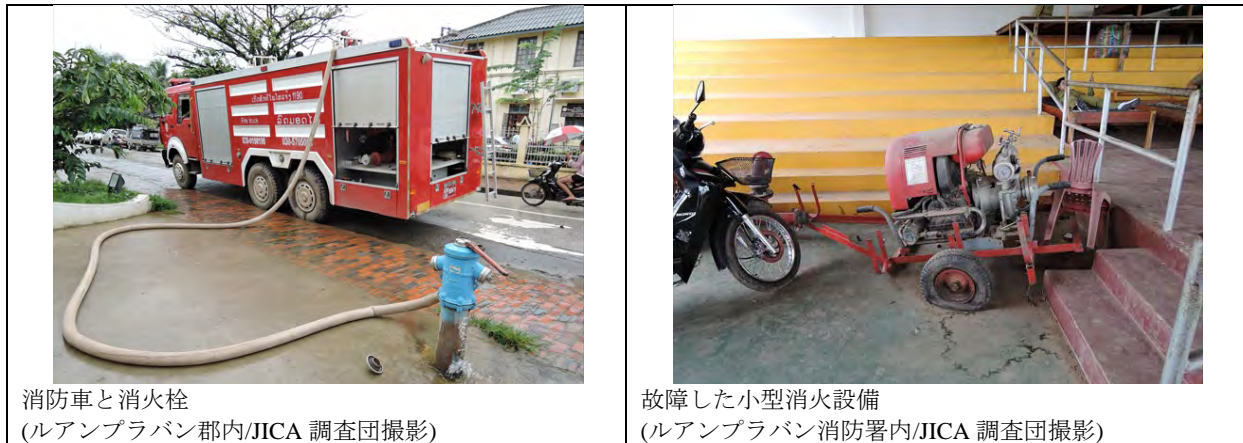


図 4.2.8 ルアンプラバン消防設備



図 4.2.9 消防設備の事例



図 4.2.10 防火訓練の事例

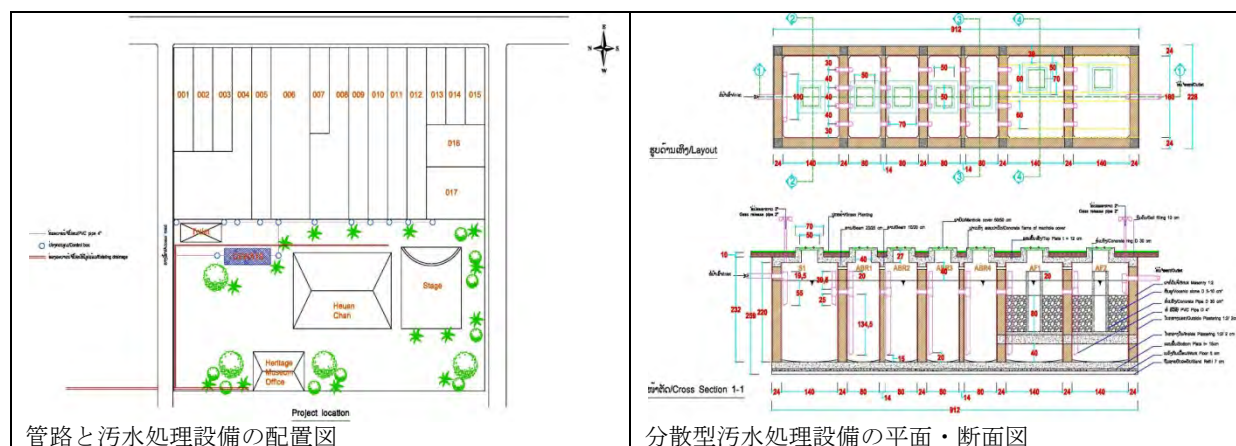
4.2.2 下水道

(1) ルアンプラバン郡の下水道施設の現状

ルアンプラバン郡は下水道処理システムを有しておらず、各家には屎尿汚泥を溜めるセプティックタンク(嫌気性腐敗槽)が設置してあるところがあるが、生活雑排水は未処理のまま排水路や河川へ垂れ流しの状態である。ルアンプラバン市街地のホテルやレストランの一部にはグリーストラップや接触ばっ気槽が付いた合併処理浄化槽を設置しているところもあるが、その維持管理が不足しており十分な処理機能を発揮していない。世界遺産地区の医療学校内に関連建物 20～30 戸を対象にした小規模な分散型污水处理設備が 1 箇所ある。これと同様の分散型污水处理設備(30～40 戸対象)をルアンプラバン国立博物館の近くに新設する計画がある。下水道施設の現状を図 4.2.11、分散型污水处理設備の概要図を図 4.2.12 に示す。



図 4.2.11 下水道施設の現状



出典: ASE AN ESC Model Cities Programme/UDAA 提供

図 4.2.12 分散型汚水処理設備の概要図

(2) ルアンプラバン郡の下水道計画の概要

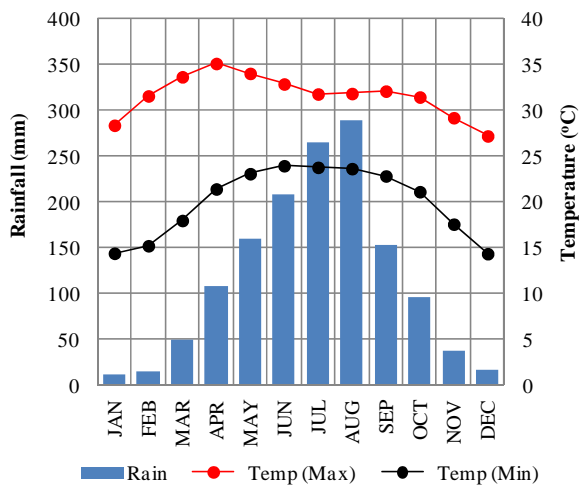
ルアンプラバン郡の下水道計画は、フランス開発庁(AFD)の支援により「排水下水マスタープラン」として 2013 年 3 月に策定されている。その概要は排水計画と共に「4.3.4 排水 - (1) 排水下水マスタープラン」の項で合わせて整理する。

4.3 洪水・排水

4.3.1 気象・水文概況

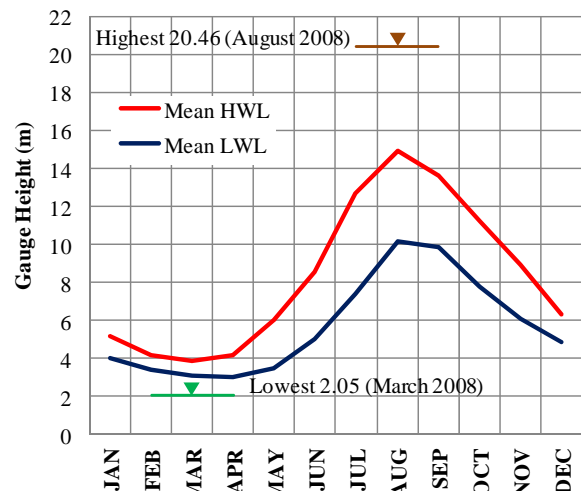
ルアンプラバン県は熱帯モンスーン気候地域に位置しており、4～10 月が雨季、11～3 月が乾季となる。過去 30 年間（1983～2012）の気象観測データによれば、ルアンプラバン県における年平均降雨量は 1,414 mm であり、月雨量は 8 月にピークとなる。月別の平均日最高気温は 35.2～27.3℃ で 4 月に最高となり、平均日最低気温は 14.4～24.0℃ で 12 月に最低となる（図 4.3.1）。

ルアンプラバン郡は、メコン河中流域の右岸、カーン河との合流点付近に位置する。過去 30 年間（1983～2012）の河川水位観測データ（量水票の読み）によれば、メコン河の平均年最高水位は 14.98 m、平均年最低水位は 3.03 m である。また、最高水位は 2008 年 8 月に 20.46 m、最低水位は 1999 年 3 月に 2.05 m が観測された。なお、河川水位観測所における量水票のゼロ点標高は 267.195 m である（図 4.3.2）。



出典：ルアンプラバン気象水文局

図 4.3.1 降雨および気温（1983～2012）



出典：ルアンプラバン気象水文局

図 4.3.2 メコン河の水位（1983～2012）

4.3.2 洪水

ルアンプラバン県公共事業運輸局（Department of Public Works and Transport: DPWT）によれば、2008 年に 20 cm、1966 年には 1 m の浸水が発生したとのことであった。メコン河の河川水位観測所付近の河岸地盤高は、量水票の読みを参照すると 22 m 程度である。これに対し、2008 年の最高水位は 20.46 m であった（図 4.3.3）。したがい、観測所付近では浸水は発生しなかったものの、河川沿いで地盤の低い場所で浸水が発生したと推測される（図 4.3.4）。なお、Annual Mekong Flood Report 2008（メコン河委員会、2009 年 9 月）によれば、1966 年に観測史上最高水位である 22.40 m が記録されている。



出典：JICA 調査団

図 4.3.3 メコン河の河川水位観測所

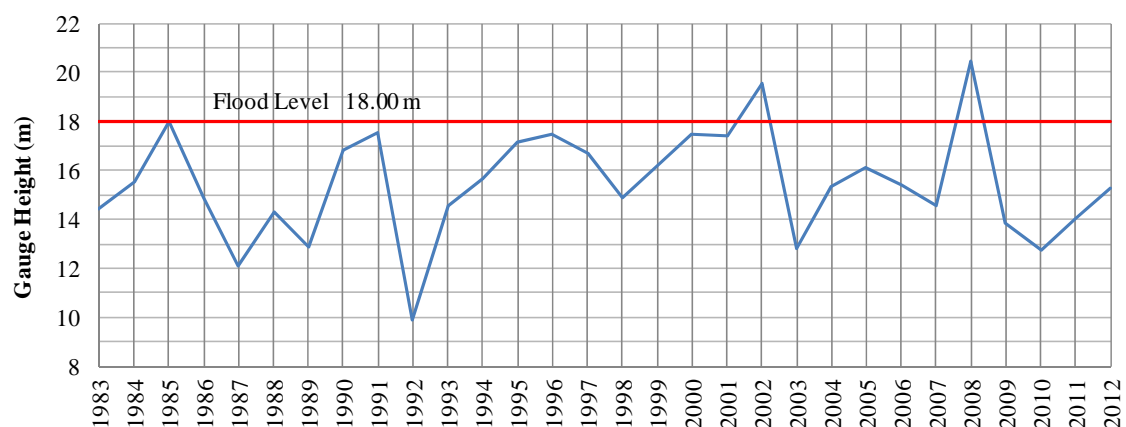


図 4.3.4 2008 年の浸水状況

メコン河委員会（Mekong River Commission: MRC）は、ルアンプラバン河川水位観測所において Flood Level を 18.0 m、Alert Level を 17.5 m と設定している。毎年の最高水位記録と Flood Level を比較すると、過去 30 年間に於いて Flood Level を超えたのは 2002 年、2008 年の 2 回である（図 4.3.5）。それ以前に遡っても Flood Level を超えたのは 1966 年、1971 年の 2 回である。すなわち、2008 年のような浸水が発生する頻度は低い。

また、メコン河沿いおよびカーン河沿いの道路とメインストリートである Chao Fa Ngum Road、Sisavangvong Road、Sakkaline Road との標高差は約 10 m もしくはそれ以上である。したがって、1966 年のような観測史上最大クラスの洪水発生を想定する場合でも、浸水範囲は河川沿い道路付近に限られ、メインストリート付近は浸水しないと推測される。

一方、DPWT によれば、2008 年にはメコン河およびカーン河の水位上昇による背水の影響でルアンプラバン郡内の中小河川に逆流が発生し、河川沿い低地の一部が浸水したとのことであった。DPWT は、このような中小河川沿いの浸水対策として、逆流防止ゲートを 6 カ所に設置する計画を提案している。



出典：ルアンプラバン気象水文局

図 4.3.5 メコン河の毎年最高水位（1983～2012）

4.3.3 河岸利用

世界遺産地区において、メコン河およびカーン河沿いに歩道や河岸法面に多数のレストラン等が営業している。ルアンプラバン遺産局によれば、このようなレストラン等は 116 か所確認されており、その大半は無許可で歩道や河岸法面を占拠しているとのことである（図 4.3.6）。ルアンプラバン遺産局は、このようなレストラン等に対する規制を強化することにより、以下のように河岸沿いの景観保全対策を進める計画である。

(1) 概要

2013 年 3 月 7 日、ルアンプラバン遺産局および関係者間で景観保全対策について合意形成された。

- カーン河（両岸）のメコン河合流点～Old Bridge の区間では、河岸沿いでのレストラン等の営業は認めない。
- メコン河（左岸）のカーン河合流点～DPWT 庁舎の区間では、河岸沿い歩道でのレストラン等の営業は認めない。一方、河岸法面においては景観保全対策が考慮されている場合はレストラン等の営業を認める。

(2) 規制

1) 河岸利用の条件：

- 河川沿いの T 字交差点において、河川に向かう道路側からの見通しを妨げないよう、T 字交差点から河川沿いに両側それぞれ 7.5 m 以内の範囲は利用不可。
- 河岸法面に設置されている階段および雨水放流口の両側それぞれ 3 m 以内の範囲は利用不可。樹木の周囲 3 m 以内の範囲は利用不可。

2) レストラン等の設置条件：

- 河岸法面のテラスデッキは、歩道から河川への見通しを妨げないよう、歩道面よりも 1.5 m 低い位置とする。テラスデッキの面積は 50 m²（幅 5 m、長 10 m）を上限とする。テラスデッキは 100%木材とする（地中部分となるコンクリート基礎を除く）。テラスデッキに屋根を設置することは不可、白色のパラソルのみ可とする。
- その他レストラン等の装飾は景観保全に沿うものでなければならない。

3) 看板：

- レストラン等の看板は木製でサイズは幅 0.7 m、高さ 1.0 m を上限とする。

4) レストラン等が遵守する事項：

- 政策、法律等に従うこと
- 建物は河岸沿い道路を挟んで河岸とは反対側（陸上側）に設けること
- トイレ、キッチン建物は建物に設けること
- 用地使用料を支払うこと
- 用地使用許可の文書手続きを行うこと
- 用地の清潔を保つこと

5) 河岸利用での禁止事項：

- 家畜を飼育すること

- 洗濯物を干すこと
- 薪、砂利などを備蓄すること
- 建物を設けること
- レストラン等を他者に譲渡すること
- トイレ、キッチンを設けること（公共トイレを除く）



河川への見通し妨げ（営業を認めず）



歩道の占拠（営業を認めず）



テラスデッキ（営業を認めず）



テラスデッキ（改善予定、営業を認める）

出典：ルアンプラバン遺産局

図 4.3.6 既存レストラン等の例

(3) 景観保全対策

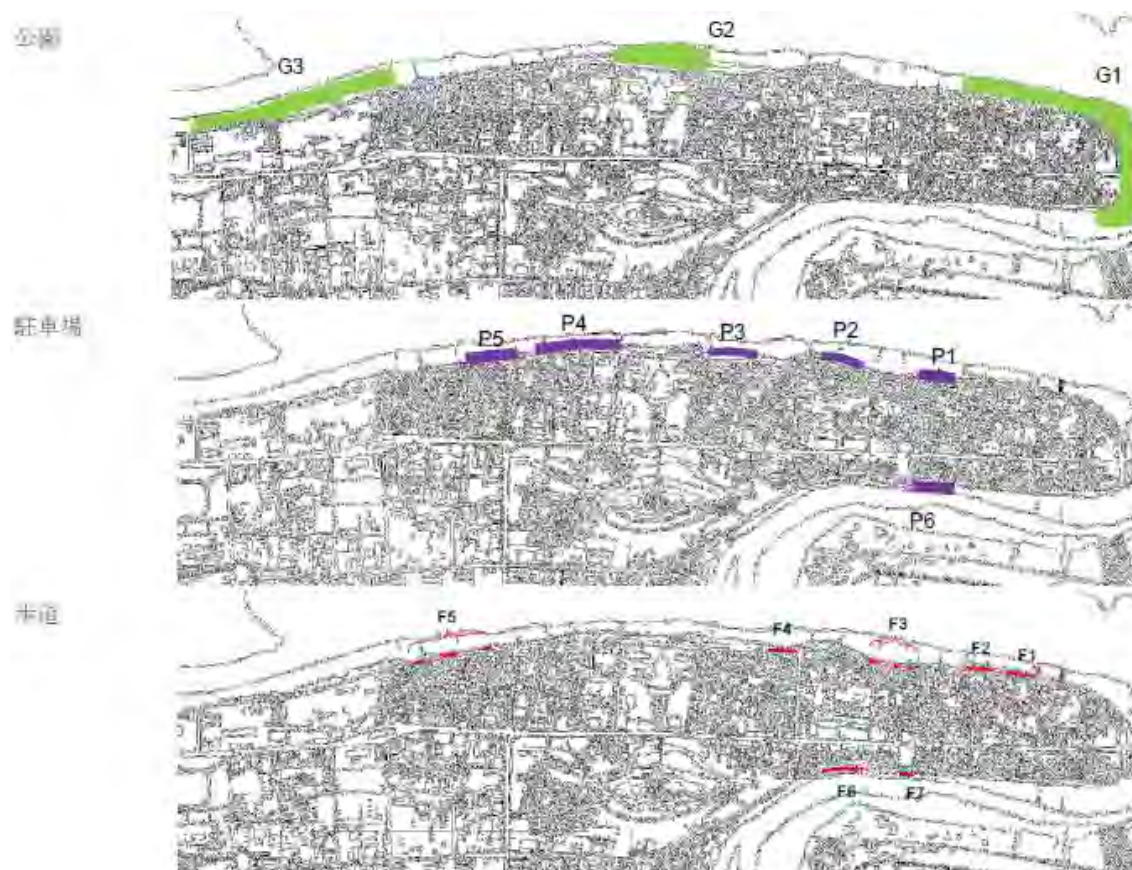
- 1) 河川沿いの T 字交差点：
 - 河川に向かう道路側からの見通しを妨げているものの営業は認めない（15 カ所）。
- 2) 歩道
 - 歩道を占拠するものの営業は認めない（38 カ所）。
- 3) 河岸法面のテラスデッキ：
 - 設置条件を満たしていないものの営業は認めない（42 カ所）。
- 4) 河岸法面のテラスデッキ（改善予定）：
 - 設置条件を満たすよう改善予定のものは営業を認める（21 カ所）。
- 5) 公園：
 - 3 区間で公園を整備する（図 4.3.7）。

6) 駐車場：

- 6 区間で駐車場を整備する（図 4.3.7）。

7) 歩道：

- 7 区間で歩道を整備する（図 4.3.7）。



出典：ルアンプラバン遺産局

図 4.3.7 公園、駐車場および歩道の整備計画

なお、ルアンプラバン遺産局によれば、UNESCO による保存対象となっている河岸沿いの建物は前述の規制の対象にはなっていないとのこと。例えば、メコン河とカーン河の合流点を一望できる Viewpoint Cafe の 2 つの建物は保存対象である。ルアンプラバン遺産局は、Viewpoint Cafe のオーナーである Mekong River View Hotel に対して建物の利用を許可すると共に、その維持管理を委託している。これは PPP の一つとして位置づけることができる。

4.3.4 排水

(1) 排水下水マスタープラン

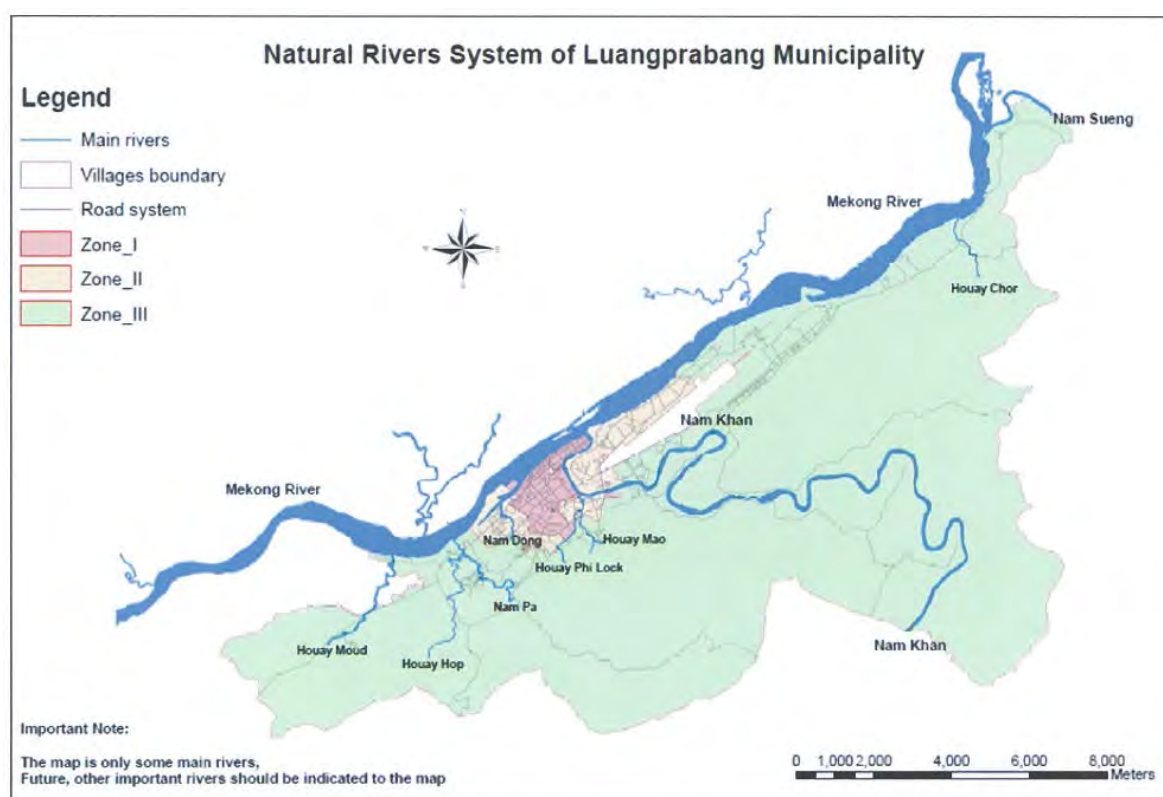
Technical Assistance for the Design and Conduction of the Master Plan for Drainage and Sewerage System of Luang Prabang は、フランス開発庁（Agence Française de Développement : AFD）の支援により、ルアンプラバン都市開発・管理局（Urban Development Administration Authority: UDAA）が実施機関となって 2012 年 2 月に着手され、2013 年 3 月に最終報告書（以下、排水下水マスタープラン）がとりまとめられた。

排水下水マスタープランの対象地域は、ルアンプラバン郡の 72 地区（Village）であり、世界遺産地区及び人口密度を考慮して Zone I、II、III に区分されている。Zone I は、雨水排水システムが概ね整備されている中心市街地（Zone I-A）と自然の排水系統である中小河川・湿地が残っている市街地（Zone I-B）に区分されている（表 4.3.1、図 4.3.8）。

表 4.3.1 排水下水マスタープランの対象地域

対象地域	Zone	区分
ルアンプラバン郡の 72 地区（Village）	I-A	世界遺産地区：雨水排水システムが概ね整備されている中心市街地
	I-B	世界遺産地区：自然の排水系統である中小河川・湿地が残っている市街地
	II	世界遺産地区に隣接する都市域：人口密度 > 2,000 人/km ²
	III	郊外地域：人口密度 < 2,000 人/km ²

出典：排水下水マスタープラン（UDAA、2013 年）



出典：排水下水マスタープラン（UDAA、2013 年）

図 4.3.8 排水下水マスタープランの対象地域

排水下水マスタープランの概要は次のとおりである。

表 4.3.2 排水下水マスタープランの概要

	短期 (2013～2015)	中期 (2016～2020)	長期 (2021～2037)
Zone I-A	<ul style="list-style-type: none"> 雨水排水施設は整備済み 污水管渠 (分流式) の計画・設計 分散型污水处理設備の計画・設計 	<ul style="list-style-type: none"> 污水管渠の建設 分散型污水处理設備の建設 	<ul style="list-style-type: none"> 污水处理場 (Zone III に建設を想定) に至るまでの污水管渠、污水中継ポンプ場の計画・設計・建設
Zone I-B	<ul style="list-style-type: none"> 雨水排水施設の建設 Settled Sewerage System (簡易污水处理+污水管渠) の計画・設計 湿地を利用した自然浄化施設の計画・設計 	<ul style="list-style-type: none"> Settled Sewerage System の建設 湿地を利用した自然浄化施設の建設 	<ul style="list-style-type: none"> Settled Sewerage System の建設 湿地を利用した自然浄化施設の建設 污水处理場 (Zone III に建設を想定) に至るまでの污水管渠、污水中継ポンプ場の計画・設計・建設
Zone II	<ul style="list-style-type: none"> 雨水排水施設の計画 Settled Sewerage System (簡易污水处理+污水管渠) の計画・設計 湿地による自然浄化施設の計画・設計 	<ul style="list-style-type: none"> 既存市街地における雨水排水施設の設計・建設 Settled Sewerage System の建設 湿地を利用した自然浄化施設の建設 	<ul style="list-style-type: none"> 新規開発地区における雨水排水施設の設計・建設 Settled Sewerage System の建設 湿地を利用した自然浄化施設の建設 污水处理場 (Zone III に建設を想定) に至るまでの污水管渠、污水中継ポンプ場の計画・設計・建設
Zone III	<ul style="list-style-type: none"> 雨水排水施設の計画 セプティックタンク普及の計画 汚泥処分施設の建設 	<ul style="list-style-type: none"> 雨水排水施設の設計・建設 セプティックタンク普及の実施 汚泥処分施設の拡張 	<ul style="list-style-type: none"> 雨水排水施設の設計・建設 セプティックタンク普及の実施 (100%達成) 污水处理場の計画・設計・建設 汚泥処分施設の拡張

出典：排水下水マスタープラン (UDAA、2013 年)

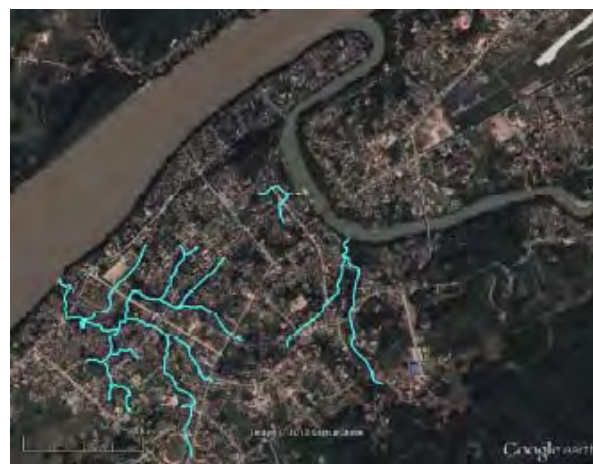
(2) 世界遺産地区の周辺における雨水排水施設の整備状況

排水下水マスタープランによれば、世界遺産地区である Zone I では、2003 年までにすべての道路沿いに道路側溝・雨水管渠が整備された。Zone I-A はほぼ全域が道路側溝・雨水管渠による雨水排水網でカバーされており、雨水はメコン河またはカーン河に放流されている。現地踏査の結果、メコン河沿いに 13 か所、カーン河沿いに 10 か所の放流口が確認された。一方、Zone I-B では、道路側溝・雨水管渠に流入した雨水は、中小河川を經由してメコン河またはカーン河に放流されている。現地調査では、市内河川の道路横断部分の確認および Google Earth 画像から、中小河川による排水系統を概略推定した (図 4.3.9)。



Zone I-A 及び Zone I-B の区分

出典：排水下水マスタープラン（UDAA、2013 年）



中小河川

出典：JICA 調査団

図 4.3.9 世界遺産地区（Zone I-A, Zone I-B）および周辺の中小河川

現地踏査で観察された雨水排水の問題点は次のとおりである。

- 道路側溝の維持管理が十分に行われていない。流入口が目詰まり、ごみ・土砂の堆積、水路沿いの草木繁茂が見られる。
- メコン川またはナムカン川への放流口は不衛生な状態である。住宅、ホテル、ゲストハウス、レストラン等にはセプティックタンクが設置されており、簡易処理を経て道路側溝に排出されているが、汚水の一部は未処理で排出されていると推測される。また、放流口付近にごみが投棄されている。
- 雨水排水系統である中小河川はほとんど維持管理されていない。家屋が密集しており河川へのアクセスが困難である。
- 中小河川沿いには湿地が存在しており保全対象とされているが、事実上は道路からのアクセス条件がよくない土地が取り残されているという印象。また、周囲の家屋から排出される汚水流入により環境が劣化している。



道路側溝



放流口



河川



湿地

図 4.3.10 雨水排水の問題点

4.4 廃棄物

4.4.1 ゴミ収集

(1) ゴミ収集の現状

ルアンプラバン郡におけるゴミ収集は UDAA、民間ゴミ収集事業者及び市場事業者によって行われている。ゴミ収集量は廃棄物処分場のトラックスケールにより管理されている。2015年7月のゴミ収集量は以下のとおりである。

- UDAA : 623,350kg (261 台)
- 民間事業者 : 1,021,890kg (250 台)
- 市場事業者 : 117,230kg (78 台)
- その他個人 : 15,550kg (39 台)
- 合計 : 1,778,020kg (628 台)

尿尿汚泥の収集運搬は民間事業者により実施されている。

- 民間事業者 : 361,770m³ (118 台)

(2) ゴミ収集の計画

現在はルアンプラバン郡内において UDAA と民間事業者によってゴミ収集しているが、今後は UDAA が収集区域をルアンプラバン県の広範囲へ拡大させる計画を持っている。

4.4.2 廃棄物処分場

(1) 廃棄物処分場の現状

ルアンプラバン郡で収集された廃棄物は市街地中心から南へ約 8km のところにある UDAA 管理の廃棄物処分場へ搬入して埋め立てしている。廃棄物処分場の設備として掘削機、ブルドーザ、管理棟ワークショップ、トラックスケールなどが JICA によって支援されている。廃棄物処分場の位置図と現状を図 4.4.1～図 4.4.2 に示す。

廃棄物処分場の奥に汚泥の廃棄場があるがその処理能力は不十分であり、実際にはし尿汚泥が廃棄物と一緒に処分されている状態である。衛生上好ましくなく、土壌環境等への影響が懸念されている。



図 4.4.1 廃棄物処分場の位置図



図 4.4.2 廃棄物処分場の現状

(2) 廃棄物処分場の計画

ルアンプラバン郡のゴミ収集区域の拡張や都市の発展などに伴いゴミの処分量が増大していくため、廃棄物処分場の拡張や新設が必要となってくる。

- ルアンプラバン郡の廃棄物処分場を拡張する(既存の 15ha から 20 ha に拡張)
- Pak Ou 地区(市内から約 25km)に新しい廃棄物処分場を検討している(Ban Viengsavan、Ban Xanghai、50ha 規模、事業費：US\$ 5 百万)

4.5 保全対象建物の保全状況

ルアンプラバン県は 1995 年に UNESCO 世界遺産に登録されたことを受け、800ha を対象に Heritage Preservation and Development Master Plan を作成し、世界遺産の保全を行っている。この規制の範囲は世界遺産の範囲と同じである。加えて、この計画の実効性を担保するために、各種の条例が制定・施行されている。

その後保全区の外の開発需要が高まり、UNESCO 世界遺産の指示により、保全区の外を Buffer Zone (約 12,500ha) として指定し、開発コントロールを行っている。Regulation on Luang Prabang Urban Planning (2012)に基づき、規制誘導が行われている。

- これはルアンパバンの遺産が周囲の山と川と一体化してその価値が存在するという考えに基づいており、プーシーの丘から望める稜線の内側エリアが全て対象範囲となっている。
- さらに Buffer Zone の計画の中でバイパスを提案する等市内への通過交通を減らす対策が検討されている。

主な役割分担として、ルアンプラバン保全区 (ZPP) は World Heritage Dep.が開発の管理を行い、Buffer Zone は DWPT が開発の管理を行っている。さらに保全区の管理として Construction Committee を設立し、景観に影響が大きい開発 (建物建設、ゲストハウス等商業施設、等) の申請は、World Heritage Dep.ではなく Committee で協議・審査する。1 年におよそ 4~5 件程度が Committee の審査案件としてあがってくる。最終的な許可のサイナーは、Committee の Chairperson でもある副知事である。

表 4.5.1 保全区 (ZPP) 及び周辺区 (Buffer Zone) に関する開発規制基準及び責任機関

	保全区 (ZPP)	周辺区 (Buffer Zone)
開発規制基準	Heritage Preservation and Development Master Plan	Regulation on Luang Prabang Urban Planning (2012)
責任機関	<ul style="list-style-type: none"> • World Heritage Office, Ministry of Information and Culture (小規模) • Committee (大規模、重要事業) 	<ul style="list-style-type: none"> • DPWT • Committee (大規模、重要事業)

出典：JICA 調査団

一方、建物の規制は建て替えや増築に制限がかかるため、家族のための小規模な増改築が認められておらず、地元住民の生活が不便になることがある。また、保全対象建物の修復は、殆どの場合には住民の負担になっているが、行政等がこれらを負担する仕組みが整っておらず、国際機関の支援に頼っている。保全対象建物を持続的に保全するための制度 (税金、ファンド、等) の導入が必要である。

第5章 ルアンプラバン観光開発の課題

5.1 課題整理の方法

ラオスで行ったヒアリング及びワークショップの結果を基に、ルアンプラバン観光開発の状況を SWOT 分析にまとめた。さらに、インフラ、歴史的遺産、歴史・文化・自然、社会経済、生活向上、観光のマーケティングの観点から課題を整理する。

5.2 観光開発の SWOT

『ルアンプラバン観光開発及びマーケティング戦略計画 2011-2020』、DICT との協議及びワークショップの結果を踏まえた、ルアンプラバン県観光分野の SWOT 分析の結果を下図に示す。

		External Environment 外部環境	
		Opportunity 機会	Threat 脅威
ルアンプラバン県観光分野のSWOT分析 ※強み・弱み・機会・脅威は、それぞれ『ルアンプラバン観光開発及びマーケティング戦略計画2011-2020』を参照した。また、その後、DICTと協議・検討した。 ※その分析はJICA調査団によるが、DICTも確認済みである。		O1: 党幹部が社会経済計画の観点から観光分野を重視している。 O2: 国際空港が機種・ネットワークの面から改善されている。 O3: 交通アクセスが改善されつつある文化的価値の高い世界遺産である。 O4: 観光分野において近隣諸国との協力体制がある。 O5: ASEAN経済コミュニティとの協力により海外投資を呼び込める。 O6: ベスト観光地としての世界的評価が高い。	T1: 世界遺産に関する法制度が遵守されていない。 T2: 急速な観光化が伝統社会や地元文化に悪影響を与え得る。 T3: 石油価格の世界変動の影響を受け得る。 T4: 直行便が就航する近隣諸国の社会不安・自然災害に影響されやすい。 T5: 秀逸な人材がいなければASEAN経済コミュニティに統合されてむしろ他国にチャンス奪われる。 T6: 基礎インフラが脆弱である。 T7: 良好な自然環境が失われつつある。
Internal Environment 内部環境	Strength 強み	Maximum utilization of strength 強みを最大化する ●観光を県の最重要分野とし、対外プロモーションを充実させる。 ●観光商品を多様化する(外国人観光客の県内分散・滞在期間長期化を目指す)。 ●国内外からの観光投資を呼び込む。 ●歴史的価値を継続的に高めていく。 ●少数民族の文化を守りながら文化観光を発展させ、さらなる付加価値を創造する。	Avoidance by using strength 強みを活用して脅威を軽減する ●法制度・ガイドライン等の充実を図る。また、その効果的な運用に耐える有能な人材を育成する。 ●オフシーズンの観光活性化(グリーンツーリズム)を振興する。 ●負のインパクトを軽減するような環境インフラを整備する。
	Weakness 弱み	Supplement & improvement by trying not to lose opportunity due to weakness 弱みのせいで機会を失わないよう努力する。 ●(自国政府の後押しや近隣諸国との連携体制を利用して)観光分野に関わる有能な人材を育成する。 ●観光管理の充実・観光インフラ整備の為、必要な調査・計画・設計・施工を推進する。	Avoidance of the expected worst case 想定される最悪のシナリオを避ける ●UNESCO及び種々のドナーと緊密に連携し、遺産保全・文化保護・安心安全の防災まちづくりを推進する。

出典:『ルアンプラバン観光開発及びマーケティング戦略計画 2011-2020』、DICT 協議、ワークショップを基に JICA 調査団が作成

図 5.2.1 ルアンプラバン県観光分野の SWOT 分析

SWOT 分析を基に観光開発の課題を以下にまとめる。

- ① 外国人の滞在日数を増加させることで観光収入を上げ、同時に観光客を県内各地へ分散させることで世界遺産地区の環境負荷を低減する。そのためには、観光商品の多様化が必要である。
- ② 同時に、それらの観光商品の対外プロモーションを強化する必要がある。
- ③ また、国内外からの観光投資を呼び込み、住民への裨益構造を構築する必要がある。
- ④ 世界遺産の価値を持続させるとともに、外国人観光客の滞在の満足度を上げ、またあらゆる経済のしくみが統合されつつある ASEAN 内部の競争に勝つためには、官民の観光分野関係者に対し、その資質向上を目的として広く教育訓練を実施する必要がある。
- ⑤ 観光管理の仕組み作り、観光インフラの改善の為に、必要な調査・計画・設計・施工を実施する必要がある。
- ⑥ 観光に関する法制度やガイドライン等を、運営担当者の人材育成も含めて充実する必要がある。
- ⑦ 観光施設の有効利用と住民裨益増、環境負荷の空間的・時間的な一点集中を回避する持続的な観光を確保するため、ルアンプラバン県全体でオフシーズンの観光活性化（グリーンツーリズム）を振興し、時節間の観光客数の均平化を図るとともに、ゴイ郡等新興観光地における観光客誘致の競争力を上げる必要がある。
- ⑧ UNESCO 及び種々のドナーとの継続的な支援・協力体制を確立し、あらゆる側面から世界遺産としての持続的な観光を保証していく必要がある。

5.3 主要インフラ整備の需要

主要インフラ整備の課題は、インフラ重点分野、事業形成時からの UNESCO 関係機関との協調、HIA の実施の観点から整理する。

5.3.1 インフラの重点分野

インフラの重点分野の課題を、道路・公共交通、上水道、下水道、廃棄物、排水、河岸利用でまとめた。

(1) 道路・公共交通：

ルアンプラバン観光ゾーン

- ① ルアンプラバン観光ゾーンにおいて、手工芸品の村へのアクセス道路や滝・洞窟へのアクセス道路の多くは未舗装であり、雨季にはアクセスが困難となる。また、舗装道路でも部分的に損傷が見られるとともに、既存橋梁も老朽化が著しい等、ルアンプラバン世界遺産地区内外の観光地へのアクセスが十分とは言えない区間が散見される。安定的な観光需要を確保するためにも、季節を問わず観光客がアクセスできるようにするため、下記の道路・橋梁について舗装や損傷の修復等、改修（リハビリ）が必要である。
 - (i) 観光アクセス道路：国際空港の裏手には多数の手工芸品店が立ち並び、多くの観光客が訪れている。これらへの観光アクセス道路は未舗装であり、雨季にはアクセスが困難となる。このため、当該道路につき早急の道路改修（リハビリ）が必要で緊急性も高い。
 - (ii) 国道 13 号線北：ランプラバンにとって主要幹線道路（国際空港から市内へのアクセス）であるとともに観光用道路としての役割も担っており、最重要道路として位置づけられるため、既存道路の拡幅や舗装の改良が必要で緊急性も高い。
 - (iii) 州道路：国道 13 号線北からセー滝(Tad Sae Waterfall)に至る区間はグラベル道路となっており、アクセス性向上のため道路改修（リハビリ）が必要である。
 - (iv) 国道 2501 号：ルアンプラバン世界遺産地区からクワンシー滝（Kuang Si Waterfall）に至る区間は、観光客の交通需要が高いものの、損傷が散見され、道路改修（リハビリ）が

必要で緊急性も高い。

- (v) 観光道路：国道 13 号線北と国道 2501 号線とを連結する区間はグラベル道路となっており、アクセス性向上のため道路改修（リハビリ）が必要である。
 - (vi) ナムカン河に架る既存鉄橋は老朽化が著しく、自動車の走行を制限している。安全性・アクセス性を考慮して早急な付け替えが必要である。
- ② ルアンプラバン市街地では自動車登録台数は約 9 万台を超えており、モーターバイクは経年的に増加している一方、駐車スペースはあまり整備されていない状況となっている。現在、夜間には特定道路に自動車やモーターバイクによる不法駐車が目立ってきている。道路上の違法駐車は道路容量を圧迫する大きな要因の 1 つであるとともに、世界遺産ゾーン内の景観阻害にもつながる。早急な駐車スペースの確保は喫緊の課題である。
- ③ 世界遺産地区は、トラックの日中の乗り入れ禁止等交通規制を実施しており、今後さらなる交通規制の導入を検討している。将来的には当該地区には電気自動車以外の通行は規制する予定である。バスやトゥクトゥク等の電動化を進める必要がある。そこで、JICA が支援している EV トゥクトゥクについて、観光客の利用促進を強化するため、停留所の整備が重要となる。
- ④ 市街地内の交差点における出会いがしらの事故の危険性を回避するため、スピード規制や景観に配慮しつつ交差点部での信号機やミラー設置等の対策が必要である。
- ⑤ ルアンプラバン市街とチョンペット地区及びタイとの連結性強化は、1) チョンペットに居住する住民がルアンプラバン市街で観光業に就労、2) チョンペットにおける手工芸品やコミュニティベース型の観光が可能、3) タイからの観光客が陸路により容易にアクセスが可能等、多くの観光振興に関する効果が期待できる。これらから、メコン橋の建設事業が浮上し、中国の民間企業が Conceptual Design まで実施したが、諸事情により事業が進んでいない状況である。そこで、ルアンプラバン県政府は日本にその支援を期待している。

ムアンゴイ観光ゾーン

- ⑥ ムンゴイ観光ゾーンの主要幹線となるメインストリート沿いには、編物・手工芸品のショップやレストランが立ち並び、観光客でにぎわいを見せている。しかし、メインストリートの道路は未舗装（土砂道路）となっており、降雨の際には水たまりで通行困難の状況になるため、コンクリート、あるいはマカダム道路に改修することが求められる。観光振興の点でこの道路改良の緊急性は高い。

(2) 上水道：

ルアンプラバン郡の給水施設の現状と今後の水需要予測に基づいてマスタープランが策定されており、これを踏まえた上で上水道事業の課題を以下に示す。

- ① 世界遺産地区の保全のため防火設備が求められている。不足している消火栓の追加、細い路地で消火活動が出来る小型消防車両の整備、寺院等の敷地内に放水銃やドレンチャーなどの初期消火設備が必要である。施設管理者や住民主体での消防活動も重要であることからコミュニティレベルの人材育成も必要である。
- ② ルアンプラバン郡の都市化と観光客の増加による水需要に対して給水施設能力が不足するため、既存給水施設の改善と拡張事業(Phase1,2,3)が必要である。各事業の内容は表 4.2.2 に示したとおりである。水源は給水設備の中で最も重要なものの 1 つであり、将来の計画に応じた水量および水質の観点より水源の信頼度を高めることが必要ある。Phou Phueng 源泉の水量が不安定であるためメコン河やカーン河の表流水を原水とする給水施設が求められる。しかし、上流域でのダム開発や気候変動によってそれら河川水量が減じる状況になっており、広域的な水資源管理が重要となってくる。特に乾期には供給水が不足しており、また浄水場の機能が不十分で水質の悪化も懸念されている。
- ③ ルアンプラバン郡給水施設マスタープランの実施のためには事業資金の確保が最重要とされ

る。これには円借款事業が考えられるが、この他に民間投資事業や PPP 事業が検討されているため、それら事業との調整を図る必要がある。日系コンサルタントによる PPP 事業スキームの調査も実施されているが、それらを促進するための関連法制度の充実が求められる。

- ④ ルアンプラバン県とタイ系企業 D 社との間でルアンプラバン郡給水事業に関わるコンセッション契約が協議されている。2015 年 5 月に締結した MOU の内容によると 30 年間の契約期間で給水能力 14,400 m³/日の WTP の建設を Phnom 地区に予定している。この事業の実施にあたっては上水道全体計画(送水管や配水池の計画変更を含む)の見直しが必要となる。(水道公社事業管理能力向上プロジェクトからの情報提供)
- ⑤ 将来、給水施設の増加に伴いそれら施設の管理能力の向上が求められる。JICA による ラオス水道公社事業管理能力向上プロジェクトによる日本の水道管理技術移転が期待される。さらに、通信ネットワークを活用した監視制御システムや効率的な管理・更新を行うため GIS 施設管理システムでも日本の管理技術は優位性がある。これらの有効な技術導入についても検討するべきである。
- ⑥ ルアンプラバン郡以外には将来の水需要を踏まえた給水施設の計画が策定されていない。本調査対象地域のチョンペット村やムアンゴイ村では個人による引き水が殆どで十分な給水施設は整備されていない。そのため、今後の開発状況に応じた給水施設計画の策定とその事業の実施が求められる。

(3) 下水道：

ルアンプラバン郡の下水道の現状と排水下水マスタープランを踏まえて下水道事業の課題について以下に示す。

- ① 大規模な下水道処理システムは有しておらず、各家には尿尿を溜めるセプティックタンクがあるが生活雑排水は排水路へ垂れ流しの状況である。世界遺産地区の河川や排水路の水環境を改善することが求められている。一方、大規模な下水処理場は景観を阻害する恐れがあるので導入は難しいため、コミュニティレベルの分散型処理施設の導入が必要である。
- ② 下水道の整備には長い年月と多大な費用が必要なため、人口が密集している区域や観光開発などで優先度の高い区域を選定して効率的に整備することが重要である。このため周辺区域の整備は非常に遅くなるため、それまでの間はセプティックタンクや合併処理浄化槽の設置を促進する必要がある。
- ③ 各家庭の生活排水に比べて事業所排水には重金属やオイルなどが含まれる可能性があり環境への悪影響が大きい。このため、各事業者へ排水の管理を徹底するように指導すると共に定期的に排出水質の監視を行うことが求められる。
- ④ 世界遺産地区に下水処理場や下水中継ポンプ場の建設する場合には景観等への影響が考えられるので、位置、規模、デザインなどに十分な配慮が必要である。
- ⑤ 下水管は道路下へ敷設されるため景観上の問題はないが、世界遺産地区での開削工事中は影響が大きいので、その施工方法や安全管理等についても配慮が求められる。

(4) 排水：

- ① 世界遺産地区の Zone I-A においては、雨水排水系統および施設（道路側溝、雨水管渠、流入口、カルバート、放流口等）の詳細情報を調査・整理のうえ、施設が良好に機能するよう維持管理の充実化を図るべきである。
- ② Zone I-B においては、中小河川・湿地について上記と同様に詳細情報を調査・整理のうえ、流下能力・貯留効果の検討に基づいて、雨水排水系統の整備を進めるべきである。整備にあたっては、中小河川・湿地への維持管理用通路の設置（アクセスの改善）、周囲にオープンスペースを確保する等、土地利用計画／湿地保全対策との連携により、水環境改善、水辺空間の創出を目指すべきである。

(5) 河岸利用：

- ① 世界遺産地区において、メコン川およびナムカン川沿いに歩道や河岸法面に多数のレストラン等が営業しているが、その大半は無許可で歩道や河岸法面を占拠している。景観保全を目的として、このようなレストラン等に対する規制を強化することが計画されている。一方、規制の強化により営業が不許可となる既存のレストラン等の閉鎖・撤去が予定されているが、その実施にあたって影響を受ける住民等に対する社会的配慮に慎重を期すべきである。
- ② 河岸法面のテラスデッキの位置は、洪水位についても考慮したうえで設定すべきである。例えば、テラスデッキの位置は、過去 30 年間で最高である 2008 年の洪水位（20.46 m）よりも高い位置とすることが考えられる。

(6) 廃棄物：

ルアンプラバン郡のゴミ収集と廃棄物処分場の現状と計画を踏まえて廃棄物の課題について以下に示す。

- ① 廃棄物事業は JICA や AFD の支援によりゴミ収集車や廃棄物処分場の管理設備等が供与されている。今後のゴミ処分量の増加に対しては、廃棄されるものを最小限に抑える循環型社会を形成するため 3R の取り組みを検討するとともに、廃棄物処分場の増設が必要である。
- ② 各家のセプティックタンクからの汚泥収集と処理については、今後の処理量の増加に対して適切な処理を行うため汚泥処理場の建設が必要である。
- ③ 廃棄物の問題は大気汚染、水質汚濁、土壌汚染等と密接に関連しており、生活空間の中に溢れ出た廃棄物が、街路、空き地、水路等に放棄され都市の美観をこわすのみならず、腐敗の影響もあり悪臭の源となる。その結果、大気、土壌、水の汚染によって住民に対する重大な健康リスクや社会・経済問題をもたらす可能性がある。
- ④ ルアンプラバン郡のゴミ収集は分別収集がされておらずリサイクルが進んでいない。また、住民や事業者において産業廃棄物や有害廃棄物の区別が明確にされていない。これら廃棄物については規制による管理やその周知を促すための広報活動が重要となる。
- ⑤ これまでラオス国においては日本の経験を生かした廃棄物管理技術の向上、廃棄物による衛生悪化と環境汚染の低減という観点から技術協力プロジェクト、個別専門家派遣等を行っている。今後はルアンプラバン郡の廃棄物の適正管理等を主目的とした 3R 推進のためのマスタープランの策定が求められる。

5.3.2 事業形成時からの UNESCO との協調

世界遺産指定地区での開発は PSMV により制限を受けている。UNESCO は遺産の価値を保全する観点から、直接的な影響と間接的な影響の評価を行っている。事業によっては遺産への影響が明確でない場合があるので（遺産地区外の事業、遺産地区内でも環境を改善する事業、等）、事業形成の段階から UNESCO 或いは、ICOMOS と情報共有し、事業実施による遺産への影響について協議するとともに、遺産への影響を最小限に抑える配慮する必要がある。

5.3.3 HIA（Heritage Impact Assessment）の実施

世界遺産地区或いは周辺地域で事業を行う際には、HIA を実施することが望ましいとされている。事業により HIA の対象は異なるが、世界遺産地区内で実施する事業、景観に影響する事業、その他間接的に世界遺産への影響が考えられる事業は HIA の対象になる。

これまで HIA を行わず、事業が中断或いは事業実施後内容の変更が必要になったケースがある。事業の中断や不必要なコストの増加を防ぐためにも、事業形成の段階から、遺産・遺跡の専門家を投入し、遺産への影響に配慮するとともに、事業の早い段階（例えば F/S や協

力準備調査の段階）で、概略が固まった段階と事業の詳細が固まった段階の、2回 HIA を実施することが望ましい。

5.4 人材育成に関する課題

人材育成に係る課題は、観光業の人材及び行政の人材の観点から整理する。

5.4.1 観光業における人材育成に関する課題

ルアンプラバン世界遺産地区の登録後、観光客が増加している。ルアンプラバン県政府は、歴史・文化・自然を活かした、「やすらぎ」、「ゆったり」、「いごごち」をキーワードとした「快適性」の提供を目指している。一方、観光客の増加に伴い地元住民等が自宅をゲストハウスに改築する等、観光産業に係る住民が増加しているが、施設の質、衛生面等、観光客に対するサービスは十分とは言えない。

手工芸品においてもお土産として観光客に受け入れられるデザインや質の向上が望まれている。また、またペットボトル等のゴミが街や川で見かけることがある。景観を維持するためのゴミ、清掃等の住民意識向上が必要である。さらに、観光客との関係において、托鉢の際に観光客に法外な値段で食べ物を売る等、地元住民の観光客との接し方に課題がある。

質の高い観光客サービスを提供するためには、観光業のサービスの向上、景観保全を継続的に行うための住民意識の向上、観光客との接し方の向上が必要である。

5.4.2 行政における人材育成に関する課題

重要な観光資源である UNESCO 世界遺産の保全は重要な課題の一つとして位置づけられている。ルアンプラバン遺産局を中心に、遺産の保全と活用が行われているが、引き続き遺産を保全していくためには、現状に沿った遺産保全ルールの更新を行う必要がある。

ルアンプラバン観光は、中・高所得層を対象とした観光客をターゲットとしている。今後、中・高所得者層を対象にした観光振興を行うためには、観光業を対象にしたサービス改善のための研修の促進、観光振興の強化等、行政の関与が不可欠である。

また、インフラや都市施設の維持管理が十分に行えていないことから、国際機関等の支援で整備した施設が短期間で壊れたり、使えなくなったりするケースが見られる。

行政として、世界遺産の保全、観光セクターのサービスの向上（ホテル、ゲストハウス、旅行会社）対象にしたルール作り及びその普及、観光業に対する人材育成、都市施設の向上に係る人材育成が必要である。

5.5 歴史的遺産保護地区内の建築物への影響に係る課題

世界遺産地区は、PSMV により開発の規制、建築物の制限がかけられている。この規制により歴史的遺産は、よい状態を保っている。観光業に携わる人は、歴史的遺産は観光の重要な資源が必要であるため、規制は必要であると考えているのに対し、規制は建て替えの制限や建て替え費用負担などにつながり、生活に影響を与えており、地元住民の流出を起している。世界遺産を保全しつつも住民の生活に配慮した規制を考える必要がある。また、観光収入を遺産保全に活用できる仕組みの検討が必要である。さらに建物の修復等遺産地区の保

全に活用できる「ファンド」等の新たな収入と配分の仕組みの設立を検討する必要がある。

建物の保全に関連して、世界遺産地区への車両の流入は、事故や大気汚染等環境面に影響を及ぼしている。遺産保全の一環として交通規制や電動車両の導入を検討する必要がある。

5.6 対象地域内の文化・風俗、自然環境に係る課題

「文化」「伝統的な生活様式」を含む「無形遺産」は遺跡等の「有形遺産」と合わせて、ルアンプラバン県の重要な観光資源として位置づけられているが、都市化やメディア等の影響により文化や伝統的な生活が薄れてきている。特に若い世代は、伝統的な服を着ない（特に女性は伝統的なスカートをはく）、お寺との関係が薄いなど、時代の変化とともに伝統的な生活様式が失われつつある。「文化」「伝統的な生活様式」が失われると、観光地としての魅力も薄れるリスクがある。魅力的な観光地であるためには、世界遺産（有形遺産）の保全のみならず、「文化」「伝統的な生活様式」等の「無形遺産」を維持する必要がある。そのためには、住民への啓蒙の促進、住民の観光業への関与を促進していく必要がある。

一方、観光客が「文化」「伝統的な生活様式」を理解していない場合がある。ルアンプラバン県関係者との協議で多く聞かれたのが、観光客の服装や行動（アルコール、マナー、男女の付き合い、等）や托鉢の際のマナーである。観光客の服装や行動は文化の違いから生じているため、ガイドブック等にやってはいけないこと（机に足を上げる、僧侶に触らない、大声を出さない、街中では水着を着ない、等）をイラストで紹介している。托鉢のマナーの改善策として、パンフレットにマナーをまとめホテルやレストランに配布されている（写真の撮り方、托鉢のやり方、托鉢用の食糧を道の売り子から買わない、等）。「文化」「伝統的な生活様式」は観光の重要な資源であるため、これらを保全するための対策は継続的に実施するとともに対策の強化が必要である。

5.7 社会経済構造への影響に係る課題

観光産業は、経済的に大きな貢献をしている。直接的な受益者として、ゲストハウス、レストラン、レンタカー、旅行会社等があり、間接的な受益者として、農産品、手工芸品、建設等が存在する。住民等とのヒアリングでも観光産業は、収入の向上や生活環境の改善に貢献していると認識している。

しかし、観光客の支出は、200 ドル以下と他国（タイ：1,200 ドル、ベトナム：1,250 ドル）と比較して低い（ADB 担当者の話）。観光客の支出を増やすために滞在期間を延ばすような施策や手工芸品の品質の向上による付加価値の増加が必要である。

一方、世界遺産地区の建物の保全、建物修復等にかかる住民（地元）負担が大きく、建物を手放すケースが見られる。地元住民に代わり、外国人や他地域からの流入が起こっている。地元の住民の空洞化は、お寺の維持、文化・伝統的な生活様式の継承に影響を与える。地域の自立発展を促進するためにも、地域への負担の軽減、経済的に地域に裨益する仕組み（住民が積極的に参加できる観光等）の構築が必要である。

5.8 生活向上の実現に係る課題

観光振興は、生活環境の向上につながっている。フォーカルグループディスカッションによると観光振興に伴うインフラの整備、観光業に参画することによる収入向上等、世界遺産

指定後、観光が活発になることにより、生活環境が改善されたという意見が多く聞かれた。

観光振興を行う際には、観光業に携わっている特定の住民のみが恩恵を受けるのではなく、観光業に携わっていない住民にも恩恵があるように配慮する必要がある。また、インフラやユーティリティの整備は、歴史的保護地区のみならず、バッファゾーンや他地域とのバランスに配慮する必要がある。

5.9 将来的なマーケティングの課題

ルアンプラバン観光開発・観光振興戦略（2011-2020）によると、ルアンプラバン県は、世界遺産を維持し、文化の促進、多様な自然の保全を通して、観光客の増加（2020年までに現在の35万人から70万人まで増やす）、観光収入の増加、雇用増加等の経済に貢献する観光振興をゴールとして位置づけている。これらの目標を達成するためには、上記に述べた、観光サービスの向上、観光施設の改善に加えて、ターゲット層に重視した効率的なマーケティングを実施する必要がある。また、定期的に行えるイベントを企画し、観光客誘致に活用する必要がある。イベントの開催はオフシーズンの観光客誘致に貢献することが期待できる。

第6章 我が国支援の現況

6.1 我が国が取り組むべき主要開発課題・援助方針

対ラオス援助の基本方針を「MDGs 達成及び LDC からの脱却への支援」とし、「経済・社会インフラ整備」、「農業の発展と森林の保全」、「教育環境の整備と人材育成」、「保健医療サービスの改善」の4つを重点分野に定めている。

表 6.1.1 各重点分野の開発課題とプログラム

基本方針（大目標）： ミレニアム開発目標（MDGs）達成及び低開発途上国（LDC）からの脱却への支援		
重点分野（中目標）	開発課題（小目標）	協力プログラム
経済・社会インフラ整備	交通・運輸網の整備	交通・運輸網整備プログラム
	安全かつ安定的な電力供給の拡大	電力整備プログラム
	投資・輸出促進のための環境整備	投資環境整備支援プログラム
	環境と調和した快適な社会の実現	都市環境整備プログラム
農業の発展と森林の保全	農水産業の生産性の向上と自給型から市場型への段階的発展	農業・農村開発及び農水産行政強化プログラム
	森林資源の持続的活用と生計向上	森林保全・生計向上プログラム
教育環境の整備と人材育成	基礎教育の充実	基礎教育改善プログラム
	民間セクター強化及び市場経済化等に資する高等・技術教育の拡充	高等・技術教育改善プログラム
保健医療サービスの改善	母子保健サービス改善のため保健システム強化	母子保健システム改善プログラム
その他	その他	ガバナンス強化プログラム

出典：ラオス JICA 国別分析ペーパー、2015 年、JICA

また、主要課題が下表のとおり整理されている。

表 6.1.2 JICA が取り組むべき主要開発課題

重点分野	詳細
【重点分野 1 経済・社会インフラ整備】	<p>① 交通・運輸網整備：既存の道路の維持管理とのバランスを念頭に入れながら、幹線道路の整備・改善を中心に連結性強化を図る。</p> <p>② 電力整備：豊富な水資源を利用し電源開発が進められているが、基幹電力系統の整備が課題となっており、国内・国際送電網の整備、電力計画策定能力強化等の協力を行っていく。</p> <p>③ 民間セクター強化：日本を含む海外からの投資促進、工業化のための人材育成、現在サービス業の約16%のGDP貢献度を占め、主要な外貨獲得源になり得る観光業の促進、ラオスの企業の97%を占める中小企業の振興、を中心に協力を行っていく。</p> <p>④ 都市環境整備：首都ビエンチャン及び地方中核都市（ルアンプラバン、サバナケット、パクセー、タケク）を対象に、都市交通、上下水道、廃棄物処理等生活環境改善に向けた協力を行っていく。</p>
【重点分野 2 農業発展と森林保全】	<p>⑤ 農業開発：国内外のマーケットを踏まえた商品作物の普及・生産性の向上に向けた協力、流通・販売面も視野に入れたバリューチェーン構築に向けた協力を行っていく。</p> <p>⑥ 森林保全・生計向上：ラオス政府の政策立案能力強化及びREDD+の取り組みに向けた協力を、技術協力を中心に行っていく。</p>
【重点分野 3 基礎教育の改善】	<p>⑦ 基礎教育改善：初等教育の残存率を向上するため、教育の質の向上に向けた協力を行っていく。他、初等教育卒業生の受け皿となる前期中等教育の就学率の向上を図るべく、アクセス改善に向けた協力を行っていく。</p>

重点分野	詳細
【重点分野 4 保健医療サービスの改善】	⑧ 保健医療サービス強化：2025年のUHC達成に向け、主に中南部地域を中心に、医療機関のサービスの質的な向上、医療機関へのアクセスやセーフティネットの強化、国民の健康・衛生改善に向けた協力を行っていく。
【分野横断的課題】	上記の4分野の開発の促進、及び援助効果の向上の観点から、分野横断的課題として、UXO除去、司法分野、財政分野への協力を行っていく。

出典：ラオス JICA 国別分析ペーパー、2015 年、JICA

観光分野については、日本はこれまでに、技術協力「東西回廊における実践的な観光開発プロジェクト」（2008～2011 年）を通じ、観光振興計画策定、観光情報整備・提供にかかる支援を実施してきた他、現在実施中の LPP（Laos Pilot Program for Narrowing the Development Gap towards ASEAN Integration、JICA-ASEAN 連携ラオスパイロットプロジェクト、（技術協力、2010～2015 年）で官民連携による観光マーケティング・プロモーション、パイロット県における地域住民に裨益するコミュニティ型観光開発・観光振興のための活動普及に向けた支援等を行っている。また、観光促進分野のシニア海外ボランティアも派遣され、日本語版・ラオス語版ガイドブックの作成等も行っている。

6.2 ルアンプラバン観光開発関連の支援

ルアンプラバン県を対象にした支援は、LPP の環境コンポーネントである「住員参加型の都市環境管理（廃棄物）」を通して環境改善を行っている。また、「水道公社管理能力向上プロジェクト」による県水道公社（首都ビエンチャン、ルアンプラバン県、カムアン県）の事業計画策定能力や事業管理能力向上支援を行っており、ルアンプラバン郡の水道の改善に貢献している。さらに、2007 年に「Pilot Study for the Project Formulation for Luang Prabang Tourism Sector Development Project (JBIC)」を実施し、観光開発に必要な支援プログラムを提案した。

ルアンプラバン県でのヒアリングでも 2 つの案件の都市環境改善への貢献について関連機関からコメントがあった。我が国支援を提案する際には、実施中支援に配慮する必要がある。下表に同プロジェクトの概要を示す。

表 6.2.1 LPP の概要

プロジェクト名	(和) JICA-ASEAN 連携ラオスパイロットプロジェクト (環境コンポーネント) (英) Laos Pilot Program for Narrowing the Development Gap towards ASEAN Integration (LPP)
プロジェクトサイト	環境管理：首都ビエンチャン、ルアンプラバン県、サヤブリ 観光振興：チャンパサック、サバナケット、カムアン 農業：首都ビエンチャン
協力期間	2010 年 10 月から 2015 年 10 月
環境コンポーネント	<p>プロジェクト目標 ラオス国において、AIESC に基づき、ESC づくりが促進される。</p> <p>成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国家環境戦略 2020 及び関連する戦略やアクションプランにもとづき、ESC づくりガイドラインが策定される。 2. ESC ガイドラインにもとづき、3 つのパイロットサイトにおいてカウンターパート機関の都市環境管理（廃棄物管理）能力が強化される。 3. 3 つのパイロットサイトにおいて住民参加型の都市環境管理（廃棄物管理）が促進される。 <p>活動</p> <p>成果 1 に対して</p> <ol style="list-style-type: none"> 1-1. パイロット都市の基礎情報を収集、整理する。 1-2. 関連する環境関連の法令、戦略、アクションプランを収集、整理及び分析する。 1-3. ASEAN 諸国の都市環境管理優良事例をレビューし、ラオスへの適用性を分析する。 1-4. パイロット都市の環境開発ビジョンを策定する。 1-5. パイロット都市の環境開発協力シナリオを策定する。 1-6. ラオス国 ESC ガイドラインを策定する。 1-7. ラオス国 ESC ガイドラインを最終化し、その適用マニュアルを作成する。 <p>成果 2 に対して</p> <ol style="list-style-type: none"> 2-1. 都市環境パイロットプロジェクトを選定する。 2-2. パイロットプロジェクトの計画を策定する。 2-3. パイロットプロジェクトを実施する。 2-4. パイロットプロジェクト成果を発表する。 <p>成果 3 に対して</p> <ol style="list-style-type: none"> 3-1. ラオス国における住民参加型環境管理優良事例を確認する。 3-2. ASEAN 加盟国における住民参加型環境管理事例を収集、分析し、ラオス国への適用可能性を分析する。 3-3. パイロット都市の廃棄物管理改善に関わる環境啓発、環境教育プログラムを策定する。 3-4. 活動 2.2 と連携したパイロットプロジェクトの計画を策定する。 3-5. 廃棄物管理にかかる環境啓発、環境教育ツールを開発し、実施体制を強化する。 3-6. パイロットプロジェクトを実施する。 3-7. パイロットプロジェクト実施結果を分析する。 3-8. 活動 2-4 と連携してパイロットプロジェクト成果を発表する。

出典：JICA ホームページ <http://www.jica.go.jp/project/laos/008/outline/>

表 6.2.2 水道公社事業管理能力向上プロジェクトの概要

プロジェクト名	(和) 水道公社事業管理能力向上プロジェクト (英) Capacity Development Project for Improvement of Management Ability of Water Supply Authorities
プロジェクトサイト	首都ビエンチャン、ルアンプラバン県、カムアン県（パイロット水道公社管轄地域）
協力期間	2012 年 8 月から 2017 年 8 月
環境コンポーネント	<p>プロジェクト目標 ラオス国において、水道公社の中長期的視野に基づく事業管理能力を強化する体制が整</p>

	<p>備される。</p> <p>成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. パイロット水道公社において、長期・中期・短期の事業計画策定に必要なデータが継続的に利用可能になる 2. パイロット水道公社において、長期・中期・短期事業計画に基づいた事業実施管理が、Plan-Do-Check-Action（PDCA）サイクルを用いて行われる 3. 業務指標（PI）を含む事業計画のモニタリングが強化される 4. アウトプット1～3の成果を踏まえ、水道事業計画技術ガイドライン（技術ガイドライン）が策定される 5. アウトプット1～4の成果を活用し、全国の水道公社及び民間企業における事業計画策定及びモニタリング体制の構築を促進するための仕組みが構築される <p>活動</p> <p>成果1に対して</p> <ol style="list-style-type: none"> 1-1. 各パイロット水道公社にて、事業計画策定に必要なデータの有無及び現行のデータ管理をレビューする 1-2. 各パイロット水道公社にて、日本の水道セクターの「アセット・マネジメント」アプローチを現地に適用する方法を含む、必要情報リストつきのデータ管理改善計画を策定する 1-3. 各パイロット水道公社にて、データ管理改善計画を実施する 1-4. 事業計画策定のためのデータ管理マニュアル（ラオス語・英語）を作成し、DHUP局長の承認を受ける。 <p>成果2に対して</p> <ol style="list-style-type: none"> 2-1. 各パイロット水道公社にて、既存の事業計画、計画プロセス、事業運営・管理の実態をレビューする 2-2. 各パイロット水道公社にて、10カ年、5カ年、3カ年事業計画のアウトラインを含む改善のための改善提案事項が取りまとめられる 2-3. 各パイロット水道公社にて、アウトプット1で得られるデータを活用して、長期的な水需要、水道施設（注6）の更新需要、及び財務バランス（歳入と支出）を予測する 2-4. 各パイロット水道公社にて、10カ年事業計画（～2020年）を策定し、理事会の承認を得るために提出する 2-5. 各パイロット水道公社にて、5カ年事業計画（～2015年,2016-2020年）を策定し、理事会の承認を得るために提出する 2-6. 各パイロット水道公社にて、3カ年ローリング事業計画を策定/毎年更新し、理事会の承認を得るために提出する 2-7. 各パイロット水道公社にて、3カ年ローリング事業計画の年間アクション・プランを実施する 2-8. 各パイロット水道公社にて、10カ年計画をレビュー及び適宜更新し、理事会の承認を得るために提出する 2-9. 水道事業計画策定マニュアル（特定分野の個別マニュアル含む）を作成し、DHUP局長の承認を受ける <p>成果3に対して</p> <p>県レベル</p> <ol style="list-style-type: none"> 3-1. 各パイロット水道公社にて、既存の事業計画及び業務指標の内部モニタリング・システム（注7）をレビューする 3-2. 各パイロット水道公社にて、レビューに基づき、業務指標を含む事業計画の内部モニタリング・システムを設計する 3-3. 各パイロット水道公社にて、上記システムに基づき、業務指標を含む事業計画のモニタリングを行う（モニタリングの結果はアウトプット1のデータ管理、アウトプット2の事業計画策定に反映される） 3-4. 各パイロット水道公社にて、業務指標を含む事業計画の内部モニタリング・システムを適宜改良する <p><国レベル></p> <ol style="list-style-type: none"> 3-5. WASROにおける各水道公社の業務指標のモニタリング・システムを事業計画との関連でレビューする
--	---

	<p>3-6 業務指標を含む各水道公社の事業計画のモニタリング・システムを設計する</p> <p>3-7 上記システムに基づき、パイロット水道公社の業務指標を含む事業計画のモニタリングを実施する</p> <p>3-8 業務指標を含む事業計画のモニタリング・システムを、全水道公社に適用するために、活動 3-7 の結果に基づき、改良する</p> <p>3-9 「水道のサービス・パフォーマンス・ターゲット及びサービス・レベルの規制モニタリングに係るガイドライン（規制ガイドライン）」（2010 年）をレビューする</p> <p>3-10 改訂ガイドラインのドラフトを作成し、WSRC に検討・承認を受けるために提出する</p> <p>成果 4 に対して</p> <p>4-1 技術ガイドライン委員会（注 8）を設立する</p> <p>4-2 技術ガイドラインのアウトライン案を作成し、最終化のために委員会に提出する</p> <p>4-3 アウトプット 1～アウトプット 3 の成果を踏まえて技術ガイドラインのドラフトを作成し、委員会のコメントを得る</p> <p>4-4 上記コメントを基にドラフトを修正し、委員会に承認を得るために提出する</p> <p>4-5 委員会に承認されたドラフトを、公共事業大臣の承認（endorsement）を得るために提出する</p> <p>4-6 技術ガイドラインまたはその案をラオス語・英語で発行し各水道公社へ配布する</p> <p>成果 5 に対して</p> <p>5-1 各パイロット水道公社にて、コア・リソース・パーソンを特定する</p> <p>5-2 各パイロット水道公社にて、アウトプット 1～3 を通じ、コア・リソース・パーソンに実地研修（OJT）を行う</p> <p>5-3 コア・リソース・パーソンに教授法の研修を行う</p> <p>5-4 各パイロット水道公社にて、周辺県水道公社を対象とした長期・中期・短期事業計画に係るリージョナル入門セミナーを 1 回開催する</p> <p>5-5 首都ビエンチャン水道公社研修センターの既存研修プログラムを、新水道事業計画策定/更新に係る技術ガイドラインに照らし、レビューする</p> <p>5-6 上記研修センターにて、レビューに基づき、既存コースの改訂及び/または新規コースの開発を行う</p> <p>5-7 各パイロット水道公社にて、改訂及び/または新規研修コースを実施する</p> <p>5-8 受講生のフィードバックを基に、上記研修コースを改良する</p> <p>5-9 プロジェクトの成果を踏まえ、普及計画を策定し、DHUP 局長の承認を受ける</p>
--	--

出典：JICA ホームページ <http://www.jica.go.jp/project/laos/012/outline/index.html>

「Pilot Study for the Project Formulation for Luang Prabang Tourism Sector Development Project (JBIC) (2007 年)」ではルアンプラバン観光ゾーンを中心に地域別にプログラム・プロジェクトのパッケージを提案している。以下に提案の概要を示す。

表 6.2.3 Pilot Study for the Project Formulation for Luang Prabang Tourism Sector Development Project の概要

開発パッケージ	内容
Development Package 1: World Heritage Site (Inner Area)	<ul style="list-style-type: none"> • Rehabilitation and Improvement of Royal Palace Museum • World Heritage Commemoration Park • World Heritage Conservation Museum • Boat Landing Improvement • Fire Fighting System Development • Traffic Safety and Management Improvement in LPB Urban Area • Tourism Site Development in Xieng Mene • Northern Tourism Information Center
Development Package 2: LPB Outer Urban Area	<ul style="list-style-type: none"> • Handicraft Village Improvement and Promotion • Access Improvement to Tourism Resources in Suburban Area • Road Construction for Northern LPB and Nam Khan Tourism Area Development (New Bypass Road) • Improvement of Water Supply Capacity • New Ferry Port Development

	<ul style="list-style-type: none"> • Recreational Facility Development • Forest Trail Improvement in Chomphet District
Development Package 3: LPB South	<ul style="list-style-type: none"> • Tourist Attraction Improvement in Kuang Si Waterfall Area • Forest Trail Improvement in LPB Southern Area
Development Package 4: LPB South – Mekong Route	<ul style="list-style-type: none"> • Village Tourism Development along Mekong Route
Development Package 5: LPB North & Nam Ou Route	<ul style="list-style-type: none"> • Pak Ou Area Improvement • Access Improvement to Pak Ou • Pak Xuang Development • Forest Trail Improvement in LPB Northern Area
Development Package 6: LPB East – Nam Khan Route	<ul style="list-style-type: none"> • Tad Sae Waterfall Area and Forest Trail Improvement • Village Tourism Development along Nam Khan Route • Nam Khan Eco-Valley Nature Study and Information Center
Development Package 7: LPB Farther North	<ul style="list-style-type: none"> • Road Improvement in Nong Kiwau Village
Development Package 8: Capacity Development, Environmental Management, Marketing & Promotion	<ul style="list-style-type: none"> • Improvement of Central Tourism and Hospitality Training Center (THTC) • Development of Mobile Training Unit for Northern Tourism HRD • Capacity Development of LNTA and LPB Provincial Tourism Office • Rehabilitation of Landfill Site in Luang Prabang • Environmental Awareness Campaign • Tourism Marketing and Promotion Program

出典：Pilot Study for the Project Formulation for Luang Prabang Tourism Sector Development Project (JBIC)

DICTによると、提案されたプロジェクトはラオス及びADB等でシェアされ、一部は実施（By pass road of LPB district, Improve of water supply in LPB, Access road to Chomphet district）につながっている。また”Access road to Pak Ou cave”は今後実施予定である（ADB Greater Mekong Subregion Tourism Infrastructure for Inclusive Growth Project (2014-2019)）。

第7章 観光開発に係る国際機関の支援

7.1 UNESCO 世界遺産事務所の位置付け

UNESCO は調整機関であるため、事業を実施する際の関連機関の調整、事業に対するアドバイスを行っている。一方 ICOMOS（国際記念物遺跡会議）は世界遺産の評価や専門家のデータベースを所有しており、技術面で世界遺産維持の支援を行っている。

ルアンプラバン世界遺産地区における観光開発の考え方や支援候補についての UNESCO バンコク事務所の協議結果を以下にまとめる。

- ルアンプラバン世界遺産地区の都市施設整備は重要であり、環境改善は進めるべきである。
- 一方、世界遺産の価値を将来にも残すための配慮が必要である。
- 事業形成の段階から遺跡の専門家が参加し、遺産への影響を検討する。
- HIA を事業の早時期に実施する。それによりプロジェクトの中断や不必要なコスト増を防ぐ。

7.2 ADB

ADB は、1968 年よりラオスへの協力を開始し、協力額は累計 1,869.43 百万米ドルと、国際機関としてはラオスにとって最大の協力機関のうちの一つである。ルアンプラバン世界遺産地区への支援は、「Greater Mekong Subregion Tourism Infrastructure for Inclusive Growth Project」を通して行っており、ADB は重要な役割を担っている。同プロジェクトは 2002 年から実施しており、現在はフェーズ 3 である、「Greater Mekong Subregion Tourism Infrastructure for Inclusive Growth Project (2014-2019)」を実施中である。

フェーズ 1 は 2002 年から 2011 年にかけてかけて、ラオス、ベトナム、カンボジアを対象に実施した。ルアンプラバン世界遺産地区及び周辺地区においては、クアンシー滝へのアクセスが含まれている。フェーズ 1 の概要を下表に示す。

表 7.2.1 プロジェクトの概要（フェーズ 1）

Project Period	2002-2011
Project Cost	Total: US\$ 54.26 million (Laos PDR: US\$ 16.19 million, Vietnam: US\$ 11.62 million, Cambodia: US\$ 26.46 million)
Executing Agencies	The Lao National Tourism Administration in the Lao PDR Viet Nam National Administration of Tourism in Viet Nam Ministry of Tourism, Cambodia
Project Components	Output A: Tourism-related infrastructure improvements <ol style="list-style-type: none"> 1. Urban environmental improvement 2. Small airport extension and rehabilitation 3. Access road improvement 4. River tourism pier development Output B: Pro-poor, community-based tourism development <ol style="list-style-type: none"> 1. Community participation in tourism development 2. Community awareness of tourism benefits and environmental and cultural conservation 3. Pro-poor tourism products identification 4. Small-scale, community-related tourism infrastructure 5. Capacity building for tourism-related micro enterprises and communities 6. Gender development strategy 7. Ethnic minority participation strategy 8. Marketing and promotion plan 9. CBT networks

	10. Project performance monitoring system Output C: Subregional cooperation for sustainable tourism 1. GMS facility for tourism cooperation 2. Improvement of tourism facilities at border posts 3. Establishment of a GMS network of tourism marketing and promotion boards 4. GMS hotel classification system 5. GMS tourism plan 6. GMS tourism statistics improvement and harmonization 7. Diversification of AMTA human resources 8. GMS tourism human resource development Output D. Implementation assistance and institutional strengthening
Project Area	Luang Prabang: Kwanshi Falls Road improvement

出典: Kingdom of Cambodia, Lao People's Democratic Republic, and Socialist Republic of Viet Nam: Greater Mekong Subregion: Mekong Tourism Development Project

フェーズ 2 は 2009 年から 2013 年にかけて実施した。同プロジェクトはラオスとベトナムを対象にしている。ラオスは、(Bokeo, Champassak, Houaphanh, Luang Namtha, Oudomxay, Saravanh, Savannakhet, Vientiane, and Xayaboury)を対象にしておりルアンプラバン県は含まれていない。フェーズ 2 の概要を下表に示す。

表 7.2.2 プロジェクトの概要（フェーズ 2）

Project Period	2009-2013
Project Cost	Total: US\$ 21.98 million (Laos PDR: US\$ 10.87 million, Vietnam: US\$ 11.11 million)
Executing Agencies	The Lao National Tourism Administration in the Lao PDR The Ministry of Culture, Sports, and Tourism in Viet Nam
Project Components	(i) model sustainable tourism development projects protecting the environment and cultural heritage developed, • Siphandone Wetland (Lao PDR) • Vang Vieng town environmental improvement (Lao PDR) • Phong Nha Ke Bang National Park (VietNam) • Ethnic minority cultural Heritage development in • Bac Kan (Viet Nam) (ii) pro-poor, communitybased, supply-chain tourism projects operational, (iii) GMS tourism corridors developed, (iv) human resource capacity of public and private tourism stakeholders improved, and (v) efficient project management services.
Project Area	Lao PDR (Bokeo, Champassak, Houaphanh, Luang Namtha, Oudomxay, Saravanh, Savannakhet, Vientiane, and Xayaboury) Viet Nam (Bac Kan, Cao Bang, Quang Binh, Quang Tri, and Thua Tien Hue)

出典: Proposed Grant to the Lao People's Democratic Republic and Loan to the Socialist Republic of Viet Nam: Greater Mekong Subregion Sustainable Tourism Development Project

現在は「Greater Mekong Subregion Tourism Infrastructure for Inclusive Growth Project (2014-2019)」(フェーズ 3)を通してルアンプラバン観光関連のインフラ整備及び能力強化を行っている。プロジェクトは、①観光アクセスインフラ、②観光関連施設の改善、③観光振興に係る能力強化、④プロジェクト実施・知的管理の 4 つのコンポーネントで構成されている。下表にプロジェクト概要をまとめる。

表 7.2.3 プロジェクトの概要（フェーズ 3）

Subproject and Output	Description
Output 1: improved last-mile tourism access infrastructure	
1.1. Xang Cave Access Improvements, Khammouane	The subproject will (i) improve the 4 km access road; (ii) upgrade green space and walking paths; (iii) construct a public tourist reception area with parking, kiosks, and sanitation; and (iv) upgrade the existing footpaths and lighting inside the cave. At least 1,900 residents will benefit from the improved access road and expansion of local tourism-related enterprise opportunities.
1.2. Chomphet Heritage District Access Improvements, Luangprabang	The subproject will (i) upgrade the Mekong ferry terminal and 2 km of feeder roads in Ban Xieng Maen, and (ii) rehabilitate four riverside landings to provide year-round access to temples in the heritage district. Improved public facilities and environmental management will benefit 2,100 residents and 97 ferry operators.
1.3. Ban Xang Hai–Tham Ting Cave Access Improvements, Luangprabang	The subproject will (i) improve the 10 km access road between Route 13, Xang Hai village and Pak Ou village; (ii) rehabilitate four concrete river landings, 1 km of linked footpaths with drainage, and public sanitation in Xang Hai and Pak Ou villages; and (iii) supply six steel pontoons. Year-round public access by land or river will benefit at least 3,000 residents and 64 boat operators.
1.4. Chom Ong Cave Access Improvements, Oudomxay	The subproject will (i) improve the 54 km access road; (ii) construct a public tourist reception area with parking, kiosks, and sanitation; and (iii) construct a network of illuminated footpaths inside the cave. At least 8,000 residents will benefit from improved access to markets, social services, and opportunities to gain income from increased tourism traffic and agricultural production.
2.1. That Sikhottabong Environmental Improvement, Khammouane	The subproject will (i) rehabilitate internal roads, 2 bridges, and the tourist reception center at Sikhottabong Stupa; and (ii) construct vendor kiosks, parking, public sanitation, and a solid waste transfer station and small materials recovery facility. Improved environmental services and expanded public green space will benefit 35,000 residents of Thakhek City.
Output 3: strengthened institutional capacity to promote inclusive tourism growth:	Output 3 will complement infrastructure investments in Khammouane, Luangprabang, and Oudomxay, and augment ongoing ADB assistance in Champassak, 17 by building capacity to (i) improve destination management, (ii) promote small and medium-sized enterprise development, and (iii) prevent the negative social and environmental impacts of tourism.
Output 4: effective project implementation and knowledge management	Output 4 focuses on counterpart capacity building to ensure that financial management and procurement, civil works design and supervision, environmental and social safeguards monitoring, and the preparation of operation and maintenance (O&M) plans for project facilities is compliant with ADB and government requirements.

出典: Report and Recommendation of the President of the Board of Directors, August, 2014

表 7.2.4 プロジェクトコスト

Item	Amount (US\$ million)
A Base Cost	
Output 1: Last-mile tourism access infrastructure improved	26.74
Output 2: Environmental services in cross-border tourism centers improved	1.08
Output 3: Institutional capacity to promote inclusive tourism growth strengthened	2.15
Output 4: Effective project implementation and knowledge management	6.20
Sub Total (A)	36.17
B. Contingencies	6.61
C. Financing Charges During Implementation	0.79
Total (A+B+C) 43.57	43.57

出典: Report and Recommendation of the President of the Board of Directors, August, 2014

表 7.2.5 実施体制

Aspects	Arrangements
Implementation period	November 2014–June 2019
Management	
(i) Subregional steering Committee	Vice minister, MICT; senior officials representing the Ministry of Tourism, Cambodia and the Ministry of Culture, Sports and Tourism, Viet Nam (rotating chair)
(ii) National steering Committee	Vice minister, MICT (chair); vice governors of Champassak, Khammouane, Luangprabang, and Oudomxay; senior officials representing MPWT, MPI, MOF, MONRE, and LWU (members)
(iii) Provincial steering Committees	Vice governor (chair); DICT, DPWT, DONRE, LWU, and LNF of participating provinces (members)
(iv) Executing agency	Ministry of Information, Culture and Tourism
(v) Project coordination unit	Tourism Development Department, MICT (6 PCU staff)
(vi) Implementing agencies	DICT of participating provinces
(vii) Implementation units	Khammouane, Luangprabang, and Oudomxay PIUs with full-time DICT and DPWT counterparts (14 staff in each PIU); Champassak PIU with full-time DICT counterparts (11 staff in the PIU)

出典: Report and Recommendation of the President of the Board of Directors, August, 2014

ADB ビエンチャン事務所の担当者によると、ルアンプラバン観光開発の支援として、ADB は主にインフラ整備と能力強化を行っている、AFD は世界遺産地区のインフラ整備（歩道、駐車場）及び遺産の修復を行っている、ルクセンブルグは観光に係る専門学校の支援を行っている。JICA がインフラ整備（道路、交通、上下水道、排水、廃棄物）や能力強化（行政・民間を対象にしたサービスの向上、等）を行えば、それぞれのドナー支援が重複することではなく、ドナー間の支援が効率的に行えるとのコメントがあった。

7.3 AFD（フランス）

フランス開発庁（Agence française de développement）は、1993 年から対ラオス協力を開始しており、都市開発や上水分野、農業分野、世界遺産関連等での協力を、ルアンプラバン世界遺産地区を含む全国各地で実施している。AFD は、2014 までの 20 年間で 40 プロジェクトを通して 1 億 3,300 万ユーロの投資を行い、その裨益者は直接的・間接的に 50 万世帯であるとされている。

ルアンプラバン世界遺産地区では、1998 年、世界遺産の開発規制計画（PSMV: Plan de sauvegarde et de mise en valeur）及び町の持続的な整備に関する支援を開始し、このような試みはその後、南部のワット・プーにも広げられている。これらの支援は、ユネスコ及びフランス・シノン市との緊密な協調を伴って実施されている。1999～2012 年の間のルアンプラバン世界遺産保全に対する AFD 支援は、総額 1,150 万ユーロ（1,500 万 USD）に上り、その内容は、建物の更新、路地整備、排水路及び給電ネットワーク改善、世界遺産局等遺産保全を担当する地元機関支援等のプロジェクト等広範に及んでいる。

直近では、2 フェーズから成る「ルアンプラバン都市開発支援プロジェクト（PADUL: Projet d'Appui au Développement Urbain de Luang Prabang）」が行われている。詳細は表 7.3.1 のとおりである。

表 7.3.1 AFD によるルアンプラバン支援プロジェクト (PADUL)

プロジェクト名	支援調印時期	支援額	支援目的
PADUL フェーズ I	2009年06月	300万USD	1. To balance socioeconomic development, preservation and enhancement of the heritage 2. To sustain institutions in charge of Luang Prabang management 3. To improve local governance (主なインフラ支援) 排水下水マスタープラン(325,060USD)
PADUL フェーズ II	2012年03月	260万USD	1. To sustain the achievements of continuous support for Luang Prabang by: i) institutional support to organizations responsible for heritage preservation and urban management, and ii) heritage restoration works and urban development in the protected area. 2. To elaborate on a strategy for balanced development of Luang Prabang, especially in tourism sector, to ensure a sustainable future based on heritage resources. (主なインフラ支援) 池群の浄化のパイロットプロジェクト(200,000Euro)

出典：AFD 及び在ラオス仏大使館 HP

ルアンプラバン世界遺産地区における AFD の支援実績は、図の写真のように説明書きの看板が設置されている。以前は、屋根や壁が朽ちていた中心部の小学校も、写真のように現在はきれいに修復されている。



出典：JICA 調査団

図 7.3.1 ルアンプラバン世界遺産地区における AFD の支援実績例

7.4 ルクセンブルグ

ルクセンブルグは、2008 年から 8 年間のプロジェクトとして、Lao National Institute of Tourism and Hospitality (LANITH)を通して、人材育成を行っている。LANITH は、ビエンチャン（2010 年 1 月、1 百万ユーロ）及びルアンプラバン世界遺産地区に拠点（2012 年、50 万ユーロ）を設立し、ホテルサービス、レストランサービス、観光・旅行オペレーションの分野をカバーし、2 年のディプロマコースを提供している。LANITH の概要を次項に示す。

Mission: Build a tourism and hospitality “Centre of Excellence” to educate, train, innovate, communicate, and unite.

Educate: The Lanith Diploma offers four, two-year international-level majors – food production, food and beverage service, accommodation operations, and travel and tourism operations – at its Vientiane campus. The programme targets the next generation of career-minded hospitality and tourism professionals and service sector leaders.

Train: Lanith’s award-winning Passport to Success industry training programme offers more than 40 multi-day modules aimed at Laos’ current tourism and hospitality workforce. Internationally educated Lao trainers deliver instruction in the Lao language. The programme plots trainee’s progress in a “Passport to Success” booklet and presents a path for professional development by meeting ASEAN standards for competency-based training courses.

Innovate: Innovation is at the core of Lanith. Rather than employ a standard model for destination human resource development, Lanith customises its approach to fit Laos’ burgeoning staff requirements through sustainable strategies. Lanith aggressively pursues public-private sector partnerships and harmonisation with other donor agencies in pursuit of its vision and mission.

Communicate: Lanith is committed to creating awareness, communicating its activities and progress, and presenting an arena to raise and discuss important cross-cutting industry issues among all stakeholders: travel professionals, trade staff and management, government agencies, development organisations, educators, students, civil society, and foreign visitors. To accomplish this, Lanith employs several multimedia tools, and organises periodic Lanith Symposia, which add another effective platform for engagement.

Unite: Lanith unites the entire visitor economy through a common vision and shared ideological conviction to excellence.

7.5 国際機関との連携の可能性

ルアンプラバン観光開発支援関連については、上記の ADB、AFD、ルクセンブルグが主な国際機関である。これら国際機関との連携の可能性を以下に示す。

- ・ **インフラ整備：**ADB はインフラ整備（主に道路）とキャパシティビルディングを中心に支援を行っている。我が国支援を行う際には、ADB が行っている支援に配慮することにより、道路ネットワークの改善（ADB がカバーしていない道路を我が国支援で行う）での連携等を図ることができる。
- ・ **観光施設・景観での連携：**AFD が建物修復、歩道整備、駐車場整備、電線地中化等を行っている。市内中心部の環境整備（護岸整備を含む）は、AFD と連携することで効率的な事業の実施を行うことが可能になる（エリア分け、分野分け）。
- ・ **都市環境：**AFD の支援で「排水下水マスタープラン」を制定している。これら計画を受けて、排水下水の支援を行うことができる。
- ・ **人材育成：**ルクセンブルグの支援で LANITH を行っている。人材育成を行う際には、LANITH との連携を行うことにより、人材育成分野の補完（ホテルサービス、レストランサービス、ガイド等）をすることが可能になる。さらに、GMS 全体でツアーガイドの資格やホテルのサービス等について基準の作成が行われている。人材育成を行う際には、GMS の基準に配慮する。

7.6 その他

上述の国際機関の他にルアンプラバン世界遺産地区及び周辺地区に対しては、中国や韓国等が観光施設を中心に投資を行っている。表 7.6.1 に投資の概要をまとめる。

表 7.6.1 観光関連施設建設

プロジェクト	概要
ゴルフコース	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開発面積 1,030ha、18 ホール ・ 2006 年に韓国の投資により建設された。2013 年にラオスの企業に運営権が移管されている。 ・ 利用者の殆どは地元住民。
ホテル	コンセッション（50年）により中国企業が、大型ホテルが建設中である（Ban Pongvann）。2017年に完成予定。123部屋。
Kuang Si Waterfall 周辺地域開発	ホテルやゴルフ場の建設を予定している。現在開発に係る調査を実施している。

出典：JICA 調査団。ヒアリングをベースに作成

第8章 観光開発のコンセプト・戦略(案)

8.1 観光開発のコンセプト・戦略の考え方

本現地調査結果概要におけるルアンプラバン観光開発の方向性・戦略の考え方は、図 8.1.1 に示すとおりである。

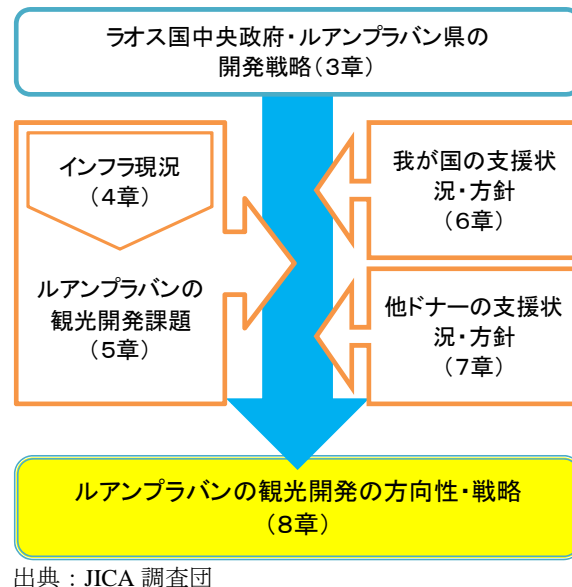


図 8.1.1 ルアンプラバン観光開発の方向性・戦略の考え方

8.2 ルアンプラバン観光開発のコンセプト

ルアンプラバン観光開発のコンセプトは、主に、7月及び9～10月にビエンチャン及びルアンプラバン県で関係機関等を対象に実施した各種ヒアリング、7月16日及び23日にそれぞれルアンプラバン県及び首都ビエンチャンで実施したワーキンググループ、10月2日にルアンプラバン県で開催したワーキンググループ等の協議結果、並びに『ルアンプラバン観光開発及びマーケティング戦略計画 2011-2020 (LPTDMSP)』を基に取りまとめた。

LPTDMSP、及び MICT へのヒアリングによれば、コンセプトは「歴史・文化・自然を活かしてミドル～ハイエンドの客層に照準を合わせた快適な滞在を提供する」が適切であると考えられ、ワーキンググループにおいてもラオス側の合意を得た。同戦略計画書には、活用する観光資源として歴史・文化・自然の3点が挙げられており、MICT は、一部の外国人旅行者による公序良俗の乱れが問題視されることの多いバンビエン (Vang Vieng) 等ラオス国内の他の観光地との差別化を図りたいと考えている。

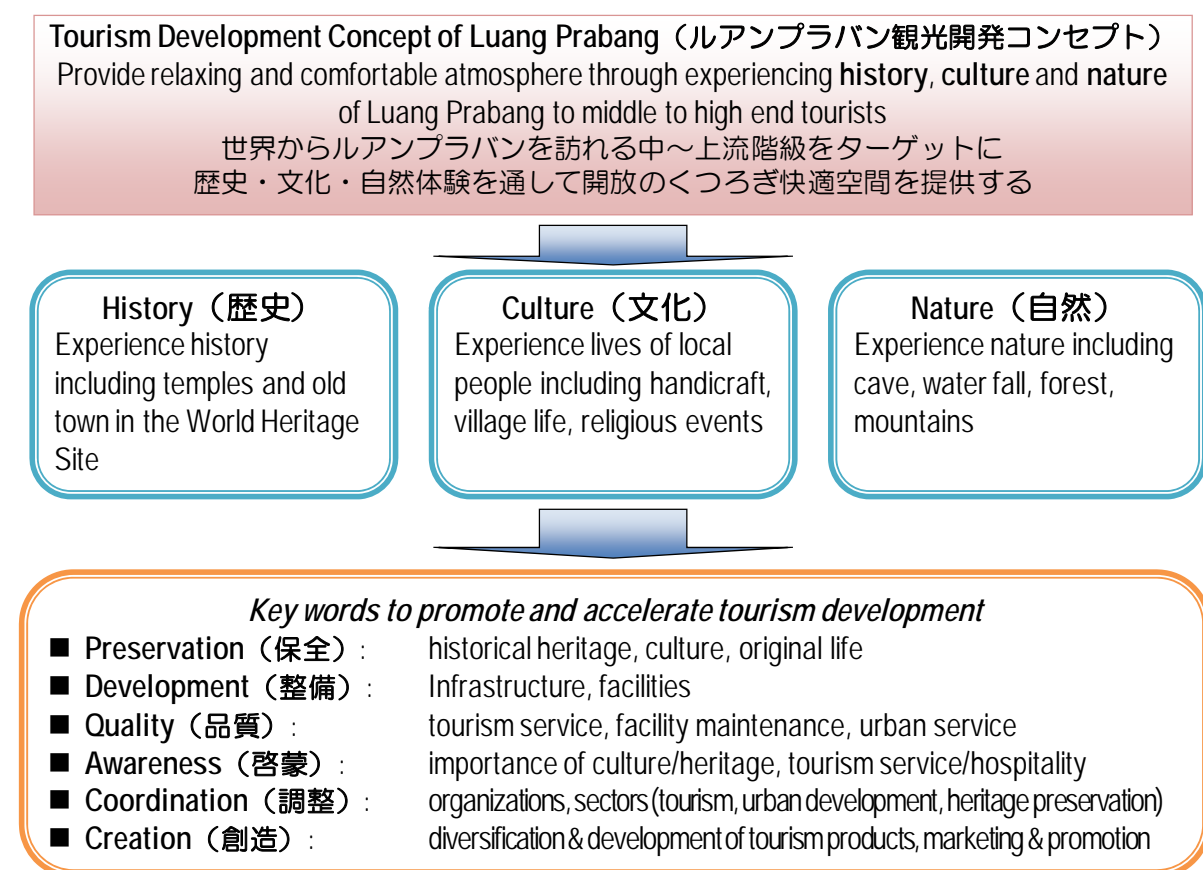
10月2日にルアンプラバン県で開催されたワークショップでは、7月概ね合意されていた6つのキーワードについて、歴史・文化・自然の観点からのニーズを念頭に、どのような解釈をすべきか議論した。その結果は、表 8.2.1 に示すとおりである。

表 8.2.1 6つのキーワードとその解釈

グループ キーワード	観光開発	インフラ整備
保全 - Preservaion	<ul style="list-style-type: none"> ・ プーシーや王宮等シンボルの観光資源の保全 ・ 伝統的町並みの保全 ・ ナムカンの景観保全 ・ 清潔で快適な町の保全（ゴミ・排水・排気ガスのあふれていない町・禁煙都市） ・ 托鉢等伝統的慣習の尊重 ・ 外国投資・コンセッションの横行制御によるコミュニティの保全 ・ 若い世代に対する伝統教育強化（ラオスの伝統的なドレスコードやラオス語使用の尊重を含む） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適切なリハビリ等による既存インフラの有効活用 ・ 路面排水の向上 ・ 水源の観点からの森林保全 ・ 水資源に関する責任分担の明確化 ・ 環境教育の充実 ・ 町の清掃充実や緑の保全
整備 - Development	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光地のゾーニング及び寺院サービスマネジメントの改善 ・ 観光施設整備（公共トイレ・観光案内版・観光案内所） ・ 観光地アクセス道路改善 ・ 新規観光地開発 ・ より近代的な観光情報ウェブの開設 ・ 観光地の開園時間見直し（プーシー等） ・ 観光特産品の高級ブランド化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一定区間の道路の一括整備（断片的ではない整備が必要） ・ 路上駐車問題を軽減する駐車場の整備 ・ 町全体の緑化事業 ・ 十分な給水の実現 ・ 廃棄物処分場整備（拡張・新規） ・ 公共トイレの整備 ・ 排水処理の充実
品質 - Quality	<ul style="list-style-type: none"> ・ サービスの質向上のための資機材調達 ・ レストラン・宿泊施設・ツアーガイドに対する教育訓練 ・ 食事の質向上（洗練度・安全性・コストパフォーマンス） ・ 入場料・宿泊費・交通費の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全性確保の観点からのインフラ全般の整備（路面・水量水質） ・ 都市サービスの向上（道路アクセス・上水・浄化槽を含む下水排水・各戸トイレ整備）
啓蒙 - Awareness	<ul style="list-style-type: none"> ・ 官民に対する環境教育・キャンペーン実施（自然・文化・歴史に対する観光開発インパクトを含む） ・ 観光客とコミュニティの交流促進による相互理解の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般住民レベルにおける世界遺産都市の自覚向上 ・ 一般住民レベルにおける基礎インフラ重要性の認識向上（水利用等） ・ 学校・コミュニティにおける環境教育の強化・キャンペーン実施（湿地帯等の保全・ゴミ問題等を含む）
調整 - Coordination	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係者間調整メカニズムの確立（ラオス各政府機関・民間セクター・NGO・コミュニティ等） ・ 観光セクターにおけるより多くの関係者の参加促進 ・ 観光セクターにおける利益分配の仕組みの確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 明確なステークホルダーの定義及び調整メカニズムの確立（インフラ各機関・遺産局・観光局等ラオス各政府機関、民間セクター、コミュニティ等） ・ 各セクター調整部署の能力強化 ・ 外国ドナーとラオス民間セクターの連携強化
創造 - Creation	<ul style="list-style-type: none"> ・ 竹細工・織物・天然染料等新規土産物の開発 ・ 長期滞在型アトラクションの開発 ・ ナイトマーケットの見直し（販売商品や飲食物の多様化・他のアトラクションの導入等） ・ ラオス伝統料理と外国料理とのフュージョン料理開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画・実施・運営に至る過程へのコミュニティの参加促進（ゴミ処理・配電等を含む） ・ 給水システムの近代化（特に遺産地区における） ・ 雨水・汚水排水における分流式の導入

出典：JICA 調査団

上記の過程を経て作成された観光開発コンセプトは、図 8.2.1 に示すとおりである。



出典：JICA 調査団

図 8.2.1 ルアンプラバン観光開発のコンセプト

8.3 ルアンプラバン観光開発の戦略

4・5・6・7章の結果から、ルアンプラバン世界遺産地区及び周辺地区の観光開発では、アクセス道路整備・各種ユーティリティ整備・景観への配慮・交通運輸施設整備・都市環境整備・各種人材育成等を重点的に進めるべきである。無論、ドナー間調整は必須である。これらをコンセプトで示したキーワード毎に整理すると、図 8.2.1 のキーワード「保全」「整備」「品質」「啓蒙」「調整」「創造」に結びつく。これらキーワードを戦略ととらえ、表 8.3.1 にこれら重点分野と戦略・キーワードとの関係を示す。

表 8.3.1 ルアンプラバン世界遺産地区及び周辺地区における重点分野と戦略・キーワードとの関係

戦略・キーワード	保全	整備	品質	啓蒙	調整	創造
重点分野						
アクセス道路整備		○			○	
各種ユーティリティ整備		○			○	
景観への配慮	○				○	○
交通運輸施設整備		○			○	○
都市環境整備	○	○			○	○
各種人材育成			○	○	○	

出典：JICA 調査団

これら戦略キーワード、重点分野を、LPTDMSP を元に戦略と施策として整理すると以下のようにまとめることができる。なお、(新規提案)は、LPTDMSP に記載がないものの、10月2日のルアンプラバン県でのワークショップにおいてラオス側から新たに提案されたものである。

戦略1 保全 Preservation

- 遺産保全、都市開発、観光振興の観点からの PSMV 及びバッファゾーンの規制の強化
- 文化・歴史遺産の保全
- 歴史遺産に調和した景観の改善)

戦略2 整備 Development

- インフラ整備：交通（道路、公共交通、駐車場）、上下水道、洪水対策/雨水排水、護岸整備、廃棄物処理（新規提案）
- 観光施設：トイレ、案内所

戦略3 品質 Quality

- 観光業（ゲストハウス、レストラン、手工芸品）を対象にした研修
- 施設管理にかかわるキャパビル
- 都市サービス：廃棄物処理、街の清掃（新規提案）
- 透明性なコンセッション手続き、住民参加の義務付け

戦略4 啓蒙 Awareness

- 観光業・観光客に対する文化・遺産保全の啓蒙（新規提案）
- 観光サービス改善にかかわる啓蒙

戦略5 調整 Coordination

- 行政間の調整（観光、遺産、都市開発）（新規提案）
- 行政とコミュニティの調整（新規提案）
- 観光収入再分配システムの構築（新規提案）

戦略6 創造 Creation

- 観光商品の多様化・開発
- マーケティング・観光促進の強化

第9章 観光開発関連のプロジェクト（ロングリスト）

9.1 観光開発関連プロジェクト整理の考え方

観光開発関連プロジェクトを整理する際の考え方を以下に整理する。

(1) ルアンプラバン県の観光開発に係る課題要点

ルアンプラバン県政府は、歴史・文化・自然を活かしたミドル～ハイエンドの客層を対象にした観光振興を目指している。観光開発を行うためには、観光業のサービスの向上、観光インフラ（アクセス、ユーティリティ等の都市サービス）、景観形成に留意する必要がある。

(2) 我が国の支援状況・方針との整合

我が国はラオス支援における重点課題として、「経済・社会インフラ整備」を挙げており、その協力プログラムとして、「民間セクター強化プログラム」、「都市環境整備プログラム」が含まれている。観光開発はこの重点課題と協力プログラムの一環として実施することになる。また、ルアンプラバン県においては、技術協力プロジェクトを通して、水道公社事業管理能力向上や LPP を通した都市環境改善を行っており、ルアンプラバン県政府と我が国と良好な関係を築いている。これらルアンプラバン県での経験を活かした支援を行うことで、より効率的に支援を行うことが期待できる。

(3) 他ドナーの支援状況・方針との整合

ルアンプラバン県に対しては、主に ADB と AFD が支援を行っている。ADB は主にインフラ整備、人材育成を行っている。AFD は世界遺産地区の歩道整備、駐車場整備、建物修復を行っている。ルアンプラバン県の観光開発を行うためには、さらなるインフラ整備と人材育成が必要である。インフラ整備、特に道路は ADB と日本が連携することにより、道路ネットワークの形成に貢献することが期待できる他、人材育成は様々な分野で継続して行うことが望まれる。

(4) 関連計画及び関係者との協議によるロングリストの作成

上記の考え方を基に、関連機関が所有する計画、関係者の意向（優先度）等に基づいてロングリストを作成した。

9.2 ロングリストの構成

プロジェクトのロングリストは以下の手順で整理した。

- ・ 関連機関がまとめたプロジェクトリストに対する調査団との意見交換。
- ・ 我が国支援として候補になりうる条件の協議（規模、観光開発との関連性、他資金可能性）。
- ・ ラオス側の優先度、観光振興との関連性、及び我が国支援の条件に基づいたロングリスト及び優先度の整理（ラオス側の提案）。
- ・ ラオス側の提案を受けた調査団の優先度の検討。
- ・ 観光振興のキーワード（保全、整備、品質、啓蒙、連携、創造）と提案案件との関連性の協議。
- ・ ラオス側提案に基づいたコストの検証。

プロジェクトは、観光振興、道路・交通、都市環境・サービスの3セクターでまとめる。

9.3 観光振興

観光振興分野については、『ルアンプラバン観光開発及びマーケティング戦略 2011-2020 (LPTDMSP)』に示されている 23 戦略の下に位置するプログラム（及びプロジェクト）群を次のように評価し、協力ニーズを抽出した。

（ラオス側）

- ＝優先度高い : 重要性を特に認識かつ LPTDMSP に記載有り
- △＝優先度中程度 : 重要性を認識かつ LPTDMSP に記載有り

（日本側）

- ＝優先度高い : 本調査で重要性を認識かつ LPTDMSP に記載有り
- △＝優先度中程度 : 本調査で重要性を追加認識かつ LPTDMSP に記載有り
- 空欄＝優先度低い : 本調査で重要性の高さは認めないが LPTDMSP に記載有り

観光振興分野のロングリストは、表 9.3.1 に示すとおりである。また、概算コストは、ラオス側の LPTDMSP からの引用である。

表 9.3.1 観光振興分野のロングリスト

Strategy	Programme	Number of Projects	Project Cost Estimated by Lao PDR (million USD)	Project Cost Estimated by Japan (million USD)	Priority by Lao PDR	Priority by Japan	Keyword by Lao PDR/ Japan
1	Institutional improvement in Heritage Site	1 Laws and regulations	2 0.01	1.67	○	○	Preservation
		2 MP for tourism promotion	4 0.02				Coordination
2	Tourism development and marketing strategy	1 Tourism strategy	9 0.04	0.67	△	△	Development
		2 Provincial & district tourism	1 0.00				Creation
3	Diversification of tourism products	1 Improvement of existing tourism sites	7 0.20	1.34	△	△	Development
		2 Survey for new tourism sites	4 0.07				Quality Creation
4	Tourism infrastructure (Access roads, rest areas)	1 Infrastructure for access improvement	9 1.29	4.48	○	○	Development
		2 Improvement of rest areas' comfortability	7 0.14				Quality
5	Promotion of local culture	1 Unique culture promotion	3 0.03	1.67	○	○	Preservation
		2 Cultural & ethnic festivals	2 0.01				Creation
6	Natural resource preservation	1 Awareness of importance of nature	2 0.02	0.67	○	△	Coordination
		2 Tourism site development survey	3 0.04				Awareness
7	Protection of biodiversity for eco-tourism	1 Forestry conservation & env. protection	4 0.06	0.67	○	△	Preservation
		2 Wildlife protection	2 0.06				Quality
8	Upgrading of existing tourism sites	1 Tourism facilities	1 0.06	1.93	○	○	Creation
		2 Improvement in quality	3 0.12				Quality
9	Tourism infrastructure (Information centers)	1 Improvement of basic infrastructure	3 0.08	2.70	○	○	Development
		2 Improvement of tourism information system	3 0.13				
10	Tourism business management	1 Tourism business management	3 0.02	1.34	○	○	Quality
		2 Tourism management laws & regulations	2 0.01				Coordination
		3 Monitoring & evaluation	1 0.01				
11	HRD for tourism staff	1 HRD for tourism staff	4 0.02	0.67	○	○	Awareness
							Coordination
12	Improvement in service quality by different training measures	1 Rating standardization	4 0.03	1.67	○	○	Development
		2 Training on tourism service improvement	5 0.39				Quality
		3 Training for tourism personnel on site/ at school	4 0.03				Creation
13	Involvement of local people	1 Potential village survey & evaluation	8 0.25	2.34	○	○	Awareness
		2 Local activity development	5 0.15				Creation
14	Optional tourism product development	1 Potential survey especially in Ngoi District	3 0.02	0.67	△	△	Development
		2 Improvement of tourism products	1 0.05				Creation
15	Tourism products and marketing	1 Creation of tourism products	4 0.15	1.34	○	○	Development
		2 Marketing	2 2.15				
16	Sustainable supply chain	1 Tourism potential survey	1 0.02	2.34	○	○	Quality
		2 Development of potential areas	3 0.21				
		3 Tourism product supply chain	3 0.13				
		4 Promotion of tourism product networks	3 0.05				
17	Tourism statistics database	1 Tourism information database design	2 0.02	0.50	△		Quality
		2 Tourism statistics	1 0.02				Coordination
18	Capacity building for tourism research	1 Capacity building	2 0.07	0.50	△		Quality
		2 Annual tourism research reports	1 0.02				Awareness
		3 Information collection survey	2 0.07				
19	Improvement in advertisement	1 Tourism advertisement	2 0.06	0.50	△		Quality
		2 Upgrading of existing tourism publications	1 0.01				
		3 Training on publication design	2 0.06				
20	Website development	1 On-line tourism information development	1 0.02	0.33	△		Creation
21	Private sector promotion	1 Advertisement for business sector	1 0.02	0.67	△	△	Creation
		2 FAM Trip by PPP	1 0.06				
22	HRD for tourism services	1 HRD in short & long terms	4 0.08	2.89	○	○	Quality
		2 Management skills & tourism services	3 0.04				Awareness
		3 Tourism information skills	3 0.28				
23	Tourism curriculum	1 Tourism curriculum	4 0.17	1.00	○	○	Quality
TOTAL			155	7.05	32.55		
Note 1 LAK = 0.000123035 USD		Priority ○:High, △:Middle, None: Low					
1 USD = 119.717467 JPY							

出典：LPTDMS を基に JICA 調査団が作成

ロングリスト中の優先プロジェクト評価は次のとおりである。

プロジェクト	観光開発の課題(番号は5章に示した課題)	プロジェクトの評価
1-Institutional improvement in Heritage Site	⑧ UNESCO 及び種々のドナーとの継続的な支援・協力体制を確立し、あらゆる側面から世界遺産としての持続的な観光を保証していく必要がある。	世界遺産地区における法制度の充実であり、持続可能な観光開発を法的側面から可能にするという意味でその優先度は高い。一方、その実施にあたって影響を受ける住民等に対する社会的配慮に慎重を期すべきである。
4-Tourism Infrastructure (Access roads, rest areas)	① 外国人の滞在日数を増加させることで観光収入を上げ、同時に観光客を県内各地へ分散させることで世界遺産地区の環境負荷を低減する。そのためには、観光商品の多様化が必要である。 ⑦ 観光施設の有効利用と住民裨益増、環境負荷の空間的・時間的な一点集中を回避する持続的な観光を確保するため、ルアンプラバン県全体でオフシーズンの観光活性化（グリーンツーリズム）を振興し、時節間の観光客数の均平化を図るとともに、ゴイ郡等新興観光地における観光客誘致の競争力を上げる必要がある。	ルアンプラバン観光の中心的存在である遺産地区及びその周辺、並びに県内第二の観光地としてプロモーション中のゴイ郡における小規模なアクセス道路・観光施設の整備であり、優先度は高い。ただし、具体的対象地特定には今後更に詳細な調査を必要とする。
5-Promotion of local culture	② 観光商品の対外プロモーションを強化する必要がある。 ③ 国内外からの観光投資を呼び込み、住民への裨益構造を構築する必要がある。	「文化」はルアンプラバン観光資源の三本柱のひとつであり、地域・伝統文化を活かした観光アトラクションの開発は重要である。
8-Upgrading of existing tourism sites	⑤ 観光管理の仕組み作り、観光インフラの改善の為に、必要な調査・計画・設計・施工を実施する必要がある。	現在の中心的な観光地における小規模な観光施設（公共トイレ・案内版・駐車場等）建設は、既存観光資源において快適性の確保し、引き続き観光客を誘致していくために重要である。
9-Tourism infrastructure (Information centers)	⑤ 観光管理の仕組み作り、観光インフラの改善の為に、必要な調査・計画・設計・施工を実施する必要がある。	空港の観光インフォメーションセンター・観光地における小規模な造園整備・ルアンプラバン県におけるインフォメーションセンターの改修や資機材調達等は、観光拠点整備の観点から重要である。
10-Tourism business management	⑥ 観光に関する法制度やガイドライン等を、運営担当者の人材育成も含めて充実する必要がある。	観光管理は持続的な観光セクターの要である。民間と協力しながら行政が観光業に関する実的な法整備を進め、責任を持って観光セクターを一元的に管理する観光プラットフォームのような体制を構築することは、非常に重要である。
11-HRD for tourism staff	④ 世界遺産の価値を持続させるとともに、外国人観光客の滞在の満足度を上げ、またあらゆる経済のしくみが統合されつつある ASEAN 内部の競争に勝つためには、官民の観光分野関係者に対し、その資質向上を目的として広く教育訓練を実施する必要がある。	DICT を初めとするラオス国観光セクターの人材の現在の能力は決して高いとはいえず、持続可能な観光開発のためには、観光計画策定や観光管理に十分な知識を備えた総合的な人材の育成が喫緊の課題である。
12-Improvement in service quality by different training measures	④ 世界遺産の価値を持続させるとともに、外国人観光客の滞在の満足度を上げ、またあらゆる経済のしくみが統合されつつある ASEAN 内部の競争に勝つためには、官民の観光分野関係者に対し、その資質向上を目的として広く教育訓練を実施する必要がある。	現在のルアンプラバン県では、増加する外国人観光客に人材の育成が追い付かず、宿泊施設や飲食店では、研修が不十分で質の高いサービスが提供できない学生のアルバイト等で耐えしのいでいる状況である。したがって、フロント・Food & Beverage 担当等観光業に携わる人材の育成、宿泊施設や飲食店の格付けの導入等、観光の質を上げるための教育訓練は、喫緊の課題である。

プロジェクト	観光開発の課題(番号は5章に示した課題)	プロジェクトの評価
13-Involvement of local people	③ 国内外からの観光投資を呼び込み、住民への裨益構造を構築する必要がある。	地元コミュニティの理解を得、コミュニティの幅広いセクターが観光業から裨益することなくして持続的な観光開発は達成できない。CBT(コミュニティ・ベイスド・ツーリズム)を初めとして、地元住民が広く観光業から収入の得られる観光商品や社会システムを開発することは、非常に重要である。
15-Tourism products and marketing	③ 国内外からの観光投資を呼び込み、住民への裨益構造を構築する必要がある。 ② 観光商品の対外プロモーションを強化する必要がある。	これは、上記「13」にも関係する。地元コミュニティが土産物等魅力的な地元産品・手工芸品等を開発し、観光セクターから裨益することは、CBTのひとつの有り方であり、ルアンプラバン観光の課題のひとつである。
16-Sustainable supply chain	① 外国人の滞在日数を増加させることで観光収入を上げ、同時に観光客を県内各地へ分散させることで世界遺産地区の環境負荷を低減する。そのためには、観光商品の多様化が必要である。	(ラオス国北部及びベトナムやタイも視野に入れた) 広域エリアを対象とする観光サプライチェーンのポテンシャル調査、また調査結果に基づく新たな観光業の開発により、ルアンプラバン県の魅力をより多重的に発信することが可能になり、地域社会はより持続的に裨益するシステムが確立されることから、持続可能なサプライチェーンの調査・計画は、中長期的にたいへん重要である。
22-HRD for tourism services	④ 世界遺産の価値を持続させるとともに、外国人観光客の滞在の満足度を上げ、またあらゆる経済のしくみが統合されつつある ASEAN 内部の競争に勝つためには、官民の観光分野関係者に対し、その資質向上を目的として広く教育訓練を実施する必要がある。	特にルアンプラバン・ゴイ・シェンゲン・チョンペット4郡に対して観光業に携わる人材を強化する。これらの郡はルアンプラバン県の観光の中心となっている郡であり、人材育成は特に喫緊の課題である。ルアンプラバン郡における公的な人材育成センターの建設も含む。
23-Tourism curriculum	④ 世界遺産の価値を持続させるとともに、外国人観光客の滞在の満足度を上げ、またあらゆる経済のしくみが統合されつつある ASEAN 内部の競争に勝つためには、官民の観光分野関係者に対し、その資質向上を目的として広く教育訓練を実施する必要がある。	持続的な観光人材育成のためには、地元の大学や職業訓練学校との提携及びカリキュラム開発が不可欠である。近隣諸国との連携も念頭におき、実効性の高いカリキュラムを幅広く検討することが重要である。

9.4 道路・交通

道路・交通セクターについてルアンプラバン運輸交通事業局(DPWT)のニーズに基づいて抽出した。道路・交通プロジェクトのロングリストを表 9.4.1 に整理するとともに、図 9.4.1～図 9.4.2 にプロジェクト位置を示す。

表 9.4.1 道路・交通プロジェクトのロングリスト

Necessary Projects of Road and Transportation Sector		Priority based on Needs of DPWT (○: High, △: Fair, None: Low)	Priority examined by JICA Survey Team (○: High, △: Fair, None: Low)	Amount (US\$ million)	Amount (US\$ million) JST	Key Word for tourism development
1	Tourism Road Rehabilitation (Mekong Bridge Site-Ban Soun-NR13N)	○	○	4.64	4.07	Development Creation
2	Connecting Road (Tourism Road above No.1 and NR13N) Rehabilitation (NR13N China Hospital-Ban Donmai)	△	△	0.11	0.18	Development Creation

Necessary Projects of Road and Transportation Sector		Priority based on Needs of DPWT (○: High, △: Fair, None: Low)	Priority examined by JICA Survey Team (○: High, △: Fair, None: Low)	Amount (US\$ million)	Amount (US\$ million) JST	Kye Word for tourism development
3	Connecting Road (Tourism Road aboveNo.1 and NR13N) Rehabilitation (NR13N-Ban Donkao)	△	△	0.23	0.19	Development Creation
4	Connecting Road (Tourism Road aboveNo.1 and NR13N) Rehabilitation (NR13N-Ban Khok Va)	△	△	0.36	0.31	Development Creation
5	Connecting Road (Tourism Road aboveNo.1 and NR13N) Rehabilitation (NR13N Political School-Ban Khok Va)	△	△	0.20	0.32	Development Creation
6	Connecting Road (Tourism Road aboveNo.1 and NR13N) Rehabilitation (NR13N Political School-Ban Khomkhuang)	△	△	0.35	0.31	Development Creation
7	Connecting Road (Tourism Road aboveNo.1 and NR13N) Rehabilitation (NR13N Bus Station North-Ban Seinglek)	△	△	0.22	0.38	Development Creation
8	Connecting Road (Tourism Road aboveNo.1 and NR13N) Rehabilitation (NR13N Ban Phonsa Ad-Ban Seinglek)	△	△	0.55	0.53	Development Creation
9	Connecting Road (Tourism Road aboveNo.1 and NR13N) Rehabilitation (Irrigation Company-Wad Ban Phonsa Ad)	○	○	0.20	0.48	Development
10	Tourism Road Rehabilitation of Short Cut Route (NR13N Ban Khaotenuang-Ban Naduay)	△	△	0.97	1.67	Development Creation
11	Road Rehabilitation of Provincial Road (NR13N-Ban Ansavan)	○	○	0.68	1.17	Development Creation
12	Road Rehabilitation of NR13N to 4 Lane -A (Airport-Luang Prabang)	○	○	19.75	27.50	Development Creation
12	Road Rehabilitation of NR13N with 2 Lane -B (Luang Prabang- Tad Sae Waterfall)	○	△		8.75	Development Creation
13	Road Rehabilitation of Kai Son Road (Phouvao Road)			4.94	2.25	Preservation Development
14	Road Rehabilitation of NR2501 (Luang Prabang-Kuang Si Waterfall) Rehabilitation	○	○	17.29	21.88	Development Creation
15	Construction of Mekong Bridge and Road Rehabilitation	○	△	45.00	53.49	Quality Preservation
16	Rehabilitation of Main Street Road in Mouang Ngoi	○	○	0.15	0.28	Preservation Awareness Creation
17	Construction of EV Bus Stations	○	○	0.02	0.02	Preservation Awareness Creation
18	Facilitation of Traffic Lights at 5 intersections within Luang Prabang	△		0.28	0.48	Preservation Awareness
19	Construction of Long-distance Bus stations outside Luang Prabang			0.48	0.55	Preservation Development Creation
20	Construction of Khan River Bridge	○	○	-	10.00	Development Creation

出典：JICA 調査団（注意：優先度及びコストは DPWT 資料に基づき調査団で検証した）



出典：JICA 調査団が DPWT 作成資料を元に加工

図 9.4.1 道路・交通プロジェクトのロングリスト（1－9 番、12 番の事業）



出典：JICA 調査団が DPWT 作成資料を元に加工

図 9.4.2 道路・交通プロジェクトのロングリスト（13 番を除く 10－15 番の事業）

ロングリスト中のプロジェクト評価は次のとおりである。

プロジェクト		観光開発の課題 (番号は 5 章に示した課題)	プロジェクトの評価
1	Tourism Road Rehabilitation (Mekong Bridge Site-Ban Soun-NR13N)	(1)①(i) 観光アクセス道路：国際空港の裏手には多数の手工芸品店が立ち並び、多くの観光客が訪れている。これらへの観光アクセス道路は未舗装であり、雨季にはアクセスが困難となる。このため、当該道路につき早急の道路改修（リハビリ）が必要である。	ルアンプラバン世界遺産地区への観光客の多くが、当該観光道路沿いの手工芸品店やお土産品店を訪問しているが、現状では未舗装（砂道路）となっており、舗装を伴う道路改修は極めて優先度が高い。当該整備により、当該区間（4.65km）では約 7 分の時間短縮が見込まれ、バスや自転車による観光利便性が向上し、手工芸産業の振興にも寄与し、観光客の増加にもつながると期待される。
2	Connecting Road (Tourism Road aboveNo.1 and NR13N) Rehabilitation (NR13N China Hospital-Ban Donmai)	(1)①(i) 観光アクセス道路：国際空港の裏手には多数の手工芸品店が立ち並び、多くの観光客が訪れている。これらへの観光アクセス道路は未舗装であり、雨季にはアクセスが困難となる。このため、当該道路につき早急の道路改修（リハビリ）が必要である。	当該連結道路は、上記 1 の観光道路と国道 13 号線北を連結するショートカット道路であるが、特に早急な整備が必要とは考えられず、これら道路改修の優先度は中程度である。
3	Connecting Road (Tourism Road aboveNo.1 and NR13N) Rehabilitation (NR13N-Ban Donkao)	(1)①(i) 観光アクセス道路：国際空港の裏手には多数の手工芸品店が立ち並び、多くの観光客が訪れている。これらへの観光アクセス道路は未舗装であり、雨季にはアクセスが困難となる。このため、当該道路につき早急の道路改修（リハビリ）が必要である。	当該連結道路は、上記 1 の観光道路と国道 13 号線北を連結するショートカット道路であるが、特に早急な整備が必要とは考えられず、これら道路改修の優先度は中程度である。
4	Connecting Road (Tourism Road aboveNo.1 and NR13N) Rehabilitation (NR13N-Ban Khok Va)	(1)①(i) 観光アクセス道路：国際空港の裏手には多数の手工芸品店が立ち並び、多くの観光客が訪れている。これらへの観光アクセス道路は未舗装であり、雨季にはアクセスが困難となる。このため、当該道路につき早急の道路改修（リハビリ）が必要である。	当該連結道路は、上記 1 の観光道路と国道 13 号線北を連結するショートカット道路であるが、特に早急な整備が必要とは考えられず、これら道路改修の優先度は中程度である。
5	Connecting Road (Tourism Road aboveNo.1 and NR13N) Rehabilitation (NR13N Political School-Ban Khok Va)	(1)①(i) 観光アクセス道路：国際空港の裏手には多数の手工芸品店が立ち並び、多くの観光客が訪れている。これらへの観光アクセス道路は未舗装であり、雨季にはアクセスが困難となる。このため、当該道路につき早急の道路改修（リハビリ）が必要である。	当該連結道路は、上記 1 の観光道路と国道 13 号線北を連結するショートカット道路であるが、特に早急な整備が必要とは考えられず、これら道路改修の優先度は中程度である。
6	Connecting Road (Tourism Road aboveNo.1 and NR13N) Rehabilitation (NR13N Political School-Ban Khomkhuang)	(1)①(i) 観光アクセス道路：国際空港の裏手には多数の手工芸品店が立ち並び、多くの観光客が訪れている。これらへの観光アクセス道路は未舗装であり、雨季にはアクセスが困難となる。このため、当該道路につき早急の道路改修（リハビリ）が必要である。	当該連結道路は、上記 1 の観光道路と国道 13 号線北を連結するショートカット道路であるが、特に早急な整備が必要とは考えられず、これら道路改修の優先度は中程度である。
7	Connecting Road (Tourism Road aboveNo.1 and NR13N) Rehabilitation (NR13N Bus Station North-Ban Seinglek)	(1)①(i) 観光アクセス道路：国際空港の裏手には多数の手工芸品店が立ち並び、多くの観光客が訪れている。これらへの観光アクセス道路は未舗装であり、雨季にはアクセスが困難となる。このため、当該道路につき早急の道路改修（リハビリ）が必要である。	当該連結道路は、上記 1 の観光道路と国道 13 号線北を連結するショートカット道路であるが、特に早急な整備が必要とは考えられず、これら道路改修の優先度は中程度である。

プロジェクト		観光開発の課題 (番号は 5 章に示した課題)	プロジェクトの評価
8	Connecting Road (Tourism Road above No.1 and NR13N) Rehabilitation (NR13N Ban Phonsa Ad-Ban Seinglek)	(1)①(i) 観光アクセス道路：国際空港の裏手には多数の手工芸品店が立ち並び、多くの観光客が訪れている。これらへの観光アクセス道路は未舗装であり、雨季にはアクセスが困難となる。このため、当該道路につき早急の道路改修（リハビリ）が必要である。	当該連結道路は、上記 1 の観光道路と国道 13 号線北を連結するショートカット道路であるが、特に早急な整備が必要とは考えられず、これら道路改修の優先度は中程度である。
9	Connecting Road (Tourism Road above No.1 and NR13N) Rehabilitation (Irrigation Company-Wad Ban Phonsa Ad)	(1)①(i) 観光アクセス道路：国際空港の裏手には多数の手工芸品店が立ち並び、多くの観光客が訪れている。これらへの観光アクセス道路は未舗装であり、雨季にはアクセスが困難となる。このため、当該道路につき早急の道路改修（リハビリ）が必要である。	上記 1 の観光道路と国道 13 号線北を連結するため、当該連結道路は上記 1 の観光道路の改良と並行して優先的に改良整備する必要がある。この道路整備により、上記 1 の観光道路から国道 13 号線北へのアクセスが向上し、バスや自転車による観光利便性の向上、手工芸産業の振興への寄与、観光客の増加にもつながると期待される。
10	Connecting Road (NR2501 and NR13N) Rehabilitation (Irrigation Company-Wad Ban Phonsa Ad)	(1)①(v) 観光道路：国道 13 号線北と国道 2501 号線とを連結する区間はグラベル道路となっており、アクセス性向上のため道路改修（リハビリ）が必要である。	国道 13 号線北と国道 2501 号線とを連結する観光道路である。現状はグラベル道路となっているため道路改修が必要であるが、特に早急な整備が必要とは考えられず、その優先度は中程度である。
11	Road Rehabilitation of Provincial Road (NR13N-Ban Ansavan)	(1)①(iii) 州道路：国道 13 号線北からセー滝(Tad Sae Waterfall)に至る区間はグラベル道路となっており、アクセス性向上のため道路改修（リハビリ）が必要である。	国道 13 号線北から Tad Sae Waterfall に至る州道路（1.4km）で、現状はグラベル道路となっている。アクセス性向上のため、舗装を伴う道路改修は優先度が高い。当該区間の整備により、同区間における走行時間が約 2 分短縮するだけでなく、観光客の観光利便性の向上、アクセス性向上により Tad Sae Waterfall の観光振興への貢献、観光客の増加にもつながると期待される。
12-A	Road Rehabilitation of NR13N to 4 Lane (Airport-Luang Prabang)	(1)①(ii) 国道 13 号線北：ランプラバンにとって主要幹線道路（国際空港から市内へのアクセス）であるとともに観光用道路としての役割も担っており、最重要道路として位置づけられるため、既存道路の拡幅や舗装の改良が必要である。	国道 13 号線北は国際空港から市内への主要幹線アクセス道路であるとともに観光用道路としての役割も担っており、最重要道路として位置づけられる。現在 2 車線の既存道路を 4 車線に拡幅することで、市内までの走行時間が約 20 分から 15 分に（5 分短縮）されるとともに、観光シーズン時の渋滞緩和に大きく貢献できる。同時に、主要幹線道路であることから、ルアンプラバン世界遺産地区へのアクセス向上と利便性をもたらすルアンプラバン観光の魅力度を向上させ、観光客増加にも寄与すると期待されることから、その整備優先度は極めて高い。
12-B	Road Rehabilitation of NR13N with 2 Lane (Luang Prabang-Tad Sae Waterfall)	(1)①(iii) 州道路：国道 13 号線北における市内からセー滝(Tad Sae Waterfall)に至る区間は舗装されているものの、損傷が見られ、道路改修（リハビリ）が必要である。	国道 13 号線北におけるルアンプラバン世界遺産地区からセー滝（Tad Sae Waterfall）へ至る観光用道路としての役割も担っているが、特に早急な整備が必要とは考えられず、その優先度は中程度である。

プロジェクト		観光開発の課題 (番号は 5 章に示した課題)	プロジェクトの評価
13	Road Rehabilitation of Kai Son Road (Phouvao Road)	(1)①ルアンプラバン観光ゾーンにおいて、舗装道路でも部分的に損傷が見られるとともにルアンプラバン世界遺産地区へのアクセスが十分とは言えない区間が散見される。当区間について舗装や損傷の修復等、改修（リハビリ）が必要である。 (1)⑤世界遺産地区は歩道の整備が進められているが、歩道のデザインが遺産の雰囲気合っているかの議論がある。歩道の整備をする際にはデザインに配慮する必要がある。	当該道路はルアンプラバン世界遺産地区の主要道路であり、道路改修の要請があるものの、現状の道路舗装及び歩道に対し大きな問題はない。従い、その優先度は低い。
14	Road Rehabilitation of NR2501 (Luang Prabang-Kuang Si Waterfall) Rehabilitation	(1)①(iv) 国道 2501 号：ルアンプラバン世界遺産地区からクワンシー滝（Kuang Si Waterfall）に至る区間は、観光客の交通需要が高いものの、損傷が散見され、道路改修（リハビリ）が必要である。	クワンシー滝（Kuang Si Waterfall）はルアンプラバン観光において、片道 1 時間程度で行ける最も重要な観光地の 1 つに位置づけられる。国道 2501 号はルアンプラバン世界遺産地区からクワンシー滝に至る区間（25km）で、観光客の交通需要が高い区間である。しかし、部分的損傷が散見され、早期の道路改修（リハビリ）が必要で、その優先度は高い。この道路改修により、当該区間で約 12 分の走行時間短縮が見込まれ、観光利便性の向上、クワンシー滝の観光振興への貢献、観光客の増加にもつながると期待される。
15	Construction of Mekong Bridge and Road Rehabilitation	(1)⑥ルアンプラバン市街とチョンペット地区及びタイとの連結性強化は、1) チョンペットに居住する住民がルアンプラバン市街で観光業に就労、2) チョンペットにおける手工芸品やコミュニティーベース型の観光が可能、3) タイからの観光客が陸路により容易にアクセスが可能等、多くの観光振興に関する効果が期待できる。これらから、メコン橋の建設事業が浮上し、中国の民間企業が Conceptual Design まで実施したが、諸事情により事業が進んでいない状況である。そこで、ルアンプラバン県政府は日本にその支援を期待している。	メコン橋建設によるルアンプラバン市街とチョンペット地区及びタイとの連結性強化は、1) チョンペットに居住する住民がルアンプラバン市街で観光業に就労、2) チョンペットにおける手工芸品やコミュニティーベース型の観光が可能、3) タイからの観光客が陸路により容易にアクセスが可能等、多くの観光振興に関する効果が期待できる。一方、メコン橋の建設により、ルアンプラバン遺産保全地域の景観に影響するネガティブインパクトの発生が懸念される。従い、現時点ではニーズは高いものの、その優先度は中程度とせざるを得ない。
16	Rehabilitation of Main Street Road in Mouang Ngoi	(1)⑦ムンゴイ観光ゾーンの主要幹線となるメインストリート沿いには、編物・手工芸品のショップやレストランが立ち並び、観光客でにぎわいを見せている。しかし、メインストリートの道路は未舗装（土砂道路）となっており、降雨の際には水たまりで通行困難の状況になるため、コンクリート、あるいはマカダム道路に改修することが求められる。	ムンゴイ観光は、ルアンプラバン世界遺産地区から片道 4 時間かかる場所にあるが、S I T 観光の名所であり、観光需要も高くなっている。ムンゴイ観光ゾーンの主要幹線となるメインストリートの道路（1.5km）は未舗装（土砂道路）となっており、降雨の際には水たまりで通行困難の状況になる。このためマカダム道路に改修することが必要であり、その優先度は高い。この道路整備により、モーターバイクや自転車による観光利便性の向上、手工芸産業の振興への寄与、観光客の増加にもつながると期待される。

プロジェクト		観光開発の課題 (番号は5章に示した課題)	プロジェクトの評価
17	Construction of EV Bus Stations	(1)③世界遺産地区は、トラックの日中の乗り入れ禁止等交通規制を実施しており、今後さらなる交通規制の導入を検討している。将来的には当該地区には電気自動車以外の通行は規制する予定である。バスやトゥクトゥク等の電動化を進める必要がある。そこで、JICA が支援している電気 (EV) バスについて、観光客の利用促進を強化するため、電気バス停留所の整備が重要となる。	将来的にはルアンプラバン市街地内には電気自動車以外の通行は規制する予定であり、JICA が支援している電気 (EV) バスについて観光客の利用促進を強化する必要がある。ニーズに挙がっている電気バス停留所の整備が必要で、その優先度は高い。これにより、観光利便性が向上し、アクセス性の向上による市内での観光振興に寄与するとともに、更なる観光客増加が期待される。
18	Facilitation of Traffic Lights at 5 intersections within Luang Prabang	(1)④市街地内の交差点における出会いがしらの事故の危険性を回避するため、スピード規制や景観に配慮しつつ交差点部での信号機やミラー設置等の対策が必要である。	ルアンプラバン市街地内での信号機の設置は必要である一方、景観を損ねる可能性が高く、現時点では優先度は低い。
19	Construction of Long-distance Bus stations outside Luang Prabang	—	長距離バスのバス停留所の設置はニーズにあるが、観光促進の意味合いは薄く、優先度は低い。
20	Construction of Khan River Bridge	(1)①(vi) ナムカン河に架る既存鉄橋は老朽化が著しく、自動車の走行を制限している。安全性・アクセス性を考慮して早急な付け替えが必要である。	ルアンプラバン市街地とカーン河を挟んだ対岸とを結ぶ鉄橋は老朽化しており、架け替えが必要で、その優先度は高い。これにより、観光利便性が向上し、アクセス性の向上による市内での観光振興に寄与するとともに、更なる観光客増加が期待される。

9.5 都市サービス

都市サービス関連プロジェクトは、河岸整備、下水・排水、上水、廃棄物管理の分野でまとめた。

表 9.5.1 都市サービスプロジェクトのロングリスト

Necessary Projects of Urban Service Sector		Priority based on Needs of Concerned Agencies (○ : High, △ : Fair, None: Low)	Priority (○ : High, △ : Fair, None: Low)	Priority examined by JICA Survey Team (○ : High, △ : Fair, None: Low)	Amount (US\$ million)	Amount (US\$ million) JST	Key Word for Tourism Development
1	Mekong-Nam Khan Riverside Landscaping	Dept of World Heritage	○	○	0.89	0.89	Preservation Development Quality Creation
2	Drainage and Sewerage Development in World Heritage Area (Zone I-A)	UDAA	○	○	6.23	9.34	Preservation Development Awareness
3	Drainage and Sewerage Development in World Heritage Area (Zone I-B)	UDAA	○	○	3.70	5.55	Preservation Development Awareness
4	Drainage and Sewerage Development (Zone II)	UDAA	△	△	15.02	22.53	Preservation Development Awareness
5	Drainage and Sewerage Development (Zone III)	UDAA	△	△	8.00	12.00	Preservation Development Awareness t

Necessary Projects of Urban Service Sector		Priority based on Needs of Concerned Agencies (○ : High, △ : Fair, None: Low)	Priority (○ : High, △ : Fair, None: Low)	Priority examined by JICA Survey Team (○ : High, △ : Fair, None: Low)	Amount (US\$ million)	Amount (US\$ million) JST	Key Word for Tourism Development
6	Sludge Treatment	UDAA	○	○	4.54	8.81	Development
7	Wastewater Treatment Plant	UDAA			11.82	17.73	Preservation Development
8	Flood Protection	DPWT			1.43	2.14	Preservation Development
9	Water Supply (Improvement Project)	Luang Prabang Water Supply State Enterprise (LPWSE)	○	○	5.42	8.13	Development Awareness
10	Water Supply (Expansion Project 1)	Luang Prabang Water Supply State Enterprise (LPWSE)	△		4.96	7.44	Development Awareness
11	Water Supply (Expansion Project 2)	Luang Prabang Water Supply State Enterprise (LPWSE)	△		5.94	8.91	Development Awareness
12	Water Supply (Expansion Project 3)	Luang Prabang Water Supply State Enterprise (LPWSE)	△		6.82	10.23	Development Awareness
13	Fire-fighting Facilities	LPWSE and Dept of World Heritage	○	○		1.14	Preservation Development
14.	Waste Disposal (Expansion)	UDAA	△	○		1.00	Development Awareness
15	Waste Disposal (New development)	UDAA			5.00	5.00	Development Awareness

出典：JICA 調査団（注意：優先度及びコストは関連機関との協議に基づき調査団で検証した）

ロングリストの評価は次のとおりである。

プロジェクト		観光開発の課題（番号は5章に示した課題）	プロジェクトの評価
1	Mekong-Nam Khan Riverside Landscaping	(5)①,② 世界遺産地区において、メコン川およびナムカン川沿いに歩道や河岸法面に多数のレストラン等が営業しているが、その大半は無許可で歩道や河岸法面を占拠している。景観保全を目的として、このようなレストラン等に対する規制を強化することが計画されている。 河岸利用規制・改善は、メコン河（左岸）：河岸延長 2.3 km、カーン河（両岸）：河岸延長 3.4 km（=1.7 km×2）、河川沿い公園整備：3 区間、河川沿い駐車場整備：6 区間、河川沿い歩道整備：7 区間を含む。	世界遺産地区における景観保全対策としてその優先度は高い。一方、その実施にあたって影響を受ける住民等に対する社会的配慮に慎重を期すべきである。 メコン川およびカーン川沿いの景観保全は、世界遺産地区において自然環境と調和した質の高い街並みの形成により、観光都市としての魅力向上に寄与するものである。
2	Drainage and Sewerage Development in World Heritage Area (Zone I-A)	(3)①～② Zone I-A では、既存の排水下水システムが良好に機能するよう維持管理の充実化を図ると共に、污水管渠および分散型污水处理	世界遺産地区の居住環境を改善すると共に、市街地内に良好な水辺空間を形成することで、市民や観光客に新たな憩いの場を提供するものである。

プロジェクト		観光開発の課題（番号は5章に示した課題）	プロジェクトの評価
		設備の整備により、世界遺産地区において水環境の改善を図るべきである。 雨水排水・下水道整備は、計画人口（5,400人）、観光客（2,980 ベッド）、汚水量（1,530m ³ /日）を対象にした、污水管きょ敷設：12 km、分散型污水处理設備：3 カ所を含む。	
3	Drainage and Sewerage Development in World Heritage Area (Zone I-B)	(3)①～⑤, (4)①～② Zone I-B では、中小河川・湿地への維持管理用通路の設置（アクセスの改善）、周囲にオープンスペースを確保する等、土地利用計画／湿地保全対策との連携により、水環境改善、水辺空間の創出に取り組むべきである。 雨水排水・下水道整備は、計画人口（13,030人）、観光客（3,300 人）、汚水発生量（2,630m ³ /日）を対象にした、簡易污水处理設備＋污水管きょ（14km）、湿地を利用した自然浄化施設（2 カ所、計 8,600 m ² ）、中小河川・湿地の整備、水環境改善・水辺空間の創出（10 km）、雨水排水路（3 km）を含む。	世界遺産地区の居住環境を改善すると共に、市街地内に良好な水辺空間を形成することで、市民や観光客に新たな憩いの場を提供するものである。
4	Drainage and Sewerage Development (Zone II)	(3)①～⑤ Zone II では都市化が進行しつつあり、排水下水システムの整備は都市域の拡大に応じて中長期的に取り組むべき課題である。	今後の都市インフラ整備の一環として実施すべきである。
5	Drainage and Sewerage Development (Zone III)	(3)①～⑤ Zone III は未だ都市化されていない地域であり、排水下水システムの整備は将来の都市化の状況に応じて中長期的に取り組むべき課題である。一方、セプティックタンクの普及については継続的に取り組むべきである	今後の都市インフラ整備の一環として実施すべきである。
6	Sludge Treatment	(6)② 市街地において既存セプティックタンクの機能を維持するためには、定期的な汚泥引き抜きが不可欠である。現状において汚泥は既存廃棄物処分場の近傍に投棄されている。 汚泥発生量に対応できる容量を有する処分場を早急に確保する必要がある。計画汚泥発生（5,400 m ³ /年）、汚泥処分場の建設（2 ha、植生を利用するラグーン方式）を含む。	市街地における衛生状況の改善が期待される。 汚泥が適切に処分されることにより、既存廃棄物処分場周辺への環境負荷が緩和される。
7	Wastewater Treatment Plant	(3)② 市街地を広域的にカバーする分流式下水道および下水処理場の整備は、長期的に取り組むべき課題である。	公共下水道の整備には長い年月と多大な費用が必要なため、人口が密集している区域や観光開発上などで優先度の高い区域を選定して効率的に整備することが重要である
8	Flood Protection	(5)② 2008 年にはメコン河およびカーン河の水位上昇による背水の影響でルアンプラバン世界遺産地区及び周辺地区の中小河川に逆流が発生し、河川沿い低地の一部が浸水した。 DPWT は、このような中小河川沿いの浸水対策として、逆流防止ゲートを 6 カ所に設置する計画を提案している。	メコン川およびカーン川から中小河川への逆流による浸水の頻度は低い。 逆流防止ゲートの建設よりも中小河川の整備（流下能力の確保、維持管理用通路の設置、オープンスペースの確保）を優先すべきである。

プロジェクト		観光開発の課題 (番号は 5 章に示した課題)	プロジェクトの評価
9	Water Supply (Improvement Project)	(2)② Phou Phueng 浄水施設の源泉の水質は硬度が高く炭酸カルシウムが配管内に付着するなどの支障があるため改善が求められる。 Namkhan 浄水施設の第 2 期の設備には沈殿池が設けられていないので処理機能が不十分で水質の悪化も懸念されている。 無収水率が高く、老朽化した送水管の付け替えを含む既存の給水システムの改良が必要である。	乾期の水不足が深刻となっており既存浄水施設の処理能力が不安定であるため既存給水施設の改善事業の優先度は高い。 Phou Phueng 浄水施設の水質について硬度が CaCO_3 の数値で 300 mg/l から 120 mg/l に低減される。 Namkhan 浄水施設の沈殿池の規模が 6,000 m^3 /日から 12,000 m^3 /日に増加される。 $\phi 600$ mm の送水管 6.0 km が設置される。配水管は 3.3 km が布設替えにより修繕される。この事業によって水質の改善と安定した給水が実施されて、水道料金収支の向上も期待できる。
10 ~ 12	Water Supply (Expansion Project 1, 2, 3)	(2) ②, ③, ④ ルアンプラバン郡の都市化と観光客の増加による今後の水需要に対して給水施設能力が不足するため拡張事業が必要である。 なお、ルアンプラバン郡と民間水道事業者との間で給水事業に関わるコンセッション契約が協議されており、その中で Phnom 地区に新たな浄水施設(14,400 m^3 /日)の建設が予定されている。	ルアンプラバン郡給水施設マスタープラン(2013 年)に基づいた拡張事業が実施された場合には、給水能力が 27,000 m^3 /日から 45,000 m^3 /日に増加され、今後増加する水需要に対応することが可能となる。水道管約 25.4 km が整備されて給水区域率 79%から 93%に向上する。 コンセッション契約の動向を踏まえて、上水道マスタープランの見直しが必要である。
13	Fire Fighting Facilities	(2)① 世界遺産地区の保全のため、不足している消火栓の追加、細い路地で消火活動が出来る小型消防車両の整備、寺院等の敷地内に放水銃やドレンチャーなどの初期消火設備が必要である。	世界遺産地区の歴史的遺産を火事から防ぐために防火設備の充実化は優先度が高い。 消火栓の設置数が 4 基から 39 基に増加される。狭い道路に出動可能な小型消防車両 2 台が整備される。100 箇所で放水銃等による迅速な消防活動が実施できる。 消火設備の充実によって、世界遺産の施設等の防火対策が強化される。消防活動に対する信頼度の上昇を通じて地域の安全・安心が向上される。
14	Waste Disposal (Expansion)	(6)① 今後のゴミ収集区域の拡大と処分量の増加に対して既存廃棄物処分場の拡張が必要である。	廃棄物処分場の拡張事業によって施設規模が 15ha から 20ha に拡大されるにより、衛生的な埋め立てが継続される。
15	Waste Disposal (New development)	(6)①,④,⑤ 将来に渡り増え続けるゴミ処分量に対して新規の廃棄物処分場の建設が必要である。 なお、ゴミの分別収集が不十分でリサイクルが進んでいないため、廃棄されるものを最小限に抑える循環型社会を形成するため 3R の取り組みが求められる。	新規処分場は市街地から 15km 離れているため運搬コスト等運営面に問題がある。 一方、増え続ける廃棄物を減らすため 3R の推進が重要であり、廃棄物の適正管理を目的とした廃棄物処理マスタープランの策定に取り組むべきである。

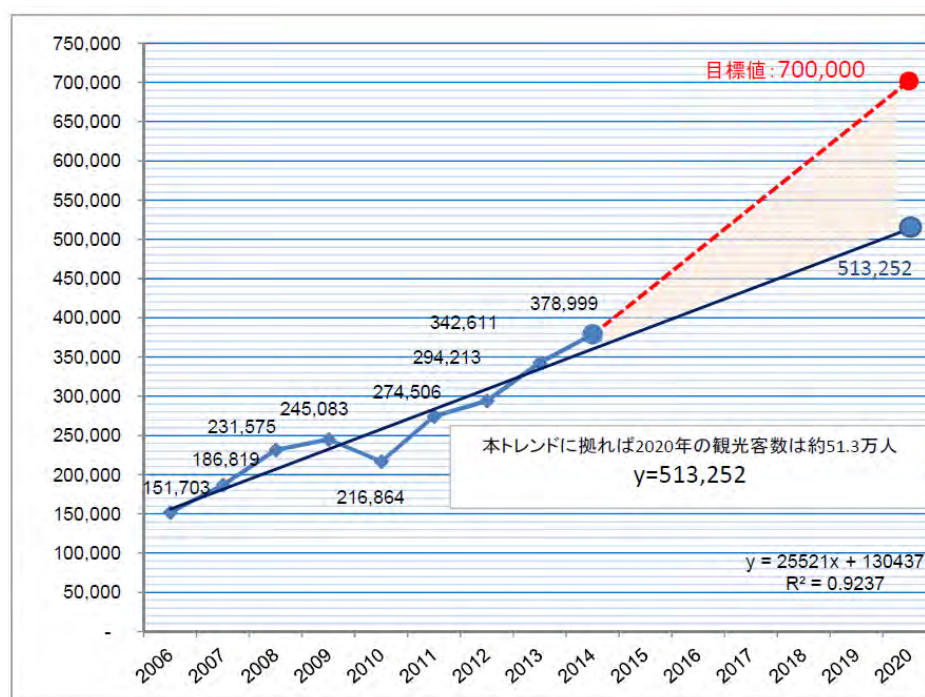
9.6 観光開発支援における期待される効果

プロジェクト実施における観光振興全体における効果を観光客数への貢献及び観光収入への貢献で示す。

9.6.1 観光客数への貢献

観光客数への貢献は、ルアンプラバン観光開発戦略で示している目標値（2020 年）を” With Project” とし、トレンド予測を” Without Project” とし、この差をプロジェクト実施の効果とする。プロジェクト支援を行うことにより、186,748 人の観光客増の効果が期待できる。

指標	観光客数（2020 年）
(a) 観光客数（Without Project）（トレンド予測）	513,252 人
(b) 観光客数（With Project）（目標値）	700,000 人
プロジェクト効果 (b)-(a)	186,748 人



出典：JICA 調査団

図 9.6.1 観光客増トレンドと目標値

9.6.2 観光収入への貢献

観光収入への貢献は、観光客一人当たりの支出をベースに、滞在期間の延長及び観光客支出増加、及び観光客数の増加について“Without Project”と“WithProject”の差で示す。

観光収入のベースとして以下を想定する。

- 観光客一人当たりの支出：70 ドル/観光客/日（『ルアンプラバン観光開発及びマーケティング戦略計画 2011-2020』で示された数値）
- 平均滞在日数：5 日（『ルアンプラバン観光開発及びマーケティング戦略計画 2011-2020』で示された数値）

Without Project の条件

- 観光客一人当たりの支出：70 ドル/観光客/日
- 平均滞在日数：5 日
- 2020 年観光客数：513,252 人/年（トレンド予測）
- 2020 年観光収入：179 百万ドル

With Project の条件

- 観光客一人当たりの支出増加：77 ドル/観光客/日（10%増を想定：観光商品の多様化、サービス改善による付加価値増）
- 平均滞在日数増加：6 日（20%増を想定：観光商品の多様化、サービス改善による付加価値増）
- 2020 年観光客数：700,000 人/年（目標値）
- 2020 年観光収入：323 百万ドル

プロジェクト実施による観光収入効果を下表に示す。

指標	観光収入（2020 年）
(a) 観光収入（Without Project）	179 百万ドル
(b) 観光収入（With Project）	323 百万ドル
プロジェクト効果 (b)-(a)	144 百万ドル

9.7 観光開発における案件の整理

9.7.1 案件選定・整理の方法

ラオス側から提案されたロングリストをベースに以下の観点から整理した。

- ロングリストの内、調査団側が優先案件として位置づける案件をベースに整理した。
- 優先案件は、観光開発のコンセプト、観光資源（歴史、文化、自然）、キーワード（保全、整備、品質、啓蒙、調整、創造）の達成に貢献することを想定して整理した。
- また、ロングリストとして挙げられなくても、観光開発を行う上で重要とされる案件を追加した。
- 案件の整理は、総合的な観光開発支援、観光開発における技術支援、セクター別の案件の 3 つの観点からまとめた。
- 観光振興の目的として、『ルアンプラバン観光開発及びマーケティング戦略計画 2011-2020』及び『ルアンプラバン県第 7 次社会経済開発計画（2016～2020 年）』に示された観光開発（サービスセクター）の目標を達成するための支援策として位置づける。以下に観光開発の主な目標を示す（観光セクターの目標はサービスセクターの目標を参考にする）。
 - 観光客数：2015 年の 35 万人を 2020 年までに 70 万人にする。
 - 年間観光収入：2015 年の US\$250 百万円から 2020 年に US\$350 百万円にする。
 - サービスセクターの年成長率目標：10%（2011～2015）の目標は達成できていない。14.1%の目標に対し、11.9%の実績）
 - GDP に占めるサービスセクターの割合：2015 年の 43.6%から 2020 年に 46.0%にする。
 - サービスセクター雇用（生産人口 15 歳から 64 歳）：2015 年の 23.4%（58,000 人）から 2020 年に 30.0%（86,000 人）にする。

9.7.2 総合的な観光開発

総合的な観光開発は「円借款事業」で実施することを想定して、ルアンプラバン観光ゾーン及びムアンゴイ/ノンキアウ観光ゾーンの 2 地域ごとにまとめた。

(1) 世界遺産地区及び周辺地域観光開発（World Heritage Area and surrounding Arias）

1	プロジェクト名	Luang Prabang Tourism Development Project (Yen Loan) ルアンプラバン観光開発プロジェクト（円借款を想定）
2	背景	ルアンプラバン世界遺産地区及び周辺地区の観光資源は、歴史、文化、自然で構成されている。観光地としての魅力を高めるためには総合的に観光開発を行う必要がある。
3	目的	インフラ整備（観光施設、交通、都市サービス）、遺産・自然保全、人材育成を行う。
4	実施機関	Dept of World Heritage, LPWSE and Dept of World Heritage, UDAA, DPWT
5	プロジェクトコンポーネント	<ul style="list-style-type: none"> • 観光施設： <ul style="list-style-type: none"> ➢ 観光案内所 ➢ 小規模観光施設（公共トイレ・アクセス路の路面舗装・駐車場・緑地・ビューポイント・案内版等） ➢ 観光人材育成センター • 交通：道路を中心に観光振興及び地場産業に寄与する道路を選定 <ul style="list-style-type: none"> ➢ Tourism Road Rehabilitation (Mekong Bridge Site-Ban Soun-NR13N) ➢ Connecting Road (Tourism Road above No.1 and NR13N) Rehabilitation (Irrigation Company-Wad Ban Phonsa Ad) ➢ Road Rehabilitation of NR13N to 4 Lane (Airport-Luang Prabang) ➢ <u>Khan River bridge construction (steel bridge) US\$10 million（新規追加）</u> • 都市環境・サービス <ul style="list-style-type: none"> ➢ 給水（既存施設改修） ➢ 消火施設 ➢ Zone I の排水・下水 ➢ 護岸整備（景観） ➢ 廃棄物処分場（拡張） ➢ <u>電線地中化（新規追加）</u> • 遺産地区の法令整備 • 遺産地区の制度改善：規制、マスタープラン見直し、観光収入制度 • 観光商品開発（SIT・催事・手工芸品等） • 人材育成 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 観光業管理 ➢ 観光従事者の人材育成（官・民） ➢ 地元住民を対象にした研修
6	コスト	観光施設：US\$10.11 million アクセス道路：US\$ 42.05 million 都市サービス：US\$ 35.86 million 遺産地区を中心とした法制度整備：US\$ 2.61million 観光商品開発（SIT・催事・手工芸品等）：US\$ 5.98 million 人材育成：US\$ 2.77 million 合計：US\$99.38 million
7	観光開発への貢献	<ul style="list-style-type: none"> • インフラ、観光施設、遺跡・自然保全、人材育成による観光地としての魅力の向上
8	遺産への影響	<ul style="list-style-type: none"> • 道路、給水、下水、案内所等施設は遺産に影響がある可能性がある。遺産への配慮（規模、デザイン）が必要である。
9	地域への影響（社会経済、文化）	<ul style="list-style-type: none"> • 社会・文化：CBT の促進により、文化面の保全ができる • 経済：手工芸品村へのアクセスの改善により村人の利便性が向上する。 • 観光客の増加及び滞在期間の延長による雇用機会、収入の増加

(2) ゴイ郡観光開発 (Ngoi District)

1	プロジェクト名	Muang Ngoi Tourist Site Improvement Project ゴイ郡観光開発プロジェクト
2	背景	<ul style="list-style-type: none"> ムアンゴイはルアンプラバン観光戦略において 2 番目の優先地域として位置づけられている。 ムアンゴイは文化・自然観光地として位置づけられている。 観光地の魅力を高めるために、地域全体の状況を改善する必要がある。
3	目的	ムアンゴイのインフラ、観光施設、観光振興を行う。
4	実施機関	DICT, DPWT
5	プロジェクトコンポーネント	<ul style="list-style-type: none"> 中心地の道路整備 観光案内所、小規模観光施設 観光商品開発 (SIT・催事・手工芸品等) 人材育成
6	コスト	US\$ 3.77 million
7	観光開発への貢献	<ul style="list-style-type: none"> 観光客の利便性の改善 観光客の増加
8	遺産への影響	遺産への影響はない
9	地域への影響 (社会経済、文化)	<ul style="list-style-type: none"> 雇用創出 (レストラン、ゲストハウス、手工芸品、ガイド)

9.7.3 観光開発における技術支援

観光開発における技術支援は「技術協力」で実施することを想定してまとめた。

(1) 観光商品開発 (Tourism Product Development)

1	プロジェクト名	Tourism Product Development (Technical Cooperation Project) 観光商品開発 (技術協力を想定)
2	背景	ルアンプラバン県政府は観光資源である、歴史、文化、自然を活用した観光促進を目指している。しかし資源は観光に十分活かされていない。これら資源を観光振興に活用することは重要である。
3	目的	観光資源である歴史、文化、自然を観光開発に十分に活用する。
4	実施機関	DICT, Heritage Dept.
5	プロジェクトコンポーネント	<ul style="list-style-type: none"> 観光商品の多様化：観光地の改善、新観光地の調査 地域文化の促進：文化観光振興、文化・民族イベントの開催等 手工芸品等の開発・プロモーション コミュニティ観光 (CBT) を含む SIT の促進：地元住民の観光への関与の促進
6	コスト	US\$ 7.68 million
7	観光開発への貢献	<ul style="list-style-type: none"> 現在観光客が少ない地域への観光客の増加 総合的な観光管理・振興の促進 快適性の改善 地元への雇用及び収入の拡大
8	遺産への影響	<ul style="list-style-type: none"> 観光客が分散されることにより遺跡への影響が軽減される 法令規制の遵守により、まちの美観が一定レベル保証されることから、持続的な保全管理が確保される
9	地域への影響 (社会経済、文化)	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民の観光業従事者の機会が拡大する (雇用、収入)。 地域住民の参加により文化が維持できる。

(2) 観光サービス改善 (Tourism Service Improvement)

1	プロジェクト名	Tourism Service Improvement Project (Technical Cooperation Project) 観光サービス改善（技術協力を想定）
2	背景	ルアンプラバン世界遺産地区及び周辺地区の観光は質の高い観光客をターゲットにしている。ターゲットグループの満足度を確保するためには観光関連サービスを改善する必要がある。
3	目的	観光客の利便性及び満足度を確保するための観光施設建設、観光サービスの改善
4	実施機関	DICT, Heritage Department
5	プロジェクトコンポーネント	<u>観光施設</u> <ul style="list-style-type: none"> 既存観光施設の改善：質の改善 観光インフラ（案内所）：案内所建設、情報システム改善、観光研修施設 <u>ソフト面</u> <ul style="list-style-type: none"> 遺産地区の制度改善：規制、マスタープラン見直し（観光収入制度） 観光業管理：観光業管理、法制度、モニタリング体制 観光従事者の人材育成（官・民） 観光サービス質の改善：サービス基準、観光サービス研修 外部機関を活用した研修 地元住民を対象にした研修
6	コスト	US\$ 13.87 million
7	観光開発への貢献	<ul style="list-style-type: none"> 観光地の情報を提供することによる観光客の利便性の向上 総合的な観光管理、民間セクターの活性化 快適な環境の提供
8	遺産への影響	<ul style="list-style-type: none"> 施設建設のデザインは遺産に影響する可能性があるので配慮する必要がある。 民間主導による遺産保全が促進される。 管理の資金を確保することによる持続的な保全管理が促進される。
9	地域への影響（社会経済、文化）	<ul style="list-style-type: none"> 観光客の増加及び滞在期間の延長による収入の増加 資金管理による資金状況の改善が自然の保全に活用される

9.7.4 セクター別の優先案件

観光開発の目標を達成するために必要なインフラ整備を、観光アクセス道路改善、EV バス停建設、都市環境整備の3つの観点からまとめた。

(1) 観光アクセス道路改善 (Access Road Improvement)

1	プロジェクト名	Tourist Site Access Improvement Project (Yen Loan or Grant Aid) 観光アクセス道路改善（円借款、無償資金を想定）
2	背景	ルアンプラバン観光ゾーンの観光資源は UNESCO 世界遺産地区を中心に分散している。観光地への利便性を改善するために観光地へのアクセスの改善が必要である。
3	目的	道路を改良することにより、観光地へのアクセスを改善する（雨季のアクセスの改善）とともに、観光客及び地元住民の利便性を向上する。
4	実施機関	DPWT
5	プロジェクトコンポーネント	<ul style="list-style-type: none"> Tourism Road Rehabilitation (Mekong Bridge Site-Ban Soun-NR13N) Connecting Road (Tourism Road above No.1 and NR13N) Rehabilitation (Irrigation Company-Wad Ban Phonsa Ad) Road Rehabilitation of Provincial Road (NR13N-Ban Ansavan) Road Rehabilitation of NR13N (Ban Phonsy-Ban Kok Gnew) Road Rehabilitation of NR2501 (Luang Prabang- Kongse Water fall) Rehabilitation

		<ul style="list-style-type: none"> • Rehabilitation of Main Street Road in Muang Ngoi • <u>Khan River bridge construction (steel bridge) US\$10 million (新規追加)</u>
6	コスト	US\$ 92.88 million
7	観光開発への貢献	<ul style="list-style-type: none"> • 観光振興と手工芸産業の促進 • チョンペット、タイへのアクセス改善による観光促進
8	遺産への影響	<ul style="list-style-type: none"> • 観光客の利便性の向上
9	地域への影響（社会経済、文化）	<ul style="list-style-type: none"> • 観光振興とアクセス改善を行うことにより、観光地への観光客の増加につながる（特に雨期）。手工芸品等の運搬や観光客の訪問による手工芸品の保全につながる。

(2) EV トゥクトゥク停留所建設（EV Tuktuk Stations）

1	プロジェクト名	Construction of EV Tuktuk Stations (Grant Aid) EV トゥクトゥク停留所建設（無償資金を想定）
2	背景	中心街は交通混雑により、安全面の問題や、大気汚染につながる。JICA は EV の導入を進めている。これら EV トゥクトゥクを促進するために、観光客や地元住民が活用できる停留所の整備が必要である。将来的には、交通規制強化とともに、EV トゥクトゥクを含む公共交通の強化を図り、P P P 事業で対応する方策の検討が必要である。
3	目的	EV トゥクトゥク導入、停留所建設及びスタッフ研修による EV トゥクトゥクサービスを改善する。
4	実施機関	DPWT
5	プロジェクトコンポーネント	<ul style="list-style-type: none"> • EV トゥクトゥク導入 • EV トゥクトゥク用停留所建設 • スタッフ研修
6	コスト	US\$ 5 million
7	観光開発への貢献	<ul style="list-style-type: none"> • 中心街のアクセス改善による観光振興の促進
8	遺産への影響	<ul style="list-style-type: none"> • 環境に優しい公共交通 • 大気汚染の改善 • トゥクトゥク停留所のデザインは遺産の雰囲気壊さないよう配慮する。
9	地域への影響（社会経済、文化）	<ul style="list-style-type: none"> • 地元住民が EV トゥクトゥクを活用することができる。

(3) 都市環境整備（Urban Environment Improvement）

1	プロジェクト名	Urban Environment Improvement Project (Loan) 都市環境整備（円借款を想定）
2	背景	都市環境の保全及び改善は、地元住民のためだけでなく、観光客に対して快適な環境（ユーティリティ、街の美観）を提供する。また遺産価値の向上のために重要である。
3	目的	<ul style="list-style-type: none"> • 観光施設（ホテル、レストラン）、住民に対して水を提供する。 • 排水や池の水質を改善することにより、快適な環境を提供し、遺産の価値を向上する。 • 廃棄物管理による遺産地区の美観を改善する。
4	実施機関	Luangprabang Water Supply State Enterprise (LPWSE), UDAA
5	プロジェクトコンポーネント	護岸景観：公園 給水

		<ul style="list-style-type: none"> 給水（施設改修）：既存の給水システムの効率性の改善、送水管新設・改修 排水、下水 遺産地区の排水・下水整備(Zone I-A, I-B)：排水施設、下水管、下水処理施設 汚泥処理：汚泥処理施設 廃棄物管理 廃棄物処分場拡張 消防設備 消火栓、消防車、消火ホース 電線地中化 遺産地区の電線地中化
6	コスト	<p>護岸整備（景観）：US\$ 0.89 million</p> <p>給水：US\$ 8.13 million</p> <p>排水：US\$ 14.89 million</p> <p>汚泥処理：US\$ 8.81 million</p> <p>廃棄物管理（拡張）：US\$ 1.00 million</p> <p>消防施設：US\$ 1.14 million</p> <p>電線地中化：US\$ 1.00 million</p> <p>合計：US\$ 35.86million</p>
7	観光開発への貢献	<ul style="list-style-type: none"> 観光客に対してきれいで快適な都市環境を提供する。
8	遺産への影響	<ul style="list-style-type: none"> きれいな街は遺産の価値の向上につながる。 施設によっては遺産に影響を与える可能性がある。規模やデザインに配慮する必要がある。
9	地域への影響（社会経済、文化）	<ul style="list-style-type: none"> 排水は池（遺産指定の池を含む）の水質の改善による生活環境の改善 廃棄物を管理することによる都市環境の改善

第10章 招聘

10.1 背景と目的

本邦招聘は、ルアンプラバンの観光振興を通じた地域開発支援を念頭に実施した。ルアンプラバンと同じく 1995 年に世界遺産に登録され、歴史的建築物の保全等、類似点の多い白川郷・五箇山の合掌造り集落や、緑豊かな環境で文化財を保全しながら観光振興を進め、重要文化財を多く有する高山市への実査を通じた地域開発の好事例の確認、自治体との意見交換を行うことを意図しての招聘である。

本招聘の目的は、以下のとおりである。

- ルアンプラバン県の観光及び公共事業関係機関が日本の世界遺産等でのまちづくりの取り組み（観光振興、遺産保全、インフラ整備、財源、住民の関与、官民の役割）を学ぶことにより、ルアンプラバンでの観光振興の実施を通じた地域振興・まちづくりの取り組みの参考にする。
- 日本の観光関係者に対してルアンプラバンの紹介を行い、日本の観光ニーズを把握し、今後のルアンプラバン観光振興・地域振興の参考とする。
- 本調査を通して議論した、観光開発戦略、優先事業の実施・実現に向けたルアンプラバン県政府の意向の確認を行い、実施体制の強化を図る。

10.2 招聘内容

本邦招聘は 8 日間で実施し、以下に示す内容で実施した。

■ 日本の事例（有識者による説明）：

- ① 東京大学：日本の伝統的建造物群保存地区等、歴史・文化資源が集積し、住民の生活と共存している具体的地域の事例紹介（妻籠宿、川越）

上記事例紹介の中では、以下の項目を主なテーマとした。

- 観光振興、住民生活環境、歴史的資源の保全のバランス
- 地域の特性に合わせた保全・保存の方策
- 保全に係る資金のマネジメント手法
- 行政、地域関係機関、民間団体、住民の観光まちづくりへの関与

- ② JATA：日本の観光振興の施策、日本側の要望

■ 飛騨高山の事例：

- ① 高山市：観光振興・地域振興全般、まちづくりの個々の施策（インフラ整備、情報センター）、保全、イベント（体験、景観、文化、季節）、地域振興・観光振興における行政の役割

■ 白川郷の事例：

- ① 白川村（教育委員会）：観光振興・地域振興全般、まちづくりの個々の施策（インフラ整備、情報センター）、保全、イベント（体験、景観、文化、季節）、地域振興・観光振興における行政の役割
- ② 一般財団法人世界遺産白川郷合掌造り保存財団：集落保存のための研究、調査に係る取り組み、集落と周辺地域発展の促進に係る取り組み、文化的建造物保全・保存の方向性、および域内駐車場の管理手法（講義・協議は白川村と合同で実施）

10.3 関連機関との協議結果

本招聘をとして行った協議結果及び日本側有識者の講義・意見交換の概要を以下にまとめる。

10.3.1 JICA 本部

(1) JICA 本部との協議

2月15日（月）10：00より、ラオス側招聘者10名は、JICA本部でJICA関係者と研修開始にあたっての協議を行った。協議の要点は、以下のとおりである。

【JICA 側より】

- 日本は国としての観光振興は他国に先んじたとは言い難いが、こと岐阜県高山市に関しては30年以上前から真剣に観光振興に取り組んでいる。同県白川村も小さい自治体ではあるが、学ぶべきものが多い。ぜひ、現地を訪れた際にはいろいろな経験を学んで欲しい。
- ラオス国はここ10年以上年率7%以上で経済成長を続けている。JICAとしては、ルアンプラバン県の観光開発に資する開発協力を続けていきたい。観光開発は持続性が重要である。日本は環境政策を得意としているので、是非この点も学んで欲しい。

【ラオス側より】

- ルアンプラバンがこの先も住みやすく気持ちよい町として発展するように観光開発を進めたい。
- 清潔・安全を担保する基礎インフラも重要である。また、法令順守等観光管理面も重視していきたい。岐阜県にて日本の事例を見られることを楽しみにしている。

(2) 東京大学教授による講義

2月15日（月）15：30より、JICA本部の会議室にて、東京大学地域デザイン研究室特任教授から、『歴史的町並みを生かすまちづくり（日本における行政と市民の協働）』というテーマの講義を受講した。

【講義のポイント】

- 妻籠宿（長野県木曽郡）や川越市（埼玉県）の事例を通して、日本における行政と市民の関係の変化を学ぶ。
- 住民の自発的な行動の歴史を学ぶ。
- 「重要伝統的建造物群保存地区」等日本の都市計画上の制度の存在を学ぶ。
- 町並み維持のための維持管理体制（所有者・事業者・行政・専門家等の関係）を学ぶ。

【ラオス側の学び】

- 町並みを守るためには、住民は不便な生活を強いられるのかと思っていたが、調査をきちんと行い、適切な対策を取れば、便利で見かけもよいものができることがわかった。
- 社会経済や文化条件の異なるラオス国でそのまま日本の事例が適用できるわけではないが、工夫をすればルアンプラバンでも同種の取り組みは可能だと認識した。

10.3.2 一般社団法人日本旅行業協会

2月15日（月）14：00より、一般社団法人日本旅行業協会（JATA）にて、海外旅行推進部&国際センター担当副部長から、日本のインバウンド旅行振興に関して『Japan Update and Our Promotional Activities』というテーマの講義を受講した。

【講義のポイント】

- 日本のアウトバウンド旅行の歴史を学ぶ。
- JATA の役割・活動事例を学ぶ。
- 日本人観光客の近年の傾向について学ぶ。
- 大使館・政府観光局等との連携について学ぶ。

【ラオス側の学び】

- 上記講義ポイントの他、日本のインバウンド旅行についても、平均滞在日数・平均費用・人気のある都市や地域等について情報を得た。
- 日本を例に、観光客を増やすための、ステークホルダー（公的役所・旅行協会・ツアー会社等）毎の役割分担を理解した。
- インバウンド旅行を振興するための日本政府観光協会の海外での取り組みについても理解した。

10.3.3 高山市

2月16日（火）14:00より、高山市の中心部に位置する「古い町並み」や「陣屋」を視察した。

その後、同日15:30より、高山市役所にて、ブランド・海外戦略部長から、高山市の取り組みに関して『A City of International Tourism, Hida Takayama』というテーマの講義を受講した。

【講義のポイント】

- 高山市の基本情報（社会経済・歴史等）について学ぶ。
- 少子高齢化による人口減少社会における高山市の観光政策について学ぶ。
- 高山市における近年の外国人旅行者の動向について学ぶ。
- まちづくり協議会等、観光振興に関する地元組織について学ぶ。

【ラオス側の学び】

- 上記講義ポイントの他、高山市内に点在する重要文化財等について、国・県・市からの補助金や持ち主の個人負担を含めて、どのように管理財源が確保されているのかを理解した。
- 地元産の食品や材料を用いた新たな地場商品開発や新たな観光地開発等により、観光客一人当たりの単価を上げる取り組みについても理解した。

高山市中心部の視察の様子は、図 10.3.1 に示すとおりである。



図 10.3.1 高山市中心部の視察の様子

10.3.4 白川村（白川郷）

2月17日（水）10：00より、白川村の遺産地区において、展望台、国指定重要文化財の和田家を訪問し、各所における観光客への対応、主要設備、特に和田家については施設運営・管理につき意見交換を行った。

その後、同日13：00より、白川村役場にて、観光振興課 課長補佐から、白川村の取り組みに関して『白川郷合掌造り集落の概要』というテーマの講義を受講した。

【講義のポイント】

- ・ 白川郷の基本情報（社会経済・歴史等）について学ぶ。
- ・ 屋根の葺き替え等におけるコミュニティの相互扶助について学ぶ。
- ・ 村内宿泊施設の増強についての考え方を学ぶ。
- ・ 世界遺産地区に観光客が一極集中する状態の打開策検討について学ぶ。
- ・ おもてなし意識の低い飲食施設の存在等今後村が対応していくべき課題点について学ぶ。

【ラオス側の学び】

- ・ 少子高齢化の実態、それに伴う伝統継承の課題について理解した。
- ・ インフラ管理や財団運営のための財源について理解した。
- ・ 観光車両の入村を制限して村有の駐車場へ誘導することで収益を生み出し、村内の家並み管理、文化財の保全等に役立っている取り組みを理解した。

白川村の視察の様子は、図 10.3.2 に示すとおりである。



出典：JICA 調査団

図 10.3.2 白川村の視察の様子

10.4 セミナー

2月19日（金）午前、我が国の旅行業に関する官民関係者を対象に、JICA 主催・発表者ラオス側招聘者で「世界遺産都市ルアンパバーン（ラオス国）-その魅力と展望-」と題するセミナーを開催した。

(1) 概要

セミナー概要は、表 10.4.1 のとおりである。

表 10.4.1 セミナーの概要（平成 28 年 2 月 19 日）

諸元	内容	備考
テーマ	「世界遺産都市ルアンパバーン（ラオス国）-その魅力と展望-」	
目的	ラオス国ルアンパバーンの観光地としての魅力、観光振興に係るルアンパバーン及び我が国支援の方針等について日本の観光業界へ情報共有すること、また世界遺産・観光地としての魅力を高めるための日本側関係者との意見交換の場を提供すること。	
主催	独立行政法人 国際協力機構（JICA）	
発表者	ルアンパバーン県情報文化観光局 次長	発表には約20分間のPPTの他、約8分間の英語ナレーション付きの観光プロモーション動画が使用された。
日時	平成28年2月19日(金) 午前10時～12時まで	
会場	ベルサール九段 4階 Room3 (東京都千代田区1-8-10住友不動産九段ビル)	
出席者	官（観光庁）2名、民（旅行会社・商社等）19名、計21名	ラオス側招聘者10名及びJICAより7名も出席した。
言語	ラオス語・日本語（同時通訳）	

注：本セミナーでは「ルアンプラバン」を「ルアンパバーン」という標記で統一した。

出典：JICA 調査団

セミナープログラムは、表 10.4.2 のとおりである。

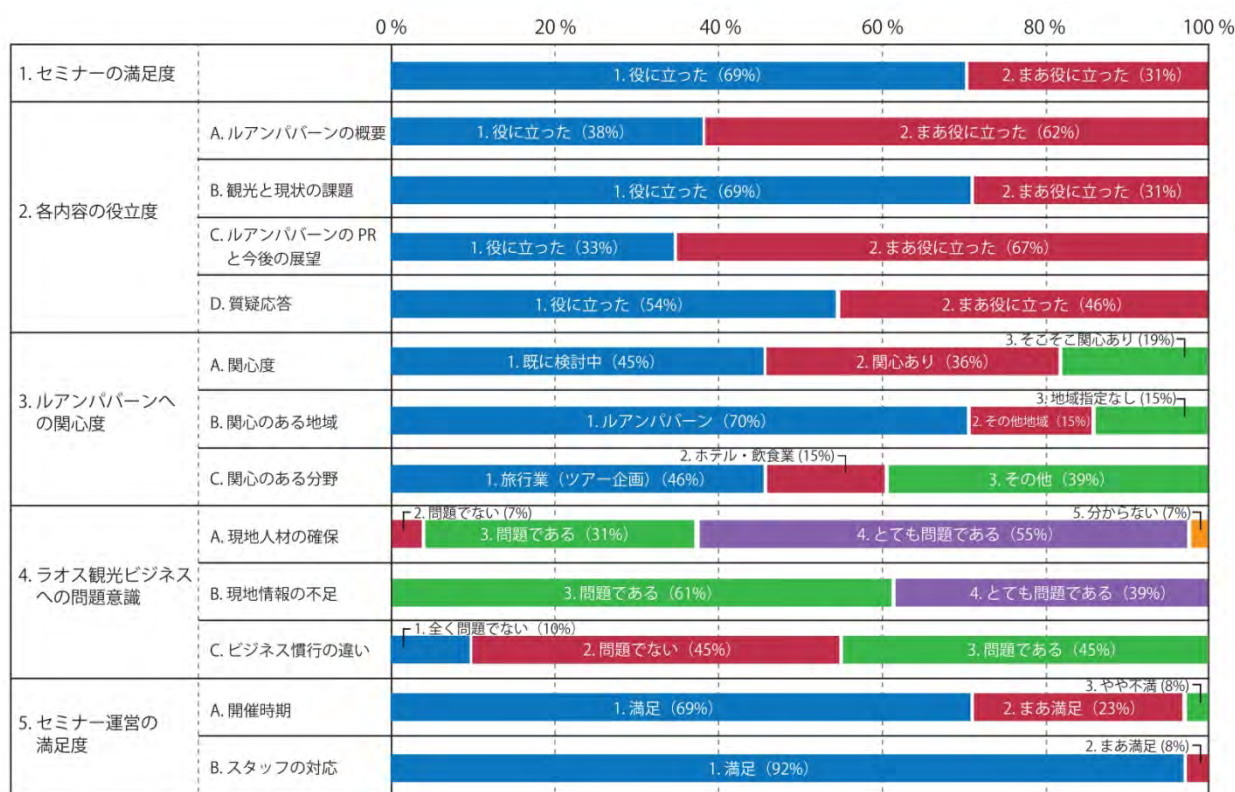
表 10.4.2 セミナープログラム

No.	時間	プログラム	発表者
1	9:30	開場	-
2	10:00 - 10:10	開会挨拶	ルアンプラバン県副知事
3	10:10 - 10:50	プレゼンテーション 「世界遺産都市ルアンパバーン-その魅力と展望-」	ルアンプラバン県情報文化観光局次長
4	10:50 - 11:10	コーヒーブレイク	-
5	11:10 - 11:50	質疑応答	ラオス側招聘者及びセミナー出席者
6	11:50 - 12:00	閉会挨拶	JICA ラオス事務所長

出典：JICA 調査団

(2) 出席者所感

出席者にはセミナーの所感に関する簡単なアンケートを実施した。結果は、図 10.4.1 に示すとおりである。



出典：JICA 調査団

図 10.4.1 セミナー出席者の所感

10.5 ラオス側の我が国支援に係る意向の確認

招聘期間の最終日にあたる 2 月 19 日（金）14：00 より、JICA 本部にて、招聘期間における学びを振り返りながら、ラオス側と JICA 間で協議が行われた。

JICA 側は、ルアンプラバンを含むラオス国北部の観光開発は重要である一方で、開発の方向を間違えば、今あるすばらしい資源は簡単に失われてしまう可能性もあることを、ラオス側に今一度考えて欲しい、また、今後ラオス国への協力として、①人材育成、②インフラ整備の調査を予定していることに鑑み、ラオス側へ引き続き協力して欲しいと依頼した。ラオス側は、これを承知した。

ラオス側招聘者各々の所感は、表 10.5.1 のとおりである。

表 10.5.1 招聘者の所感（平成 28 年 2 月 19 日）

招聘者		所感
1	ルアンプラバン県副知事	全体を通して有意義な招聘であった。引き続き日本の協力を得られるよう、帰国後、ラオス側の関係者調整をしたい。
2	ルアンプラバン県公共事業局長	白川村の住民参加型開発はすばらしい。白川村で宿泊施設が充実するとなおよい。
3	ルアンプラバン県遺産局課長	白川村は2009年（最初の訪問時）に比較して一層美しい村になっていた（田んぼの修景や電線地中化等）。日本から引き続きインフラ・防災に関する技術を学びたい。
4	ルアンプラバン県水道公社長	日本はきれいな水が蛇口から飲めるのがすばらしい。2013年以来のJICAの協力には非常に感謝している。一層の協力を期待する。
5	情報文化観光省観光開発局長	日本には2000年から来ているが、成田空港から観光受け入れの体制ができていることに感心する（多言語対応・諸設備等）。また、高山市の観光開発戦略はよくできている。
6	ルアンプラバン県計画投資局長	開発と保全のバランスが重要と感じた。人材教育に力を入れたい。
7	ルアンプラバン県情報文化観光局次長	高山市は観光客の受け入れ態勢が非情によい。一度でなく二度三度来てみたくなる場所である。ルアンプラバンと姉妹都市提携ができるとよい。
8	ルアンプラバン県都市開発事業局次長	ルアンプラバンは環境悪化問題に対応していかなければならない。国へ戻ったら、また今後の日本との協力を含めて関係者と相談したい。
9	ルアンプラバン県旅行業協会長	高山市・白川村を含む日本の住民の自発的な活動や官民の協力体制に感心した。ルアンプラバンでも是非参考にしたい。

出典：JICA 調査団

第11章 協力実施上の留意点

11.1 協力実施上の留意点のまとめ方

ルアンプラバン県で観光振興関連事業を実施する際の留意点は、JICA 国別分析ペーパーにまとめられている「協力実施上の留意点」、UNESCO 世界遺産としての留意点、実施体制の構築の3つの観点から整理する。

11.2 我が国支援方針との整合性

(1) 先方の自立発展性を考慮に入れた案件形成

ラオス政府財政の特徴として、全セクター共通的に国家予算の大半が経常予算に割り当てられ、開発予算の多くを開発パートナーに依存していることが挙げられる。特に維持管理に割り当てられる予算や、そのための職員の確保、研修機会の提供が課題となる場合が多い。プロジェクト計画時点でこのような状況を予め想定の上、プロジェクト形成を行う必要がある。

(2) 開発パートナーや民間事業の動向についての事前の情報収集

近年、中国やタイ、ベトナム等の新興開発パートナーによる開発協力の台頭が見られる他、電力や上水分野等民間企業の参入が顕著に見られるセクターもある。他方、ラオス政府の調整能力は高いとは言えないため、JICA としても、将来のプロジェクトの重複を避けるため、プロジェクトの計画時点から十分な情報収集を行うとともに、実施中も実施機関を通じたモニタリングを、これまで以上に重点的に行っていく必要がある。

ルアンプラバン県の観光開発においては、ADB がルアンプラバン県を対象にインフラ整備や能力強化を行っている他、AFD が世界遺産地区のインフラ整備や建物修復を行っている。プロジェクトの詳細を検討する際には、特に ADB と AFD との情報共有に留意する。

(3) 協力スキームの効果的な活用

ラオスは、有償資金協力、無償資金協力、技術協力、民間連携、市民参加協力等、ほぼすべての協力スキームが活用可能な国である。それぞれのスキームの特徴を十分に考慮に入れた上で、プログラムレベルで開発効果を最大限発揮できるベストミックスを考えていくことが重要である。

ルアンプラバン県の観光開発においては、「文化・伝統的生活様式」の維持が重要課題の一つとして位置づけられている。文化・生活様式の分野においては、民間連携、市民参加協力等の可能性について検討することが重要である。

11.3 UNESCO 世界遺産価値の維持

ルアンプラバン県の観光開発を行う際には、UNESCO 世界遺産への影響に配慮する必要がある。UNESCO の関心事項は、世界遺産の価値・景観の維持のみならず、バッファゾーンやその周辺地域で実施する事業において、世界遺産の景観（世界遺産地区からみえるか、みえないか）や間接的な影響についても配慮する必要がある。特に遺産保全に対する配慮を行わないと、事業の遅れ、 unnecessary コスト増につながる恐れがあるため、手戻り等のリスクを

避ける必要がある。協力案件形成を行う際には以下の点に配慮する。

- 遺産専門家の配置：案件形成の段階から遺産専門家を配置し、遺産への配慮事項を案件に含める（観光案内所のデザイン、道路建設等による間接的な影響、施設のデザイン、自然環境への影響、等）
- UNESCO 及び ICOMOS の関与：世界遺産地区で事業を行う際には、UNESCO の委員会に議題としてあげられる。その際に ICOMOS が中心的役割を担う。支援の大枠が決まった段階から ICOMOS と情報共有をし、遺産配慮に必要な手続きについて協議する。
- HIA (Heritage Impact Assessment)の実施：案件によっては HIA が義務付けられている。世界遺産地区を対象とした事業はほぼ HIA の対象になる。世界遺産地区以外での事業も HIA の対象となる場合がある。遺産専門家や ICOMOS 等と情報共有をし、HIA 必要の有無を確認する。また、HIA の実施後、景観や遺産等に配慮するためデザインやコストの変更を行う必要性が出てくるため、HIA は事業実施の前（たとえば F/S 調査時）に実施することが望ましい。また、HIA の費用も F/S 調査費に含める必要がある。

11.4 観光セクターの目標達成のための支援の総合的な実施

観光振興は、観光施設整備、インフラ整備（道路、都市環境）、観光商品開発、観光サービス改善、人材育成等、様々な分野が関係している。また観光振興を通して、歴史・文化・自然の保全と活用を図る必要がある。

我が国支援を行う際には、歴史・文化・自然の保全に配慮しながら、これら資源を観光振興に活用するとともに、インフラ・施設整備、人材育成による観光振興を行うことが望ましい。

11.5 観光客増加によるネガティブインパクトへの配慮

ルアンプラバン観光開発戦によると 2020 年の観光客数の目標は約 70 万人である。これは現在の約 2 倍の観光客数であり、ネガティブインパクトに配慮する必要がある。観光開発支援を行う際には、適正な観光客数について検証する他、ルアンプラバン、チョンペット、ゴイ各郡を対象にした観光振興・商品開発を行い観光客を分散する等、ネガティブインパクトを軽減するための対策を検討する必要がある。

11.6 実施体制の構築

観光振興は様々なセクターが関係している。ルアンプラバン県政府でも観光局、遺産局、公共事業運輸局の他、様々な部局が関係する。事業を効率的に実施するためには、まずはルアンプラバン県の知事（副知事）の積極的な関与が重要である。また、国レベル或いは県レベルで PIU やステアリングコミッティを設置する必要がある。ルアンプラバン県で PIU を設置する際には、知事（副知事）直下に設置することが望ましい。これにより関連部局との調整が可能になる。特に道路等のインフラ整備は技術面の関与が必要になるので、公共事業・運輸局等の関連部局の関与が不可欠である。

一方、PIU の設置は、事業の規模や内容によってラオス側と協議をして決める必要がある。ルアンプラバン県の事業管理能力（技術面、運営面）を考えると、国の関与は不可欠である。PIU 設置や調整機能を持つステアリングコミッティの設置を考える際には、事業の運営能力に十分に配慮して決める必要がある。

PIUはODAによる観光振興事業の実施機関として、ルアンプラバン県政府の直轄組織として施設設計及び施工の期間中に、下記のタスクの実施に関する実行機関となる。

1) 事務的業務

- ① 会議やイベントの調整及び議事録作成
- ② 事務機器、車両等の調達
- ③ リエゾン業務

2) 人事業務

- ① 給与体系、福利厚生事項
- ② 業務環境整備
- ③ 人事業務（従業員、ドライバー等）
- ④ 教育・訓練

3) 財務業務

- ① 事業に係る財務管理
- ② 請求書・領収書の評価
- ③ 支払いの許可と支払いの実行
- ④ 会計簿の作成・管理
- ⑤ 銀行関連業務

4) 環境管理業務

- ① パブリックコンサルテーションの計画と実施
- ② 移転と補償の計画と実施
- ③ EIA 報告書の作成

5) 技術業務

- ① コンサルタント及びコントラクターの調達
- ② 設計図書及び図面の承認
- ③ 設計、及び施工監理
- ④ 施工図書及び図面の承認

施工が完了した際には、各施設の管轄機関に移行し、各管轄機関が運営維持管理を実施することになる。

<管轄機関>

- | | |
|-----------------|--------|
| ・ 遺跡保全 | : 遺産局 |
| ・ 観光情報センター、人材育成 | : DICT |
| ・ 道路、橋梁、下水排水等 | : DPWT |
| ・ 給水 | : 給水公社 |
| ・ メコン河沿いの遊歩道整備 | : UDAA |

11.7 本邦招聘を踏まえた留意点

本邦招聘に実施された講義の受講や高山市・白川村踏査を経て、ラオス側招聘者は、特に次の点を日本から学びたい、あるいは日本から協力して欲しいと感じている可能性が高い。今後の調査では、これらの点に留意して、より詳細にラオス側と議論を重ねていく必要がある。

1) 人材育成

- ① 観光管理に係る人材の育成（官側）
- ② 観光サービスに係る人材の育成（ガイド・宿泊施設のフロント・飲食施設）
- ③ 遺産管理及びインフラ管理に係る人材の育成
- ④ 住民参加型開発の仕組み作り

2) インフラ整備

- ① 飲料水・給水
- ② 排水・汚水処理
- ③ ごみ処理
- ④ 道路整備
- ⑤ 電線地中化等、観光インフラの充実化

第12章 結論・提言

12.1 結論

本調査の結論を以下に示す。

- 観光開発コンセプトの提案

本調査を通して行った関係機関との協議及びワークショップを通して観光開発コンセプトを提案した（世界からルアンプラバンを訪れる中～上流階級をターゲットに歴史・文化・自然体験を通して解放のくつろぎ快適空間を提供する）。

- 観光開発のキーワード

観光開発のキーワードの提案と観光開発との関連性の協議を行った。

- 保全：歴史、文化、自然、伝統的生活様式
- 整備：インフラ、施設
- 品質：観光サービス、施設管理、都市サービスの質
- 啓蒙：文化・遺産保全の重要性、観光サービス、都市環境改善
- 調整：組織、セクター、ステークホルダー
- 創造：観光商品の多様化、観光振興

- 観光開発関連のロングリストの整理

ラオス側との協議をもとにロングリストを整理した。

- 観光振興：施設、人材育成、法制度
- 道路・交通：アクセス道路、公共交通
- 都市環境・サービス：河岸整備、上水道、下水道、排水、廃棄物、消防施設

- 観光開発における案件の整理

観光開発の課題、観光開発コンセプト、観光開発のキーワードを基に観光開発の案件を提案した。

- 総合的観光開発（ルアンプラバン）：観光施設、アクセス道路、都市サービス（給水、消火施設、下水・排水、排気物、電線地中化）、遺産地区を中心とした法制度整備、観光商品開発人材育成
- 総合的観光開発（ゴイ県）：道路、観光案内施設、観光商品開発
- 観光商品開発：観光商品の多様化、地域文化の促進、手工芸品等の開発・プロモーション、コミュニティ観光（CBT）の促進
- 観光開発改善：観光施設・インフラ、制度改善、観光業管理、人材育成、サービス改善
- 観光アクセス道路改善：道路
- EV トゥクトゥク停留所建設：EV トゥクトゥク、停留所、人材育成
- 都市環境整備：護岸整備、給水、排水・下水、廃棄物管理、消防施設、電線地中化

12.2 提言

今後、我が国支援を進める上での提言を示す。

- 世界遺産地区及び周辺地域観光開発の実施

ルアンプラバン世界遺産地区及び周辺地区の観光振興において、我が国の支援がより観光振興の目標に貢献するためには、総合的な支援を行う必要がある。総合的な支援の提案のポイントを以下に示す。

- 観光振興・地域振興は多くのセクターが関係しているので、観光振興・地域振興における重要セクターを含める。
- ハード面とソフト面の支援を含める。
- ルアンプラバン県側で計画され、かつワークショップを通して観光開発における優先案件であると提案されたプロジェクトを含める。

これらポイントに基づいて、観光振興に寄与する円借款による支援として、以下のプロジェクトパッケージの実施を提言する。

ラオス国ルアンプラバン観光開発情報収集・確認調査
最終報告書

区分	プロジェクト	担当実施機関	プロジェクトの概要	内訳および事業費 (単位: US\$million) 注: ラオス側が提案したコストに基づいた経 験測による検討段階での金額				代替事業 区分	
				ソ フ コ ン	機 材 供 与	施 設 建 設	計	無 償	有 償
1.観光施設	(1) 観光案内所	DICT	空港の観光インフォメーションセンター・ルアンプラバンにおけるインフォメーションセンターの改修や資機材調達を行う。		0.39	1.50	1.89	★ 一般	
	(2) 小規模施設（公共トイレ、アクセス路の路面舗装、駐車場、緑地、ビューポイント、案内版）	DICT	現在の中心的な観光地における小規模な観光施設（公共トイレ・案内版・駐車場等）建設を行う。			5.32	5.32	★ 一般	
	(3) 観光人材センター	DICT	ルアンプラバン・ゴイ・シェンゲン・チョンベット4郡に対して観光業に携わる人材を強化する。これらの郡はルアンプラバン県の観光の中心となっている郡であり、人材育成は特に喫緊の課題である。ルアンプラバン郡における公的な人材育成センターの建設も含む。		0.89	2.00	2.89	★ 一般	
2.交通	(1) Tourism Road Rehabilitation (Mekong Bridge Site-Ban Soun-NR13N)	DPWT	観光道路沿いの手工芸品店や土産品店が集中する未舗装（砂道路）の舗装を伴う道路改修を行う。			4.07	4.07		★
	(2) Connecting Road (Tourism Road above No.1 and NR13N) Rehabilitation (Irrigation Company-Wad Ban Phonsa Ad)	DPWT	観光道路と国道13号線北を連結する道路の改良整備を行う。			0.48	0.48		★
	(3) Road Rehabilitation of NR13N to 4 Lane (Airport-Luang Prabang)	DPWT	国道13号線北の国際空港から市内への主要幹線アクセス道路の拡幅（2車線から4車線）を行う。			27.50	27.50		★
	(4) Khan River bridge construction (steel bridge)	DPWT	ルアンプラバン市街地とカーン河を挟んだ対岸を結ぶ鉄橋建設を行う。			10.00	10.00		★
3.都市環境/都市サービス	(1) 給水（既存事業改修）	LPWSE	老朽化した送水管の付け替えを含む既存の給水システムの改良を行う。 この事業によって給水の水質の向上することにより、衛生環境の改善が期待される。また、配水管における漏水や故障が軽減し、安定した給水の実施と水道料金収支の改善が期待される。			8.13	8.13		★
	(2) 消火施設	UDAA	消火栓、小型消防車両、放水銃、ドレンチャーなどの消防設備を行う。世界遺産の施設等の防火対策が強化される。			1.14	1.14		★
	(3) Zone Iの排水・下水	UDAA	Zone I-A: 既存の排水下水システムが良好に機能するよう維持管理の充実を図る。污水管きょ敷設: 12 km、分散型污水处理設備: 3カ所を含む。Zone I-B: 中小河川・湿地への維持管理用通路の設置（アクセスの改善）。簡易污水处理設備+污水管きょ（14km）、湿地を利用した自然浄化施設（2カ所、計8,600 m ² ）、中小河川・湿地の整備、水環境改善・水辺空間の創出（10 km）、雨水排水路（3 km）、汚泥処分場（Zone I）を含む。 Zone I-A: US\$ 9.34 million Zone I-B: US\$ 5.55 million Sludge Treatment: US\$ 8.81 million			23.70	23.70		★
	(4) 護岸整備（景観）	UDAA, Heritage Dept.	河岸利用規制・改善は、メコン河（左岸）: 河岸延長2.3 km、カーン河（両岸）: 河岸延長3.4 km（=1.7 km×2）、河川沿い公園整備: 3区間、河川沿い駐車場整備: 6区間、河川沿い歩道整備: 7区間を含む。			0.89	0.89		★
	(5) 廃棄物処分場（拡張）	UDAA	廃棄物処分場の拡張事業。施設規模を15haから20haにする。			1.00	1.00		★
	(6) 電線地中化	Heritage Dept.	遺産地区の電線の地中化を行う。			1.00	1.00		★
4.遺産地区の法令整備	(1) 遺産地区の制度改善	DICT	世界遺産地区における法制度の充実であり、持続可能な観光開発を法的側面から可能にする。	1.67			1.67	★ 技協	
5.観光商品開発	(1) SIT (Special Interest Tourism)	DICT	・「文化」はルアンプラバン観光資源の三本柱のひとつであり、地域・伝統文化を活かした観光アトラクションの開発を行う。 ・CBT（コミュニティ・ベースト・ツーリズム）を初めとして、地元住民が広く観光業から収入の得られる観光商品や社会システムを開発する。	5.98			5.98	★ 技協	
	(2) 催事	DICT							
	(3) 手工芸品	DICT							
6.人材育成	(1) 観光業管理	DICT	・持続可能な観光開発のための、観光計画策定や観光管理に十分な知識を備えた総合的な人材の育成を行う。 ・CBT（コミュニティ・ベースト・ツーリズム）を初めとして、地元住民が広く観光業から収入の得られる観光商品や社会システムを開発する。	2.77			2.77	★ 技協	
	(2) 観光従事者の人材育成（官・民）	DICT							
	(3) 地元住民を対象にした研修	DICT							
計				10.42	1.28	86.73	98.43	20.52	77.91

備考: DICT (Department of Information, Culture and Tourism, DPWT (Department of Public Works and Transport)
LPWSE (Luang Prabang Water Supply Enterprise), UDAA (Urban Development Administration Authority)

2. 事業費内訳集計

(1)	ソフトコンポーネント費	10.42	百万ドル
(2)	機材費	1.28	百万ドル
(3)	施設建設費	86.73	百万ドル
合計		98.43	百万ドル

- 実施体制の検討

事業実施の際には、PIU（Project Implementation Unit）を設立する。通常、プロジェクトサイト（本件の場合はルアンプラバン県）と中央政府の両方にプロジェクト管理のための組織を設置する。設置の場所はプロジェクトの規模や技術面等により異なる。PIU の設置はラオス側と協議し決める必要がある。

また、ラオス国はプロジェクトの実施に際して、技術面及び運営面の能力が高いとはいえない。ラオス国ではすでに 3 件の円借款を実施しているが、技術面ではコンサルタントに頼る傾向がある。事業実施の際には、コンサルタントの割合を多くする必要がある。

- 本邦招聘（本邦研修）

今般の本邦招聘は、ラオス側招聘者にとって大きな学びがあった。特に、地域の価値を守るために住民自らが行動を起こす取り組みやその結果として今なお数百年前の建物がよい状態で保存され観光業の発展に寄与している現実等、日本での訪問先で見たり聞いたりして直に触れる生き生きとした情報は、ラオス側要人の意思決定にも大きく影響を与え得る。今後の技術協力の中でも、可能な限り、本邦招聘（本邦研修）を取り入れるべきである。

以上

添付資料-1

1. 日本の地方及びルアンプラバン世界遺産地区に類似した条件の海外の観光地における成功例

1.1 日本：白川郷・五箇山の合掌造り集落（英：Historic Villages of Shirakawa-go and Gokayama）

1.1.1 白川郷の概要

白川村は、岐阜県北西部に位置し、急峻な山々に囲まれた人口1,700人程（H25年現在）の農山村である。村の面積約356.km²のうち95.7%を山林が占めており、その豊かな森林を活かして白山国立公園・天生県立自然公園等の公園がある。村は日本有数の豪雪地帯であり、かつて秘境と言われてきたのは、この豪雪が冬季に周辺との交流を遮断したからである。夏は涼しく過ごしやすい反面、冬は一面の雪に覆われる。

白川村荻町地区は、庄川が作り出した河岸段丘上に位置する集落である。同集落に見られる、克雪・煙硝作り・養蚕を同時に実現するために生まれた合掌造



り家屋は、日本で最も合理的な発展を遂げた民家のひとつとして高く評価されている。これら合掌造り家屋は、周囲の建造物や農地、自然環境と一体となって継承されており、1976年には、国の重要伝統的建造物群保存地区に指定された。その後、1995年には、五箇山（富山県南砺市）の相倉・菅沼集落と共に「白川郷・五箇山の合掌造り集落」として世界遺産に登録された。

（以上、白川村世界遺産マスタープランを参考にした。）

白川村の様子は、図 A.1.2 のとおりである。



出典：白川村 HP 及び白川村世界遺産マスタープラン概要版

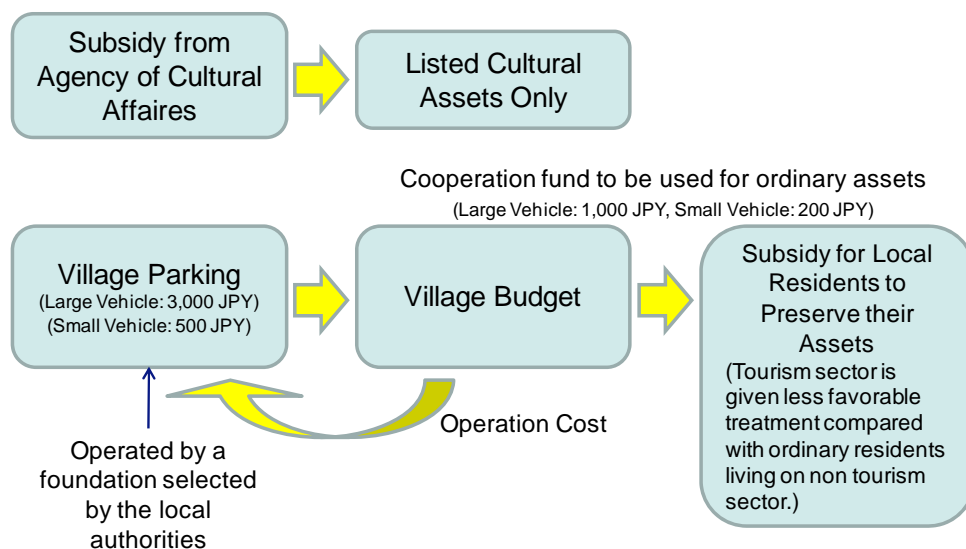
図 A.1.2 白川村の様子

1.1.2 財務的な持続可能性確保のための白川村の取り組み

遺産地区の環境を保全し、また、町並みの持続的な保全を財務的により堅実なものとするため、白川村では次のような取り組みを行っている。

- 2008年に東海北陸自動車道が全線開通したおかげで車両アクセス飛躍的に向上した。その結果、1996年77万人だった観光客は、2013年150万人にまで増加した（20年間で2倍）。一方で、白川郷は通過型の観光地となり、滞在時間が短くなった（平均1時間）。
- 世界遺産地区の交通対策として、2009年9月より大型車両通行規制（中心部900m、9:00-16:00）、2014年4月より観光車両乗入制限（中心部1000m、9:00-16:00）を実施している。
- 村内への車両の乗り入れを制限し、3カ所の有料駐車場から駐車料金として、普通車500円、大型車3,000円を徴集している。そのうち普通車200円、大型車1,000円を世界遺産集落保存協力金として合掌基金に組入れている。
- すなわち、駐車場世界遺産保存協力金の一部（H26年度1,350万円）が、一般財団法人世界遺産白川郷合掌造り保存財団の歳入に組み入れられている。これは、同財団の歳入の10%を占めており、集落整備事業及び運営費補助金に利用されている。

徴収した駐車料の一部が保全区域住民に還元されるまでの仕組みは、図A.1.3に示すとおりである。



出典：白川村への聞き取り調査をもとに JICA 調査団が作成。

図 A.1.3 駐車場料金の一部が住民に還元される仕組み

1.2 ベトナム：ホイアンの古い町並み（英：Hoi An Ancient Town）

1.2.1 ホイアンの概要

ベトナム国クアンナム(Quang Nam)省にあるホイアンは、人口約12万人の中都市で、同国中部の中心都市ダナン(Da Nang)から30km南に位置している。

トゥーボン(Thu Bon)川のクアダイ(Cua Dai)河口に位置しているホイアンは、15世紀から17世紀までにファイフォー(Faifoo)という名前が付けられ、インド・中国・日本・インドネシア・ポルトガル・イタリア等との東西貿易都市として栄えた歴史を持つ。

ホイアン旧市街には、来遠橋（日本橋）や町並み等、この時期朱印船で活躍した日本人商人等外国との文化交流が行われたことを示す多くの証拠が今も残っている。また、ホイアン旧市街には、多くの伝統的職業、風俗習慣、民謡、文学、飲食文化が保存されている。

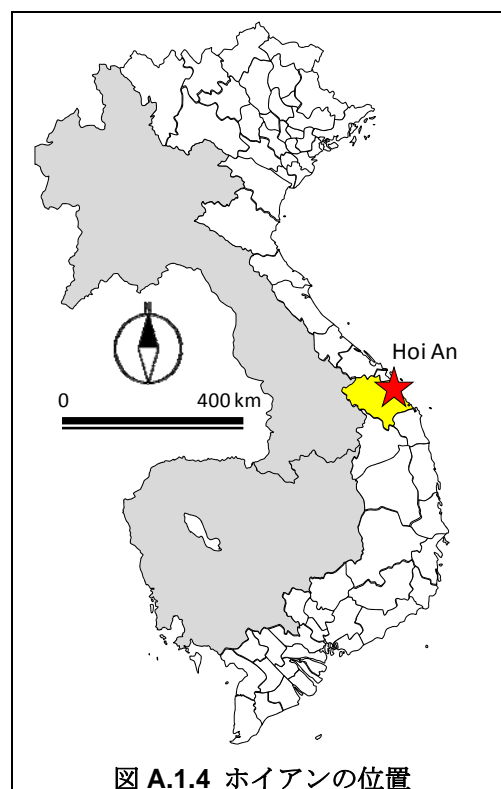
具体的には、来遠橋（日本橋）の他、福建会館（1773年に建設された華人会館）、広肇会館（1786年に創建された広東系中国人会館）、海南会館、潮州会館、クアンコン寺（関帝廟）、クアンタンの家（約380年前に建てられた中国家屋）、タンキーの家（ベトナム文化省から世界文化遺産登録前に「ベトナム社会主義共和国の国宝第1号」に指定）、フーンフンの家等の見どころがある。

現在、陰暦の14日に、ホイアン旧市街では電灯の使用やモーターバイクの乗り入れが禁止され、ベトナムでもまだ珍しい「歩行者天国」となっている。

ホイアン旧市街は、1999年にユネスコにより世界文化遺産として認定された。

（以上、ベトナム国文化・スポーツ・観光省 HP を参考にした）。

ホイアン旧市街の様子は、図 A.1.5 のとおりである。



出典：JICA 調査団

図 A.1.5 ホイアン旧市街の様子

1.2.2 財務的な持続可能性確保のためのホイアンの取り組み

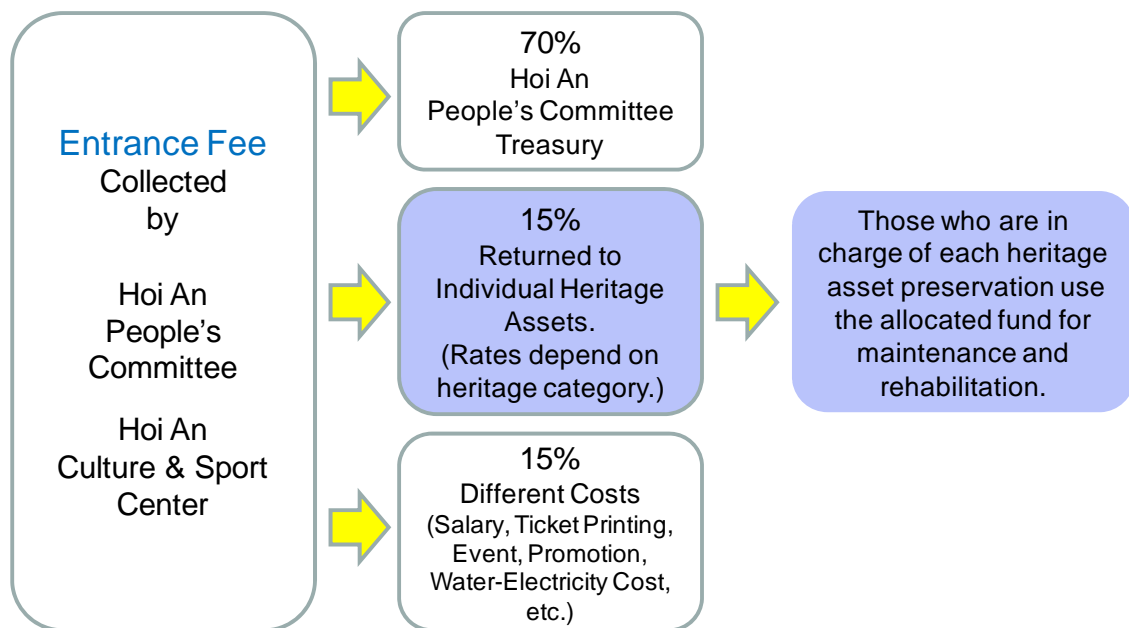
遺産地区の環境を保全し、また、町並みの持続的な保全を財務的により堅実なものとするため、ホイアンでは次のような取り組みを行っている。

- 時間帯により、旧市街に車両の乗り入れを禁止し、散策する歩行者の快適性を確保する。
- 車両禁止区域の境界上の路上にブースを設置し、観光客から入域料（12 万ドン/人/24 時間有効）を徴収する。

- 観光客は、入域料の支払いと同時に複数のチケットを受け取り、旧市街に点在する旧家等の観光地に入場する際にチケットで支払いをする。
- 旧家等は、観光客から徴収したチケットを集めて当局に提出して補助金を受け取り、歴史的な建築物の保全に役立てる。

徴収した入域料の一部が保全区域住民（公開旧家等）に還元されるまでの仕組みは、図 A.1.6 に示すとおりである。

入域料の 70% は、ホイアン人民委員会の公庫に入る。15% は、職員の給料・チケット印刷・イベント・プロモーション・光熱水道費等各種コストに使用され、残る 15% がチケットと引き換えに住民に還元される。



出典：ホイアン人民委員会への聞き取り調査をもとに JICA 調査団が作成。

図 A.1.6 入域料の一部が住民に還元される仕組み

添付資料-2

ルアンプラバンワークショップ参加者リスト (7月16日)

Survey on Tourism Development in Louang prabang, Lao PDR

Participants List (Workshop, Luang Prabang, July 16)

Date: 16 July 2015

Location: Chitchalern Hotel (Louangprabang)

Time: 13:30 - 15:30

Register

<u>No</u>	<u>Position</u>	<u>Organization</u>
1	President	District Governor
2	Technician	Province Governor
3	Chief of Economic Department	Suphanuvong UNI
4	JICA Survey Team	Almec Corporation
5	Chief Engineer	DPWT
6	Duputy Director	Luanf Prabang WSE
7	Deputy Director	DPL
8	Sector Chief	DPL
9	Deputy Director	Hotel Association
10	Rep	JICA
11	Sector Chief	DICT
12	Deputy Director	UDDA
13	Deputy Head of Division	DICT
14	Agency Chief	DICT
15	Director of Tourism Association	Tourism Association
16	DOFA	Foreign Affair
17	Assistant	
18		
19	JICA Survey Team	JICA
20	Water supply and servage	JICA Study Team
21	Tourism Development	JICA Study Team
22		JICA Study Team
23	Assistant	

ビエンチャンワークショップ参加者リスト（7月23日）

Survey on Tourism Development in Louang prabang, Lao PDR

Participants List (Workshop, Vientiane, July 23)

Date: 23 July 2015

Location: Lanexang Hote (Vientiane)

Time: 13:30 - 15:30

Register

<u>No</u>	<u>Position</u>	<u>Organization</u>
1	Translator	Company
2	Manager	Haysoke Travel
3	Rep	JICA
4	Team Leader	JICA SURVEY TEAM
5	Tourism Development	JICA SURVEY TEAM
6	Vice Division Header	The Ministry of Pulic Works and Transport
7	President	Lao Nat Com for UNESCO
8	Division Header	Department of Tourism Development
9	Vice Director	Lao Hotel and Restaurant Association
10	APO	JICA
11		Lanith

ワークショップ参加者リスト（10月2日）

No.	Organization
1	HOTEL
2	LOUANGPRABANG WSE
3	SOUPHANOUVONG UNIVESITY
4	DICT
5	DICT
6	DICT
7	DICT
8	JICA HQ
9	JICA HQ
10	JICA HQ
11	JICA LAOS
12	UDAA
13	UDAA
14	LUTA
15	JICA LAOS
16	DICT
17	DPWT
18	JICA SURVEY TEAM
19	JICA SURVEY TEAM
20	JICA SURVEY TEAM
21	JICA SURVEY TEAM

セミナー参加者リスト（10月7日）

No.	Organization
1	UDAA
2	HERITAGE OFFICE
3	UDAA
4	DICT
5	LPB GOVERNOR
6	DICT
7	DPWT
8	JICA SURVEY TEAM
9	TOURISM DEPARTMENT
10	TOURISM DEPARTMENT
11	JICA HQ
12	JICA HQ
13	JICA SURVEY TEAM
14	JICA SURVEY TEAM
15	EMBASSY OF JAPAN
16	MOF
17	MPWT
18	JRISS
19	JRISS
20	KEI
21	JICA LAOS
22	JICA LAOS
23	JICA LAOS
24	JICA LAOS
25	JICA LAOS
26	ADB
27	LANITH
28	APD
29	JICA SURVEY TEAM
30	MPWT
31	JICA HQ

添付資料-3

JICA 主催セミナー「世界遺産都市ルアンパバーン（ラオス国）-その魅力と展望-」 （平成 28 年 2 月 19 日）アンケート用紙

主催機関のサービスの向上に向けて、アンケートにご協力をお願いします。							
JICA主催セミナー「世界遺産都市ルアンパバーン（ラオス国）-その魅力と展望-」 【2016年2月19日（金）10:00～12:00 於：ベルサール九段】 ■ご所属先をご記入ください。（参加者のお名前は不要です）							
ご所属	□ 企業・団体	会社・団体名					
		部署・部門名					
	□ 個人参加						
質問1. 今回のセミナーは皆様のお役に立つものでしたか？ 以下の1～4から適当なものをお選びください。 また、その理由をご記入ください。（総合評価）							
<input type="checkbox"/> 4. 役に立った <input type="checkbox"/> 3. まあ役に立った <input type="checkbox"/> 2. あまり役に立たなかった <input type="checkbox"/> 1. 役に立たなかった							
理由							
質問2. 講演内容について、どの程度お役に立ったかお選びください。 また、その理由をご記入ください。							
項目		4 立役 つに た	3 立役 ま つに あ た	2 かた 役 あ つに ま た 立 り	1 か立 役 あ つに た な	理由	
A. ルアンパバーンの概要	→	4	3	2	1		
B. 観光の現状と課題	→	4	3	2	1		
C. ルアンパバーンのPRと今後の展望	→	4	3	2	1		
D. 質疑応答	→	4	3	2	1		
質問3. ラオス国における観光関連のビジネスへのご関心について、以下の1～5から適当なものをお選びください。 また、3～5を選んだ方は、ご関心のある地域およびビジネス分野について選択、ご記入ください。							
<input type="checkbox"/> 5. 既に検討中 <input type="checkbox"/> 4. 関心あり <input type="checkbox"/> 3. そこそそ関心あり <input type="checkbox"/> 2. そこまで関心はない <input type="checkbox"/> 1. 関心はない							
ご関心のある地域	<input type="checkbox"/> 1. ルアンパバーン <input type="checkbox"/> 2. その他地域() <input type="checkbox"/> 3. 特定の地域への関心はない						
ご関心のあるビジネス分野	<input type="checkbox"/> 1. 旅行業(ツアー企画) <input type="checkbox"/> 2. ホテル、飲食店等 <input type="checkbox"/> 3. その他()						
質問4. ラオス国における観光ビジネスについて、以下の項目がどの程度問題と認識されているかお選びください。また、その理由をご記入ください。							
項目		4 い題 全 で く な 問	3 な 問 い 題 で	2 あ 問 る 題 で	1 あ 問 と る 題 で も	0 な 分 い か ら	理由
A. 現地人材の確保	→	4	3	2	1	0	
B. 現地情報の不足	→	4	3	2	1	0	
C. ビジネス慣行の違い	→	4	3	2	1	0	
D. その他 (右側に具体的に記入ください。)	→	4	3	2	1	0	
質問5. 今回のセミナーの運営について、満足度をお選びください。また、その理由をご記入ください。							
項目		4 満 足	3 満 ま 足 あ	2 不 や 満 や	1 不 満	理由	
A. 開催時期、時間について	→	4	3	2	1		
B. スタッフの対応について	→	4	3	2	1		
質問6. その他、主催機関のサービスについてのご意見・コメントなどございましたら、ご記入ください。							
このアンケート調査の結果は、主催機関の事業活動の評価及び業務改善、事業フォローアップのために利用いたします。 ご協力ありがとうございました。							